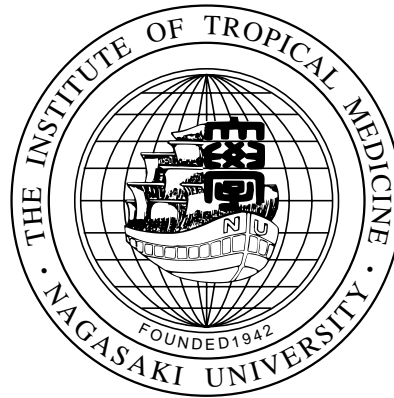


長崎大学熱帯医学研究所

年 次 要 覧

平成13年度
(2001)



長崎大学熱帯医学研究所
平成15年(2003) 1月

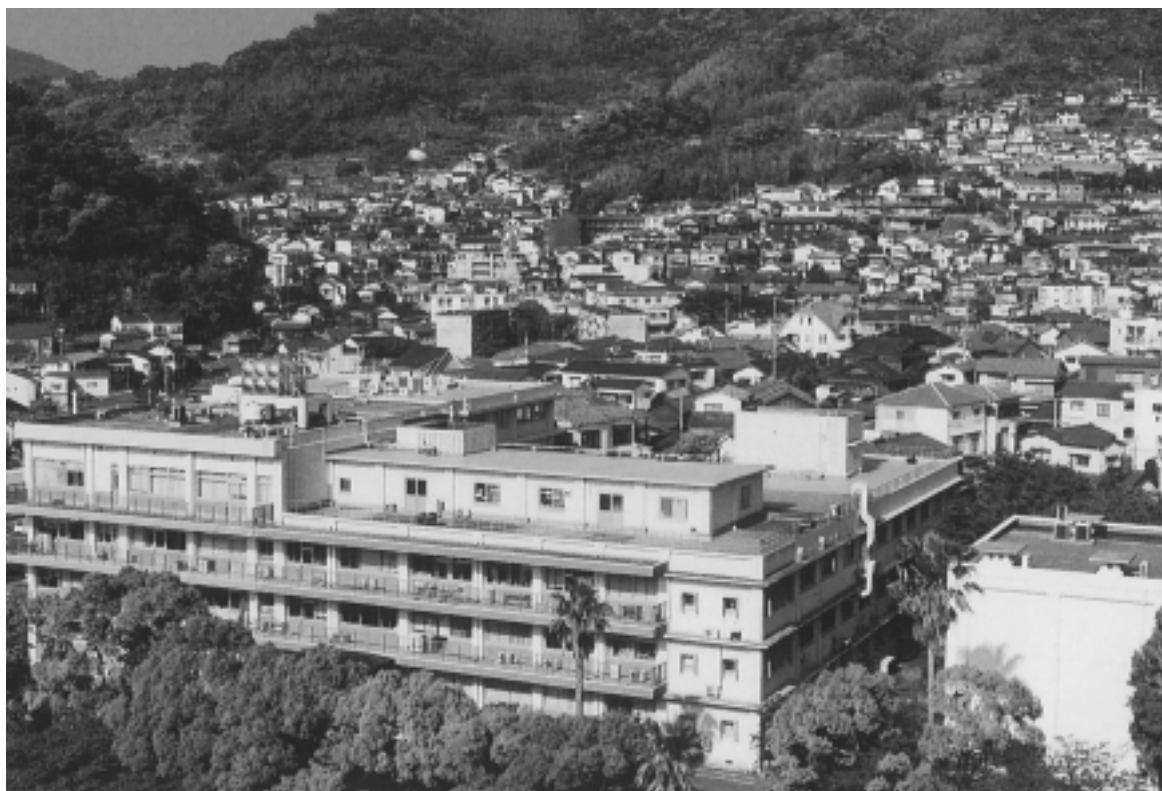
長崎大学熱帯医学研究所

総合目標

熱帯地域に存在する複雑多様な自然・社会環境が、熱帯病をはじめとする錯綜した健康問題を引き起こし続けている。国際交流の進展が著しい今日、これらの問題は世界的視野に立って解決されなければならない。

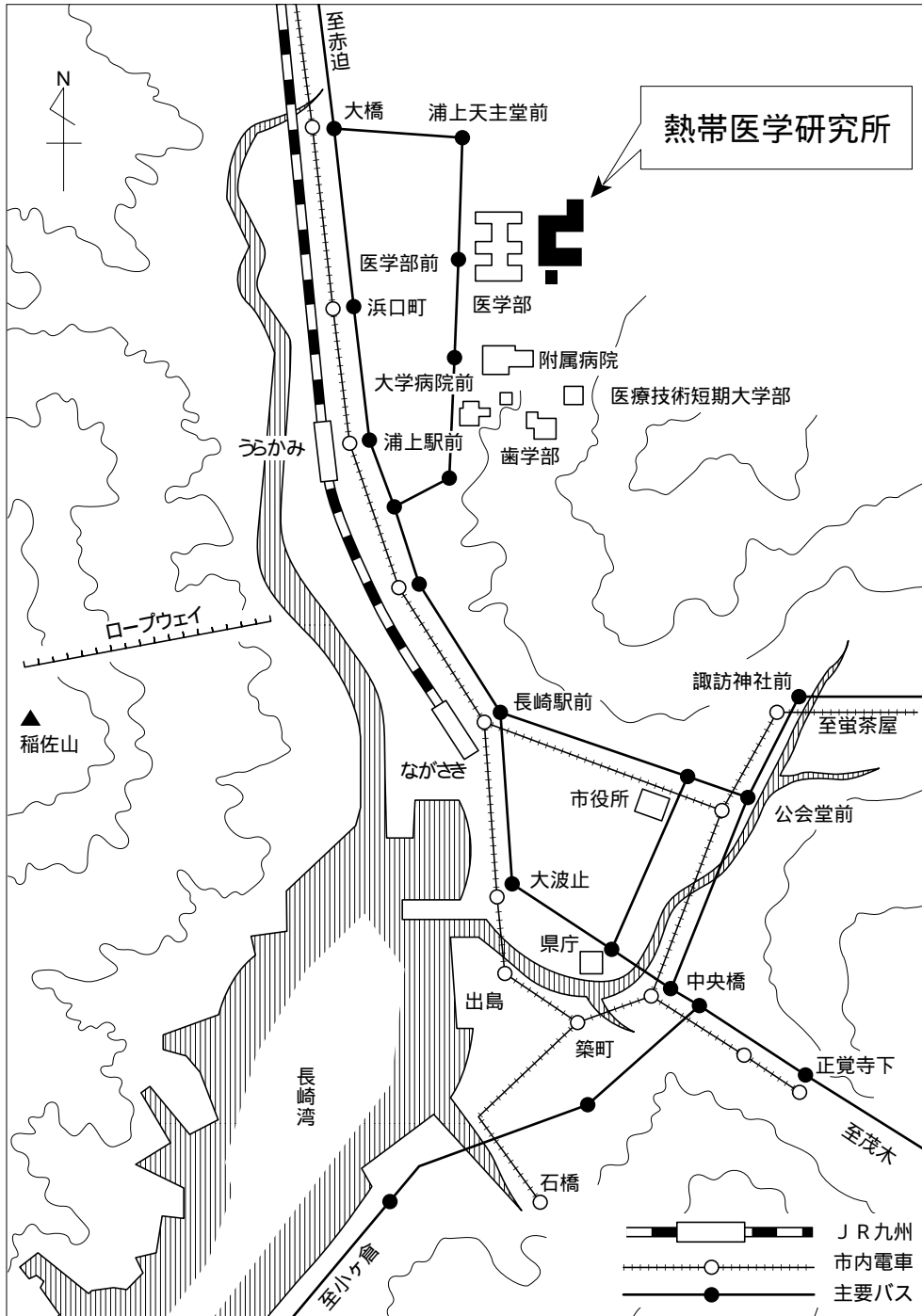
長崎大学熱帯医学研究所は、上述の認識に基づき、熱帯病の中でも最も重要な領域を占める感染症を主とした疾病と、これに随伴する健康に関する諸問題を克服することを目指し、関連機関と協力して以下の項目の達成を図るものである。

- 1．熱帯医学及び国際保健における先導的研究
- 2．研究成果の応用による熱帯病の防圧ならびに健康増進への国際貢献
- 3．上記に係る研究者と専門家の育成



研 究 所 全 景

長崎大学熱帯医学研究所位置図



所在地 長崎市坂本1丁目12-4 (〒852 8523)
 電話 095 - 849 - 7800 (総合案内)
 敷地面積 3,305m²
 建物面積 延7,034m²

新築年月 昭和36年(1961)3月
 増築年月 昭和42年(1967)2月
 増築年月 昭和55年(1980)3月
 増築年月 昭和60年(1985)8月
 増築年月 平成6年(1994)3月

序

長崎大学熱帯医学研究所は、昭和17年に長崎医科大学附属東亜風土病研究所として開設され、沿革に記載された経緯の後、昭和42年に「熱帯医学に関する学理および応用の研究」を設置目的とする長崎大学附置熱帯医学研究所となった。以後今日まで、日本において熱帯医学研究を目的とする唯一の公的機関として活躍してきた。平成元年に医学系国立大学附置研究所として初の共同利用研究所に、平成6年度には大部門制に改組され、平成7年度には文部省から熱帯医学に関する国際的に卓越せる研究拠点（Center of Excellence = COE）に指定された。平成13年度には文部科学省による4大学の免疫・感染症研究の連携推進体制の整備の一環として熱帯感染症研究センターが独立し、現在の組織は3大部門（11研究分野，1客員分野，1外国人客員分野を含む），1センター，1施設，1診療科からなる。

本誌の表紙をめくった頁に研究所の総合目標 - Mission Statement が記されている。これは平成8年度に行われた外部評価の提言に基づき研究所が平成11年5月に策定したものである。研究所は総合目標を達成するために、種々の研究教育活動を行っている。

熱帯医学研究所は研究活動の大要を昭和44年以来年度毎にまとめて要覧として発刊している。平成11年度までは、要覧の中で最も重要な項目である研究活動の項目が、各分野毎の研究活動として紹介されていた。熱帯医学研究所の総合目標の中で最も重要な「熱帯医学及び国際保健における先導的研究」がどの様に熱帯医学研究所で行われているのかを読者に理解してもらうには、古い編集方法は適切でないと判断し、この点を改善する為、平成12年度以後の要覧の編集においては、各研究分野で行われている研究活動を主たる熱帯病毎にまとめなおして、研究活動として報告することにした。

学際的研究が熱帯医学研究の特長の一つであるので、各研究分野がどのような視点で、また研究所全体としてはどの様に熱帯医学の研究に取り組んでいるかを、読者の方々がこの要覧をざらんに容易に理解していただけるようになったと期待したい。

平成14年11月

長崎大学熱帯医学研究所 所長 青木克己

長崎大学熱帯医学研究所年次要覧 平成13年度（2001）

目 次

総合目標

長崎大学熱帯医学研究所位置図

序

1	沿革	1
2	組織及び規模	3
2.1	組織	3
2.2	職員	3
2.3	経費	9
2.4	敷地と建物	9
3	共同利用研究	10
3.1	共同研究	10
3.2	研究集会	15
4	研究活動	26
4.1	マラリア	26
4.2	住血吸虫症	27
4.3	フィラリア症	28
4.4	トリパノソーマ症	29
4.5	寄生蠕虫症	30
4.6	腸管寄生原虫症	30
4.7	デング熱および日本脳炎	31
4.8	肝炎および悪性腫瘍	32
4.9	コレラに代表される細菌性下痢症	33
4.10	呼吸器感染症	35
4.11	その他の感染症	36
4.12	細胞からのアプローチ	37
4.13	社会からのアプローチ	39
5	特別事業費による事業	42
5.1	熱帯医学研修課程	42
5.2	熱帯地域における主要肝疾患に関する研究	43
5.3	後天性免疫不全症候群（エイズ）に関する研究	44

6	文部省科学研究費補助金等による研究	45
6.1	文部科学省科学研究費補助金（平成13年度採択分）	45
6.2	文部科学省科学研究費補助金（平成14年度内定分）	46
6.3	受託研究費等（平成13年度分）	48
7	海外活動	50
8	外国人研究者の受け入れ	57
8.1	熱帯医学研究コース	57
8.2	平成13年度に受け入れた外国人研究者	58
9	研究成果の発表状況	62
9.1	研究業績	62
9.2	学会発表演題	74
9.3	国際会議における研究発表	90
9.4	報告書等印刷物	92
9.5	熱帯医学研究所集談会	93
10	講演会	95
10.1	熱帯医学研究所における所外講師による講演	95
10.2	熱帯医学研究所教官による講演	97
11	熱帯医学研究所公開講座	108
12	主要な研究設備	109
13	刊行物	110

1 沿 革

昭和17年3月、東アジアにおける風土病に関する学理およびその応用の研究を行うことを目的として、長崎医科大学に附設された東亜風土病研究所が本研究所の前身である。

設立当時所員は医科大学の諸教室（病理学、細菌学、内科学、皮膚科学）を利用して研究活動に従事し、主として中国大陸における野外調査に重点を置いた。昭和20年8月原子爆弾によって母体大学と共に研究資料等は一瞬のうちに灰燼に帰し、研究所発展の道は一時阻止され、研究活動も頓挫を来した。

昭和21年4月長崎医科大学附属風土病研究所と改称し、東亜の2字は削除され、5月には諫早市へ移転して研究活動を再開した。

昭和24年5月国立学校設置法の公布により、長崎大学風土病研究所となり、その後昭和32年7月25日の諫早大水害による研究所移転等の変遷を経て、昭和35年度に長崎市坂本地区での新築が実現、翌年4月新庁舎へ移転した。

昭和39年度から既存の病理、臨床の両部門に加えて、順次、疫学、寄生虫学、ウイルス学の各部門が増設され、41年度末にはこれに伴う増築も終わった。

昭和42年6月国立学校設置法の一部改正により長崎大学熱帯医学研究所となり、熱帯医学に関する学理およびその応用を研究することが目的となった。同時に熱帯医学研究所内科（熱研内科）として、20病床の診療科が医学部附属病院に設置された。昭和49年度には病原細菌学部門と附属研究施設としての熱帯医学資料室が開設され、昭和53年度には防疫部門（客員部門）と熱帯医学研修課程が新設された。昭和54年度には昭和52年度に新築された感染動物隔離実験棟が熱帯性病原体感染動物実験施設へ昇格した。昭和54年度には研究所本館の第2次増築も完了し、昭和58年度には国際化社会の到来に伴い、国立大学における国際交流を促進するとともに、開発途上国の自立発展および文化的知的水準の向上に資するため、国際協力事業団（JICA）の集団研修コースである熱帯医学研究コースが開設された。昭和59年度には原虫学部門が増設され、昭和60年度には原虫学部門と資料室を収容するための研究所本館第3次増築も完了した。昭和62年度には病害動物学部門が増設され、平成元年度には、共同利用研究所への改組が実現した。平成3年度には感染生化学部門が新設され計10部門となり、平成5年度には研究実験棟が増築された。平成6年度には、これまでの小部門制による研究体制から3大部門制への改組が行われ、12研究分野が設置された。平成7年度からは、世界の最先端の学術研究を推進する卓越した研究拠点（COE：センター・オブ・エクセレンス）の研究所に指定され、平成8年度には、病原体解析部門に分子疫学分野（外国人客員分野）が新設された。平成9年度には、熱帯医学資料室の廃止・転換に伴い、熱帯病資料情報センターが新設され、更に平成13年度には、熱帯病資料情報センターの廃止・転換に伴い、熱帯感染症研究センター（時限：10年）が新設されて、研究所の整備・充実も着々と進んでいる。

歴 代 所 長

(長崎医科大学附属東亜風土病研究所)

角 尾	晋	自 昭和17年(1942)5月4日 至 昭和20年(1945)8月22日
古 屋 野	宏 平	自 昭和20年(1945)12月22日 至 昭和23年(1948)1月23日
高 瀬	清	自 昭和23年(1948)1月24日 至 昭和23年(1948)8月31日
登 倉	登	自 昭和23年(1948)9月1日 至 昭和24年(1949)5月30日

(長崎大学風土病研究所)

登 倉	登	自 昭和24年(1949)5月31日 至 昭和33年(1958)8月31日
大 森	南 三 郎	自 昭和33年(1958)9月1日 至 昭和38年(1963)11月30日
福 見	秀 雄	自 昭和38年(1963)12月1日 至 昭和42年(1967)5月31日

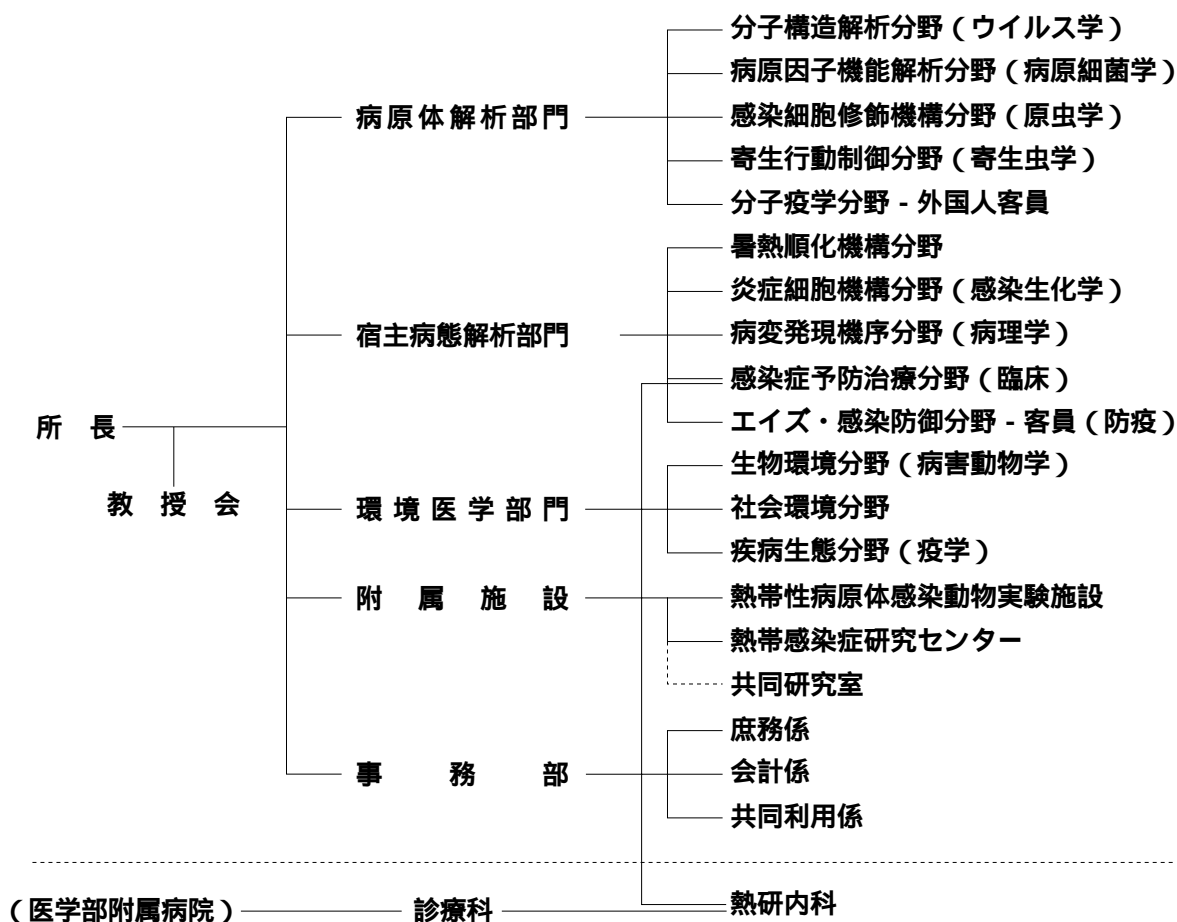
(長崎大学熱帯医学研究所)

福 見	秀 雄	自 昭和42年(1967)6月1日 至 昭和44年(1969)11月30日
片 峰	大 助	自 昭和44年(1969)12月1日 至 昭和48年(1973)11月30日
林	薫	自 昭和48年(1973)12月1日 至 昭和52年(1977)11月30日
内 藤	達 郎	自 昭和52年(1977)12月1日 至 昭和54年(1979)11月30日
片 峰	大 助	自 昭和54年(1979)12月1日 至 昭和56年(1981)4月1日
松 本	慶 蔵	自 昭和56年(1981)4月2日 至 平成3年(1991)4月1日
板 倉	英 吉	自 平成3年(1991)4月2日 至 平成5年(1993)4月1日
小 坂	光 男	自 平成5年(1993)4月2日 至 平成9年(1997)4月1日
五 十 嵐	章	自 平成9年(1997)4月2日 至 平成13年(2001)3月31日
青 木	克 己	自 平成13年(2001)4月1日 至 現 在

2 組織及び規模

2.1 組織

平成14年7月1日



()内は旧部門名を示す

2.2 職員

平成14年7月1日

1) 定員内職員

区分	教 官					その 他の 職員	合 計
	教 授	助 教 授	講 師	助 手	計		
定 員	12	10	0	18	40	10	50
現 員	12	4	5	18	39	11	50

2) その他の職員

外国人研究員 (客員教授) 1名

非常勤講師 23名 事務補佐員及び技能補佐員 15名 研究支援推進員 7名

3) 教職員・大学院学生等氏名

所	長 (併)	教 授	医 学 博 士	青 木 克 己
分子構造解析分野 (ウイルス学)	教 助 助 技 能 補 佐 員 (研究支援推進員) 技 能 補 佐 員 (実験助手) 大 学 院 学 生 大 学 院 学 生	授 手 手	医 学 博 士	森 田 公 一
		授 手 手	医 学 博 士	長 谷 部 太
		授 手 手	医 学 博 士	井 上 真 吾
		授 手 手	医 学 博 士	山 口 知 美
		授 手 手	医 学 博 士	城 臺 和 美
		授 手 手	医 学 博 士	アブジャル ホセイ
		授 手 手	医 学 博 士	カン
		授 手 手	医 学 博 士	エドワード ギタ
		授 手 手	医 学 博 士	マテンゲ
		授 手 手	医 学 博 士	
病原因子機能解析分野 (病原細菌学)	教 講 助 助 文 部 科 学 技 官 (技術専門職員) 技 能 補 佐 員 (実験助手) 大 学 院 学 生 大 学 院 学 生	授 師 手 手	農 医 学 博 士	平 山 壽 哉
		授 師 手 手	農 医 学 博 士	一 瀬 休 生
		授 師 手 手	農 医 学 博 士	江 原 雅 彦
		授 師 手 手	農 医 学 博 士	和 田 昭 裕
		授 師 手 手	農 医 学 博 士	一 ノ 瀬 昭 豊
		授 師 手 手	農 医 学 博 士	岩 見 守 代
		授 師 手 手	農 医 学 博 士	本 多 香 弘
		授 師 手 手	農 医 学 博 士	木 村 貴 彰
		授 師 手 手	農 医 学 博 士	中 山 真 彰
		授 師 手 手	農 医 学 博 士	
感染細胞修飾機構分野 (原虫学)	教 講 助 技 能 補 佐 員 (実験助手) 技 能 補 佐 員 (実験助手) 技 能 補 佐 員 (実験助手) 大 学 院 学 生 大 学 院 学 生 大 学 院 学 生 大 学 院 学 生 大 学 院 学 生 大 学 院 学 生 大 学 院 学 生	授 師 手	医 学 博 士	神 原 廣 二
		授 師 手	医 学 博 士	上 村 春 樹
		授 師 手	医 学 博 士	中 澤 秀 介
		授 師 手	医 学 博 士	木 下 美 紀
		授 師 手	医 学 博 士	富 丸 紅
		授 師 手	医 学 博 士	吉 永 一 未
		授 師 手	医 学 博 士	トン ロン タッアイ
		授 師 手	医 学 博 士	加 藤 美 枝
		授 師 手	医 学 博 士	篠 原 克 典
		授 師 手	医 学 博 士	プタポンチップ チャット
授 師 手	医 学 博 士	ロン シュアイブ		
授 師 手	医 学 博 士	モハマドゥ ナシル		
授 師 手	医 学 博 士	フアマン マリア セシリア		
授 師 手	医 学 博 士	宮 崎 俊 雄		
授 師 手	医 学 博 士	ファレス サンドラ イネス		

寄生行動制御分野 (寄生虫学)	教授	青藤	木卷	克康	己教
	講師	渡部	三浦	幹光	次政
	助手	富永	木内	佐登	美春
	文部科学技官 (技術専門職員)	大山	山内	智秀	彦史
	技能補佐員 (実験助手)	松山	山拓	拓史	史
	大学院学生	グナワルデナ	ニプル	キシリ	代
	大学院学生	草場	照		
分子疫学分野	外国人研究員 (客員教授)	パンディ	バス	デヴ	
	(併)助 教授	大渡		伸	
炎症細胞機構分野 (感染生化学)	教授	中熊	村取	三千男	
	講師	鈴森	木内	厚章	志一
	助手	八尋	真	俊真	之希
	文部科学技官 (研究補助員)	K. A. ディー	パー		
病変発現機序分野 (病理学)	教授	岩鳥	崎山	琢也	
	助教授	千早	馬坂	正大	敬輔
	助手	福余	田	朱福	美勲
	技能補佐員 (実験助手)	タイ	ホン	チー	カム
	大学院学生				
	大学院学生				
感染症予防治療分野 (臨床)	教授	永大	武石	和秀	毅徳
	助教授	天渡	野邊	貴麻	明雄
	助手	斉小	藤山	理	子純
	大学院学生	村上			愛

	大学院学生				大	池	貴	行
	大学院学生				鋤	崎	利	貴
診療科 (熱研内科)	科長(併)教授	医	学	博	永	武		毅
	副科長(併)助教授	医	学	博	大	石	和	徳
	講師	医	学	博	渡	邊		浩
	助手	医	学	士	麻	生	憲	史
	助手	医	学	士	吉	嶺	裕	之
	医員	医	学	士	鬼	塚	正	三郎
	医員	医	学	士	山	領		豪
	医員	医	学	士	森	本	浩	之輔
	医員	医	学	士	黒	木	麗	喜
	医員	医	学	士	栗	田	伸	一
	医員	医	学	士	星	野	和	彦
	医員	医	学	士	小	山	和	彦
	医員(研修医)	医	学	士	原	田	義	高
	医員(研修医)	医	学	士	倉	本	剛	史
	医員(研修医)	医	学	士	水	谷	玲	子
	医員(研修医)	医	学	士	高	木	理	博
	医員(研修医)	医	学	士	田	中	健	之
	医員(研修医)	医	学	士	中	間	貴	弘
	医員(研修医)	医	学	士	松	木		啓
エイズ・感染防御分野	客員教授	医	学	博	山	本	直	樹
	客員助教授	医	学	博	佐	藤	裕	徳
	技能補佐員 (実験助手)	理			佐々木	昌	昌	子
生物環境分野 (病害動物学)	教授	農	学	博	高	木	正	洋
	講師	医	学	博	津	田	良	夫
	助手	農	学	博	都	野	展	子
	技能補佐員 (研究支援推進員)	農	学	博	上	野	俊	子
	技能補佐員 (実験助手)	農	学	博	川	島	恵	美子
	技能補佐員 (実験助手)	農	学	博	前	川	芳	秀
	大学院学生				アマディ	・	ディエン	
	大学院学生				佐藤		朝	光
	大学院学生				長谷川		麻衣子	

	大学院学生			才	田	進
社会環境分野	教授	医学博士		溝谷	田村	勉晋
	助手	理学修士		金田		英子
	助手	医学博士		多良		栄子
	技能補佐員 (研究支援推進員)	医学博士		鈴木	木	千鶴子
大学院学生						
疾病生態分野 (疫学)	教授	医学博士		平山	謙	二
	助教授	医学博士		大菊	池	三穂子
	助手	医学博士		川嶋		順子
	技能補佐員 (実験助手)			早嶋		順子
	技能補佐員 (実験助手)			ラタワン		ウバリー
	大学院学生					
熱帯性病原体感染動物 実験施設	施設長(併)教授	医学博士		中村		三千男
	助手	農科学修士		柳小	里	哲雄 麻理子
熱帯感染症研究センター	センター長(併)教授	医学博士		嶋田	雅	暁
	教授	保健学博士		門司	和	彦
	助教授	農医学博士		鈴木		博
	助手	農保健学博士		安高	雄	治
	技能補佐員 (研究支援推進員)			小崎	山	寿文
	技能補佐員 (研究支援推進員)			須谷	恭	子
	技能補佐員 (実験助手)			須田	清	美
	大学院学生			木須	友	子
	大学院学生			中大	尾	優
	大学院学生			大野	晃	生
共同研究室	室長(併)教授	農学博士		平山	壽	哉
	助手(併)			一ノ瀬	昭	豊
非常勤講師	技能補佐員 (研究支援推進員)			田村	久	美
	大分医科大学・教授	医学博士		牧野	芳	大
	埼玉医科大学・講師	医学博士		名和		優
	大分医科大学・助教授	農医学博士		江下	優	樹
	京都大学大学院医学研究科・教授	医学博士		光山	正	雄

大阪大学微生物病研究所・助教授	医学博士	飯河	田哲也
長崎大学医学部・教授	医学博士	河野	茂雄
国立感染症研究所・部長	医学博士	渡邊	治一
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科・教授	医学博士	藤田	紘一郎
三和中央病院・部長	医学博士	坂本	信久
おおり医院・院長	医学博士	大井	昌克
長崎大学医学部・教授	医学博士	由井	久之人
国立病院長崎医療センター・名誉院長	医学博士	矢野	川親
国立感染症研究所・部長	医学博士	荒川	宜茂
国立感染症研究所・室長	農学修士	森川	智治
東京都医学研究機構	理学修士	小池	綱雄
東京都神経科学総合研究所・副参事研究員	理学修士	松島	晃
東京大学大学院医学系研究科・教授	医学博士	高藤	章之
京都大学大学院農学研究科・教授	農学博士	杉山	昇
名古屋女子大学短期大学部・教授	農学博士	楽得	康
楽得内科・理事	医学士	田崎	利正
長崎市役所・平和推進室長		西山	淳港
関西医科大学・教授	医学博士	山中	
京大大学生態学研究センター・助教授	理学博士		
山口県立大学看護学部・助教授	保健学博士		
事務部長	文部科学事務官	清水	洋治
庶務係長	文部科学事務官	吉富	力生
庶務主任	文部科学事務官	馬場	秀光
庶務係員	事務補佐員	辻	奈美
会計係長	文部科学事務官	浦川	宰
会計係員	文部科学事務官	原田	司
会計係員	文部科学事務官	青山	幸三
会計係員	事務補佐員	山田	由美子
会計係員	事務補佐員	松尾	明日香
共同利用係長	文部科学事務官	松田	敬子
共同利用主任	文部科学事務官	佐々木	なるみ
共同利用係員	事務補佐員	末永	純子

2.3 経費

年度別歳出決算額（平成4 - 平成13年度）

年度	区分	人件費	物件費	合計
平成4年		360,055,227 円	326,425,108 円	686,480,335 円
"	5年	377,943,572	680,022,581	1,057,966,153
"	6年	391,614,944	264,284,909	655,899,853
"	7年	414,972,193	566,076,492	981,048,685
"	8年	423,863,566	406,226,075	830,089,641
"	9年	431,756,359	294,963,427	726,719,786
"	10年	473,414,781	412,687,773	886,102,554
"	11年	471,498,613	307,109,233	778,607,846
"	12年	450,088,155	307,804,552	757,892,707
"	13年	448,975,931	443,188,323	892,164,254

2.4 敷地と建物

敷地 長崎市坂本1丁目12-4 長崎大学医学部構内 3,305m²

建物

建物名称	構造	建面積m ²	延面積m ²	所在地	備考
本館	鉄筋コンクリート 3階, 1部4階建	1,716	6,296	坂本1丁目 12-4	昭36.3 建築 " 42.2 増築 " 55.3 " " 60.8 " 平6.3 "
熱帯性病原体感染動物 実験施設	鉄筋コンクリート 3階建	198	488	"	" 53.3 新築 " 63.3 増築
薬品庫	ブロック建	19	19	"	" 47.3 新築
仮設倉庫	プレハブハウス	231	231	"	" 51.11 "
計		2,164	7,034		

3 共同利用研究

3.1 共同研究（ は研究代表者）

1. 日本脳炎ウイルス・デングウイルスのレセプターの同定

長崎大・熱研
静岡県立大

森田 公一，長谷部 太
鈴木 康夫，左 一八

2. デング - 日本脳炎キメラウイルスの作製

長崎大・熱研
琉球大・医

森田 公一，長谷部 太
只野 昌之，馬 紹平，福永 利彦

3. フラビウイルス非構造蛋白質 NS3 の生物活性

長崎大・熱研
国立感染症研究所

森田 公一，長谷部 太，井上 真吾
清水 博之

4. ヘリコバクター・ピロリの病原性に関する研究

長崎大・熱研
千葉大・医
岡山大・医
帯広畜産大・畜
長崎大・医
神戸大・医

平山 壽哉，和田 昭裕
野田 公俊
倉園 久生
牧野 壮一
河野 茂
青山 伸郎

5. 病原細菌による β -ディフェンシン - 2 の発現誘導

長崎大・熱研
関西医科大
徳島大・医
長崎大・工
長崎大・工

平山 壽哉，和田 昭裕
藤沢 順一
高橋 章
青柳 東彦
新留 琢郎

6. トリパノソーマの病原性と発育変態にかかわる分子生物学的研究

長崎大・熱研

神原 廣二，上村 春樹，柳 哲雄，中澤 秀介

久留米大・医

福間 利英，原 樹，井上 雅広

7. マラリア原虫の防御免疫にかかわる研究

長崎大・熱研

神原 廣二，上村 春樹，柳 哲雄，中澤 秀介

大阪工大・工

田辺 和裕

愛媛大・医

坪井 敬文

徳島大・総合科学

大橋 真

藤田保健衛生大・医

前野 芳正

生産開発科学研

伊藤 義博

8. 腸管内感染原虫症の疫学研究

長崎大・熱研

神原 廣二，上村 春樹，柳 哲雄，中澤 秀介

東海大・医

橘 裕司

神戸大・医

宇賀 昭二

金沢大・医

井関 基弘

奈良女子大・理

吉川 尚男

9. 開発途上国における土壌伝播寄生虫の伝播疫学

長崎大・熱研

青木 克己，藤巻 康教

徳島大・医

太田 房雄

愛知医大

木村 英作

神戸大・医

宇賀 昭二

名古屋市立大・医

丸山 治彦

10. ビルハルツ住血吸虫症の病態像：これまで注目されなかった病変

長崎大・熱研

青木 克己，藤巻 康教，渡部 幹次

嶋田 雅暁，鳥山 寛，森田 公一

長崎大・医

竹本 泰一郎，金武 洋，野俣 浩一郎

長崎大・医短

門司 和彦

鹿児島大・多島圏研究セ

野田 伸一

一橋大・社

浜本 満

11. 感染防御因子遺伝子の発現制御解析とその応用

長崎大・熱研	中村三千男, 熊取 厚志
エフェクター細胞研	金ヶ崎士朗, 野村 由佳
国立感染研	山崎 剛
大阪大・大学院医学系研究科	金田 安史
石原産業K K研究所	加藤 雅也, 増田 真
九州大・大学院医学系	姫野 國祐
九州大・生体防御医学研究所	住本 英樹, 栗林 太
琉球大・遺伝子実験センター	新川 武

12. DNA修復機構と感染症

長崎大・熱研	中村三千男, 八尋 真希
福岡歯科大	関口 睦夫
京都大・理学	米井 脩治, 張 秋梅
金沢大・がん研	伊藤 隆司
東京医歯大・難治研	安河内幸雄, 北嶋 繁孝
分子医科学研究センター	土屋 輝昌

13. 慢性肝疾患の癌化にいたる肝組織像の変化およびウイルス学的研究

長崎大・熱研	鳥山 寛, 井関 充及, 千馬 正敬
長崎大・医	浜崎 圭介
長崎大・保健管理センター	中尾 一彦

14. カボジ肉腫における分子病理学および病理組織学的研究

長崎大・熱研	井関 充及, 千馬 正敬, 鳥山 寛
愛知県発達障害研究所	佐藤 衛, 島田 厚良, 岸川 正大
京都大・アジア・アフリカ地域研	荒木美奈子, 太田 至
釧路公立大	小林 聡史

15. 感染症の発症機構と予防に関する研究

長崎大・熱研	永武 毅, 平山 壽哉
長崎大・医	河野 茂
熊本大・医	前田 浩

京都大・医	光山 正雄
琉球大・医	斎藤 厚
東京大・医	松島 綱治

**16. SAGE 法による成人 T 細胞白血病における慢性型から急性型の進展に関する
遺伝子の検索**

長崎大・熱研	森 直樹
東京医科歯科大	山本 典生

17. 成人 T 細胞白血病細胞におけるサイクリン D の発現

長崎大・熱研	森 直樹
新潟大・医	藤井 雅寛

18. 疾病媒介蚊の空間分布規定要因解析法の開発

長崎大・熱研	高木 正洋, 津田 良夫, 都野 展子
名古屋女子大・家政	杉山 章
富山医薬大・医	上村 清
琉球大・医	當間 孝子
産業医大	沢辺 京子

19. 疾病媒介蚊の防除効果判定精度改善に関する研究

長崎大・熱研	高木 正洋, 津田 良夫, 都野 展子
京都大・農	高藤 晃雄

20. 熱帯病対策における地理情報システム (GIS) の応用

長崎大・熱研	溝田 勉, 谷村 晋
国立感染研	二瓶 直子
立命館大・文学	中谷 友樹

21. 東・南アフリカにおけるエイズ流行に関する研究

長崎大・熱研	溝田 勉, 谷村 晋, 金田 英子
米国・チューレーン大	楽得 康之
京都大・医	山本 太郎

東京大・医 野口真貴子
長崎純心大 鈴木千鶴子

22. 開発途上国における疾病対策と貧困・環境・文化

大阪国際大・政経 山本 勇次
長崎大・熱研 溝田 勉, 谷村 晋
神戸大・国際交流センター 川端 真人
旭川医科大 伊藤 亮
立命館大 藤巻 正己
大谷女子短大 村瀬 智
女子栄養大 佐久間 充
浜松医科大 佐藤 弘明
九州保健福祉大 五十嵐 章
産業医大 吉村 健清
神戸大 河野 奈美, 藤田 大輔
東邦大・医短 鈴木 琴子
長崎純心大 鈴木千鶴子
長崎市平和推進室 田崎 昇

23. 紫外線 (UV - B) 照射と生体免疫能の関連

長崎大・熱研 大渡 伸, 藤巻 康教, 熊取 厚志, 鳥山 寛,
金田 英子
長崎大・医 奥村 寛

24. 熱帯病の数学モデルの構築と予防制圧への応用

長崎大・熱研 嶋田 雅暁, 木須 友子, 浜田 芳樹
長崎大・医短 門司 和彦, 菊池 泰樹
東京大・大学院 中澤 港
長崎大・水産 山内 淳

25. 南日本に多発する恙虫病の解明

長崎大・熱研 鈴木 博
大分医科大 大塚 靖, 小河 正雄, 王 欽

26. シャーガス病の病態に関する免疫遺伝学的研究

長崎大・熱研	平山 謙二, 菊池三穂子, 柳 哲雄
九州大・医	肥後 広男
埼玉医大	曾根 敏雄, 会田かやの
慶応大・医	三浦左千夫
名古屋市大・医	鈴木 高史
順天堂大・医	奈良 武司
ICN・メキシコ	Victor Monteon
東京医科歯科大・難治研	木村 彰方
東海大・医	猪子 英俊

3.2 研究集会

1. ヘリコバクター・ピロリ感染機序の分子生物学的解析

開催日：平成13年11月30日

場 所：長崎大学熱帯医学研究所ゼミナール室

代表者：病原因子機能解析分野 平山 壽哉

発表者：(1)。「*Helicobacter pylori* 熱ショック蛋白のワクチン効果」

杏林大学医学部 神谷 茂

(2)。「Lewis 抗原を介した *H.pylori* と宿主とのクロストーク」

秋田大学医学部 天野 憲一

(3)。「ヘリコバクター・ピロリリポ多糖の抗原エピトープと疾患との関連」

札幌医科大学医学部 横田 伸一

(4)。「家族内感染の分子疫学感染」

新潟大学大学院 山本 達男

(5)。「ヘリコバクター・ピロリの特殊脂質とその動態」

自治医科大学 林 俊治

(6)。「ヘリコバクター・ピロリ *cagPAI* の遺伝子解析」

福井医科大学 東 健

(7)。「ヘリコバクター・ピロリ *VacA* 毒素の作用解析」

長崎大学熱帯医学研究所 木村 美幸

- (8) .「ヘリコバクター・ピロリ VacA 毒素の宿主受容体解析」
長崎大学熱帯医学研究所 八尋 錦之助
- (9) .「ヘリコバクター・ピロリ感染に伴う抗菌性ペプチドの誘導」
長崎大学熱帯医学研究所 和田 昭裕

2 . マラリア制圧の分子論的展開とフィールドスタディー

開催日：平成13年 7月14日～ 7月15日

場 所：長崎大学熱帯医学研究所大会議室

代表者：感染細胞修飾機構分野 神原 廣二

発表者：(1) .「MSP 1 / hsc70融合蛋白の抗マラリアワクチン効果」

長崎大学医学部 川畑 優子

- (2) .「Identification of HLA-B1513 restricted epitopes using P.falciparum synthetic peptides IFN-gamma ELISPOT.」

Department of Molecular Immunogenetics, Institute of Tropical Medicine,
Nagasaki University

R.Ubalee M.Kikuchi K.Hirayama

Division of immunology, In Institute of Medical Research kuala Lumpur,
Malaysia

A.S.M. Zaidi K.J.Ong Nasruddin

Biotechnology Center, Institute of Medical Research

kuala Lumpur, Malaysia

S.Lokman Hakim J.W. Mak

Department of Medical Zoology, Saitama Medical School

T.Sone

- (3) .「ヒトマラリア患者におけるNK T細胞の感染防御への関与」

新潟大学大学院医歯学研究科 渡部 久実, 安保 徹

- (4) .「熱帯熱マラリア原虫ミトコンドリアの複合体 の生化学的解析」

東京大学大学院医学系研究科 見市 文香, 高島 英造,

小林 環, 竹尾 暁,

北 潔

順天堂大学医学部 高宮信三郎

- (5) .「Pyoelii感染におけるマウス赤血球膜上蛋白質ダフィーの機能に関する研究」

東京大学大学院薬学系研究科 秋光 信佳, 福間 信子,

- 有光なぎさ
浜本 洋, 関水 和久
金 惠淑, 小野華奈子,
綿矢 有佑
- 岡山大学大学院薬学研究科
- (6) . 「熱帯熱マラリア原虫 スフィンゴミエリン・リゾフォスフォコリンー
フォスホパーゼC : マラリア化学療法の新規標的分子としての可能性に
ついて」
大阪大学微生物病研究所 三田村俊秀
- (7) . 「メロゾイトのロプトリー蛋白 (RhopH1) はジーンファミリー (RhopH1/
CLAG) にコードされる」
愛媛大学医学部 鳥居 本美
- (8) . 「スポロゾイトのハマダラ蚊唾液腺感染の分子機構を解明するための試み」
三重大学医学部 油田 正夫
- (9) . 「Characterization of proteases involved in the processing of Plasmodium falcipa-
rum serine repeat antigen(SERA)」
大阪大学微生物病研究所 李 接
- (10) . 「熱帯熱マラリア原虫のペルオキシレドキシシン」
国立国際医療センター 河津信一郎, 駒木加奈子,
狩野 繁之
群馬大学医学部 池ノ上 望
獨協医科大学 川合 覚
- (11) . 「連鎖解析を用いた熱帯熱マラリア原虫の赤血球侵入関連因子群の固定」
愛媛大学医学部 金子 修
- (12) . 「メフロキン耐性熱帯熱マラリア原虫の pfmdr 1 遺伝子の解析」
岡山大学薬学部 金 惠淑, 永井由紀子,
奥田 洋平, ベグム クルシダ,
綿矢 有佑
- (13) . 「Malawi における熱帯熱マラリア原虫クロロキン耐性遺伝子 Pfcr1 および
Pfmdr1 多型」
東京女子医科大学 美田 敏宏, 金子 明,
塚原 高広, Bwijo A.,
小早川隆敏
マラウイ公衆衛生プロジェクト 武地 美保, Zungu I

- (14) .「東南アジアに棲息する *Anopheles minimus* complex の系統分類」
産業医科大学 沢辺 京子
- (15) .「だ液腺 (An.Stephensi) に存在するマラリア原虫の exflagellation 誘導因について」
自治医科大学 平井 誠, 松岡 裕之,
石井 明
- (16) .「各種蚊の唾液腺におけるマラリア原虫雄生殖母活性化物質」
自治医科大学 松岡 裕之, 王 継春
平井 誠, 吉田 栄人
石井 明
- (17) .「マラリア持続感染マウスモデル」
長崎大学熱帯医学研究所 中澤 秀介
- (18) .「マウスを用いたネズミマラリア原虫感染に対する宿主抵抗性遺伝子の染色体マッピング」
名古屋大学大学院医学研究科 大野 民生, 西村 正彦
浜松医科大学 石井 明, 寺田 護
- (19) .「わが国のマラリア研究におけるサル実験系の現状と今後の課題」
獨協医科大学 川合 寛
- (20) .「マラリア感染における宿主の免疫反応の解析：乾燥血液標本からサイトカイン mRNA の解析は可能か？」
藤田保健衛生大学医学部 前野 芳正, 長嶋 茂雄
佐々木 潤, 谷口 孝喜
長崎大学熱帯医学研究所 中澤 秀介
- (21) .「インドネシア島嶼部におけるマラリアコントロール」
長崎大学熱帯医学研究所 神原 廣二
- (22) .「アフリカにおけるマラリアコントロール ケニアとジンバブエでの経験からの日英比較」
杏林大学医学部 春木 宏介
- (23) .「マラリア調査の内容と調査地 (プーリエン村) の紹介 (ヴェトナムとの拠点大学交流事業)」
長崎大学熱帯医学研究所 中澤 秀介
- (24) .「ソロモン諸島のマラリアの問題」
自治医科大学 石井 明

- (25) . 「Unusual Plasmodium malariae - like parasites in SEA」
 名古屋大学大学院医学研究科 Thin Thida Win and F.Kawamoto
- (26) . 「人工衛星によるマラリア分布解析」
 国立感染症研究所 二瓶 直子, 小林 睦生
 神戸大学医学部 川端 真人
 自治医科大学 石井 明
- (27) . 「島嶼マラリア研究と対策：ヴァヌアツとパプアニューギニア」
 東京女子医科大学 金子 明
- (28) . 「タイ ACIPAC プロジェクトにおける school based malaria control の試み」
 国立国際医療センター 狩野 繁之
- (29) . 「抗マラリア活性を示す有機過酸化物の合成」
 大阪大学大学院工学研究科 野島 正明
- (30) . 「抗原多型を示す流行地株にも三日熱マラリア伝搬阻止ワクチンは有効である」
 愛媛大学医学部 坪井 敬文
- (31) . 「SERA マラリアワクチン実用化への基礎研究」
 大阪大学微生物病研究所 堀井 俊宏

3 . H I V 感染症の変貌とその対策

開催日：平成14年 2 月 8 日

場 所：長崎大学熱帯医学研究所大会議室

代表者：感染症予防治療分野 永武 毅

発表者：(1) . 「H I V の世界流行に果たす組換えウイルスの役割」

国立感染症研究所 武部 豊

(2) . 「アフリカウガンダ由来 HIV 患者から分離された末梢血単球の DNA microarray 解析」

長崎大学熱帯医学研究所 本村 和嗣

(3) . 「H I V - 1 インテグラーゼ蛋白の核局在シグナルと細胞性因子の検討」

東京医科歯科大学医歯学総合研究科 増田 貴夫

(4) . 「宿主因子または微生物感染による C C R 5 発現および機能のコントロール」

長崎大学大学院医学研究科 森内 浩幸

(5) . 「H I V 特異的免疫応答に関する研究」

東京大学医科学研究所 岩本 愛吉

(6) . 「エイズ剖検例における H I V 感染細胞の検出と同定」

国立感染症研究所感染病理部 佐多徹太郎

- (7).「プロテアーゼ初回治療患者におけるNFV-HARRT:ACC外来 cohort 51例における108週までの臨床効果と耐性出現に関する研究」

国立国際医療センター 岡 慎一

- (8).「HIV-1発芽機構に關与するウイルス及び宿主因子」

国立感染症研究所感染病理部 高橋 秀宗

4. 熱帯性感染症対策に影響を及ぼす開発・環境・文化要因

開催日：平成13年10月19日

場 所：長崎大学熱帯医学研究所大会議室

代表者：社会環境分野 溝田 勉

発表者：(1).「ネパールのスクンバシの貧困に見る“認知遮断”と“行動萎縮”：開発途上国の貧民における“健康教育支援のジレンマ”の解消に向けて」

大阪国際大学法政経学部 山本 勇次

- (2).「熱帯感染症対策における空間疫学の役割と展望 地理情報システム(GIS)の応用とともに」

長崎大学熱帯医学研究所 谷村 晋

- (3).「開発,環境,文化的側面から見た有鉤囊虫症,エキノコックス症」

旭川医科大学 伊藤 亮

- (4).「気候および標高差が生活習慣に及ぼす影響(II) ‘エスノグラフィの試み’の可能性」

長崎大学熱帯医学研究所 金田 英子

- (5).「BioethicsのGlobalizationは可能か？」

国際厚生事業団 我妻 堯

- (6).「保健医療における学際的アプローチを目指して 熱帯地域や開発途上国を念頭に」

長崎大学熱帯医学研究所 溝田 勉

- (7).「アフリカにおける難民問題-FGM(女性性器切除)とHIV/AIDS感染への影響について」

岡山大学大学院医歯学総合研究科 山本 秀樹

- (8).「Comparison of Health System between Japan and Myanmar」

Hla Mya Thway Einda, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University

- (9).「ラオスにおける妊婦のレプトスピラの感染事例について」

- 東邦大学医療短期大学 鈴木 琴子
- (10) .「アフリカ熱帯雨林住民の疾病とその要因：コンゴ・カメルーン国境地帯
の事例」
- 浜松医科大学医学部 佐藤 弘明
- (11) .「熱帯感染症対策の計画策定プロセスにおける実行確率計測方法開発の必
要性 行動・価値観・知識の数量化 」
- 長崎大学熱帯医学研究所 谷村 晋

5 . 熱帯病情報ネットワークの構築とその応用

開催日：平成13年 7月26日～ 7月27日

場 所：長崎大学熱帯医学研究所大会議室

代表者：熱帯感染症研究センター 嶋田 雅暁

発表者：(1) .「WHO 疫学週報トピックスについて」

- 神戸大学医学部 宇佐美 眞
- (2) .「感染症情報翻訳提供の試み - EMC Outbreaks 」
- 関西医科大学 西山 利正
- (3) .「検疫所における情報収集・評価・提供活動について」
- 成田検疫所 菊池 均, 落合 賢一
- (4) .「海外赴任者の健康管理における情報ネットワーク活用」
- 海外勤務健康管理センター 奥沢 英一
- (5) .「旅行医学におけるネットワークの活用」
- 国立感染症研究所 木村 幹男
- (6) .「海外渡航者の為の医療情報サービスの現状について」
- 姫路獨協大学 星野 次郎, 大崎 雅一
- (7) .「NGOは何が提供できるか？NGOはどのような情報を必要とするか？」
- アジア医師連絡協議会 菅波 茂
- (8) .「情報について国際的組織とどのように協力できるか？」
- 川崎医療福祉大学 畠 一彦
- (9) .「AGSnet(定点方式感染症サーベイランス網)の取り組みとその意義」
- 国際保健医療交流センター 中根 美幸
- (10) .「データベースシステムによるインターネットに基づいた医療情報のため
の自律的且つ能動的な疫学情報解析支援システムの開発」
- 神戸大学国際文化学部 森下 淳也

(11) . 「保健指標の地理情報システムの一例 WebGIS による視覚化」

長崎大学熱帯医学研究所 谷村 晋

6 . 住血吸虫研究ネットワークの構築

開催日：平成13年 8月27日～ 8月28日

場 所：長崎大学医学部ポンペ会館

代表者：疾病生態分野 平山 謙二

発表者：(1) . 獨協医科大学 千種 雄一 , 桐木 雅史
(2) . 順天堂大学医学部 奈良 武司
(3) . 名古屋市立大学医学部 太田 伸生 , 吉田 彩子
熊谷 貴
(4) . 国立感染症研究所 朝日 博子
(5) . 愛知医科大学 伊藤 誠
(6) . 久留米医科大学 平田 瑞城
(7) . 山梨県 中島 靖雄
(8) . つくば医療短大 今瀬 敦子
(9) . 産業医科大学 金沢 保
(10) . 長崎大学熱帯医学研究所 青木 克己 , 嶋田 雅暁
安高 雄治 , 平山 謙二
菊池三穂子

7 . エンテロウイルスの重症化機序の臨床的・ウイルス学的解析

開催日：平成14年 2月 5日

場 所：長崎大学熱帯医学研究所大会議室

代表者：病変発現機序分野 岩崎 琢也

発表者：(1) . 「西太平洋地域のエンテロウイルス」

国立感染症研究所 清水 博之

(2) . 「サルを用いた動物モデル」

国立感染症研究所 永田 典代

(3) . 「疫学：流行と侵淫」

愛知県衛生研究所 山下 照夫

大阪府衛生研究所 奥野 良信 , 山崎 謙治

(4) . 「疫学：血清抗体」

- | | | |
|-------------------------------|--------------|-------|
| | 愛媛県衛生環境研究所 | 大瀬戸光明 |
| (5) . 「迅速診断」 | | |
| | 福島県立医科大学 | 細矢 光亮 |
| | 三菱化学 B C L | 石古 博昭 |
| (6) . 「東南アジアにおける流行例の臨床像」 | | |
| | 国立感染症研究所 | 岡部 信彦 |
| (7) . 「兵庫県の流行例の臨床像」 | | |
| | 神鋼加古川病院 | 吉田 茂 |
| (8) . 「山口県の流行例の臨床像」 | | |
| | 山口大学医学部 | 伊住 浩史 |
| (9) . 「熊本県の流行例の臨床像」 | | |
| | 熊本地域医療センター | 後藤 喜隆 |
| (10) . 「長崎県の流行例，とくに周産期感染の臨床像」 | | |
| | 長崎大学医学部 | 錦井 友美 |
| (11) . 「診断と治療」 | | |
| | 大阪市立総合医療センター | 塩見 正司 |
| (12) . 「抗エンテロウイルス剤」 | | |
| | 丸石製薬中央研究所 | 吾郷 昌信 |

8 . アジアで問題となる人獣共通感染症

開催日：平成14年 3月22日

場 所：長崎大学熱帯医学研究所大会議室

代表者：病変発現機序分野 岩崎 琢也

発表者：(1) . 「狂犬病」

- | | | |
|--------------------|-----------------|-------|
| | 長崎大学熱帯医学研究所 | 岩崎 琢也 |
| (2) . 「狂犬病ウイルス」 | | |
| | 国立感染症研究所 | 井上 智 |
| (3) . 「腎症候性出血熱」 | | |
| | 長崎大学医学部附属動物実験施設 | 佐藤 浩 |
| (4) . 「旧世界ハンタウイルス」 | | |
| | 北海道大学大学院獣医学研究科 | 苅和 宏明 |
| (5) . 「インフルエンザ」 | | |
| | 国立仙台病院 | 西村 秀一 |

- (6) .「インフルエンザウイルス」
 国立感染症研究所 板村 繁之
- (7) .「Bウイルス病」
 国立感染症研筑波霊長類センター 棚林 清
- (8) .「Bウイルス」
 長崎大学医学部附属動物実験施設 大沢 一貴

9 . 菌類の繁殖生態に関わる節足動物の機能と生態

開催日：平成14年3月15日～3月16日

場 所：長崎大学熱帯医学研究所大会議室

代表者：生物環境分野 都野 展子

- 発表者：(1) .「Coexistence on a single resource - diverse studies on the aggregation theory of species coexistence」
 北海道大学低温科学研究所 Andrew J.Davis
- (2) .「関東地方におけるキノコ食昆虫の群集生態～キノコ食ハエ類の共存機構」
 東京大学生命科学研究科 高橋 一男
- (3) .「ヒトスジシマカ *Aedes albopictus* の個体群動態にみるエサの質および捕食の影響」
 長崎大学熱帯医学研究所 Hamady Dieng
- (4) .「砂質干潟ベントス群集の再構築；メソスケールの動態」
 長崎大学水産学部 玉置 昭夫
- (5) .「Top-down effects of parasitoids on coexistence of mycophagous drosophilids: Food-web analysis」
 北海道大学低温科学研究所 萬屋 宏志
- (6) .「粘菌と呼ばれる変形菌の子実体上の節足動物群集」
 京都大学農学研究科 杉浦 真治, 深沢 遊
 大阪市立環境研究所 山崎 一夫
- (7) .「キノコを利用する節足動物の群集構造 群集, 属, および単体としてのキノコの特性に対する反応」
 名古屋大学生命農学研究科 山下 聡
- (8) .「トビムシによるハラタケ目の子実体捕食 子実体上のトビムシ群集, 食性, 生活史」
 岐阜大学連合農(配置: 信州大) 澤島 拓夫

(9) . 「種子散布者の消化が種子発芽に与える影響」

京大大学生態学研究センター 福井 晶子

(10) . 「利用空間スケールが異なる蚊の生態 大水域の蚊と水溜りの蚊」

長崎大学熱帯医学研究所 都野 展子

4 研究活動

4.1 マラリア

マラリアは今日においても早急に防遏が必要な熱帯性感染症である。毎年、世界人口の2億人が感染し、そのうち200万人が死亡していると推定されている。死亡原因は重症熱帯熱マラリア、殊に、脳性マラリアである。

マラリアの制圧が難しい理由は、生物学的には次の4点に絞られるであろう。

- 1) 防御免疫獲得が困難（獲得のためには数年間感染、発症を繰り返す必要がある）。
- 2) 獲得した防御免疫は不完全で、体内から原虫を排除できない。
- 3) 蚊媒介性（伝播が複雑となるうえに、蚊の体内で遺伝子が交換される）である。
- 4) 原虫や蚊が薬剤、殺虫剤に対して耐性能を成立させる。

これらマラリア対策上の問題は学問的にも興味のある課題である。1と2は免疫、ワクチン開発に密接に関連している。3と4はマラリア原虫の適応能の研究や集団遺伝学の研究対象である。マラリア原虫は病原体であると同時に自律性を維持した生物である。従来は排除を目的とする研究が大勢を占めたが、マラリア原虫とハマダラカに対して生物としての性格や行動を解明する研究がなされなければ有効なコントロール手法は生まれない。媒介蚊の研究には、殊に生態学的な視点が必要である。宿主、原虫、媒介蚊3者の関連を進化・適応の視点から問い直すことは学問的な好奇心を刺激する。

感染細胞修飾機構分野ではマラリア原虫の持続感染やマラリア原虫抗原の多型に取り組んでいる。持続感染に対してはマラリア原虫の再燃や宿主の免疫応答の研究がなされている。2001年には再燃の研究が薬剤感受性熱帯熱マラリア原虫を用いて行われた。薬剤耐性を獲得していない原虫も再燃する。その再燃は薬剤濃度に依存せず、原虫数と治療期間に依存することが明らかとなった⁴¹⁷⁵。ブラジルとタイで採取された三日熱マラリア原虫の *PvTRAP* を解析した。*PvTRAP* のⅡ、ⅢとⅣ領域に置換の頻度が高く、ブラジルの原虫はタイの原虫よりも変化に富んでいるが *PvTRAP* の塩基配列の変異の程度は低いことが明らかとなった⁴¹⁷³。その他、マラリア研究を発展・促進するために技術解説、特にマラリア原虫のサンプリング手法の説明^{4170 4171}や原虫性疾患の一般的な解説^{4169 4172}がなされた。

疾病生態分野では、脳性マラリアの発生に関与している宿主側の遺伝因子を解析を続けている。脳性マラリアの病態生理は、成熟型の熱帯熱マラリア原虫が感染した赤血球の細静脈の血管内皮細胞への接着と言う現象を中心に解明がなされてきた。接着に与る感染赤血球の細胞表面上のリセプターは PfEMP-1、血管内皮細胞上のリガンドの候補のひとつが、PECAM

* 文中の4桁の上付数字は長崎大学熱帯医学研究所「業績番号」を示す。(参照 p.62)

-1/CD31である。リガンドの発現はTNF- α によって促進される。2001年には、タイの患者（合併症がない熱帯熱マラリア患者，重症の熱帯熱マラリア患者と脳性マラリア患者の3グループ）について，PECAM-1 / CD31の多型を解析して，脳性マラリア患者に特異的なアレルを発見した⁴²⁵⁷。さらに，ミャンマーの脳性マラリア患者と合併症のない熱帯熱マラリア患者のTNF- α のプロモーター領域の多形を解析して，脳性マラリア患者に特異的なアレルを発見した⁴²⁵⁸。他に，マラリア感染におけるサイトカインの役割を解説した⁴²⁶⁰。

生物環境得分野ではマラリア媒介蚊であるハマダラカ (*Anopheles minimus*) の生態学的研究を進めている。蚊集団の変化の過程を追跡するためには，生息環境の研究が重要である。ハマダラカがそこで産卵，ふ化，成長，羽化，そして生殖を行うためである。タイ国北部河川で幼虫採集と同時に，河川水の物理化学的性状（温度，pH，溶存窒素濃度，アンモニア濃度，化学的酸素要求度），河川の地形的特徴（川岸の有無，川の広さ，川底の性状，水の流速，流れ方，流れの縁の性状 泥，砂利，岩，木，葉などの割合）や植物学的要素（流れを覆う植生，植物の高さ，植物の密生具合）を調査した。乾期に幼虫密度が高く，これは流速，大型の葉を有する水生植物の高さ，小型の葉を有する川岸の植物の高さと負の相関を示し，水の表面を覆う川岸のシダ類と正の相関を示した。植生は予想されたほど幼虫の密度には関連していないことが示唆された⁴²⁵¹。（文責：中澤）

4.2 住血吸虫症

住血吸虫は，寄生虫の中でも大きな部類で約1 cmほどの長さのムシである。雌雄異体で，成虫はヒトの門脈内で接合し，数年にわたって赤血球を食べながら産卵を続ける。感染型のセルカリアに汚染された水に接触することにより経皮感染する。急性期に死亡することはまれで，マラリアと違い，慢性疾患とくに虫卵の組織沈着による肝脾疾患や膀胱尿路障害，肝癌や膀胱癌を引き起こすことが問題となる。ヒトの住血吸虫には，日本，マンソン，ビルハルツ，メコンという主に4種がよく知られており，遺伝的にも近縁である。経皮感染の際の感染抵抗性については，疫学研究から年令に伴い再感染が軽くなる傾向が観られることから，ある程度の獲得免疫が作用していると考えられている。慢性期の合併症については，明らかに個体差の存在することが知られており，10年以上の反復感染歴の後，早い人では30代から重い肝硬変となる。住血吸虫症は，流行地の環境に根ざした寄生虫疾患で，熱帯地域を中心に2億人ほどの感染者が存在すると推測されている。

住血吸虫症とHLA

住血吸虫感染抵抗性に多かれ少なかれ免疫応答性が関与するのはおそらく間違いない。し

かし、個々人の抵抗性を定量的に判定し、家系や集団を用いて遺伝要因を解析することは必ずしも容易ではない。Desseinらは1991年ブラジルのマンソン住血吸虫症流行地で、各人の抵抗性を虫卵排出数で定量化し、20家系269名の家系調査により、共優性の感染性/抵抗性遺伝子座 SM-1 の存在を示唆した。その後、1996年に同じ対象を用いたゲノムワイド解析により、SM-1 が 5q31-q33の CSF1R 付近にマップされることをつきとめた。この近傍には、IL-13 A5などの遺伝子座があることから、その本体が注目されているが、まだ明らかになっていない。同じグループはアフリカのスーダンで慢性の住血吸虫性肝線維症の重症群について同様の家系調査を行い 6q22-q23の IFN- γ RI 遺伝子の近傍に肝線維症の感受性遺伝子 SM-2 をマップした。6p には何の変化もなかった。

住血吸虫と HLA に関する論文は我々とオーストラリアのグループだけであるが、いずれも慢性の肝線維症と HLA-クラス II 遺伝子アレルとの強い相関を報告している。特に最近我々が見出した HLA-クラス II と IL-13プロモータ遺伝子多型の重症化への相乗効果は驚くべきもので、HLA 多型が確かに慢性疾患の病型に直結することを示した。フィールドは中国の江西省で、古くからの日本住血吸虫症流行地である。1995年ここで10年以上の感染歴のある成人230名を対象に、肝線維化の重症度を超音波により診断し採血して DNA タイピングを行ったのであるが、その結果、HLA-DRB1*1101が軽症に多く、DRB5*0101が重症に多いことがわかった。ここまでは、これまでの相関であるが、さらに関係ありそうなサイトカイン遺伝子、IL-4、IL-13、IFN- γ R について SNP 解析を行った結果を重ねて、HLA アレルとサイトカイン遺伝子アレルの相互作用を見た HLA-DRB5*0101 (OR = 5.67) および IL-13プロモーター A/A ホモ遺伝子型 (OR = 3.07) はいずれもそこそこの Grade - II に対する危険因子であるが、両方を持った者では、OR は24.49まではね上がった。HLA は第6染色体、IL-13は第5染色体とそれぞれ別の染色体上にあるのでこのような結果は遺伝子産物が直接相互作用している場合にしか観察できないはずである。ただし、最初に紹介したゲノムワイド解析の SM-1 (感染抵抗性感受性遺伝子) が IL-13遺伝子座を含む 5q31-q33にマップされていたことから、可能性として我々が見出した肝線維化に対する HLA と IL-13の相乗効果が実は、感染感受性が増した結果、大量の虫体、虫卵に曝露されたために起こったということも考えられる⁴²⁶¹。

その他、教科書で成果が紹介された⁴¹⁸⁰。(文責：平山)

4.3 フィラリア症

フィラリア症は73カ国に流行し、感染者数は1億2千万人と推定され、重篤な急性・慢性

症状を呈すことから熱帯寄生虫病の中でも研究対策の必要性が叫ばれている疾患である。近年 WHO の指導で世界的なリンパ管寄生糸状虫症対策計画が開始されている。

その対策は、抗糸状虫薬で治療することであるが、治療の対象となる患者が存在する流行地を迅速に捜し出す必要がある。そのために種々の方法があるが、新しい流行地を捜し出すためには糸状虫に対する抗体検出が有用である。しかしながら、従来の方法では住民が忌み嫌う採血をしなければならないという不利な点がある。

寄生行動制御分野と愛知医大との共同研究で、尿から糸状虫に特異的な抗体 (IgG 4) を検出する ELISA 法を開発した⁴¹⁷⁷。尿サンプルの採集は、血液採集に比べ非常に容易なため、誰でも採集ができる。住民も参加しやすく、短時間で多数のサンプル尿を採集できる利点がある。また、尿をアジ化ナトリウムで処理すると37℃で1ヶ月保存ができ、また尿採集の時間はいつでも良く、フィールド活動上大きな利点である。この ELISA 法による sensitivity は 95.6%、specificity は99.0%であった。

このように、尿中の糸状虫抗体を検出する ELISA 法は糸状虫症の新しい流行地を捜し出すのに有用な方法であることが明らかにされた。(文責：藤巻)

4.4 トリパノソーマ症

アフリカトリパノソーマ症に対する薬剤は50年以上にわたって使用されており、強い副作用や耐性原虫の出現という問題もあって、新しい安全な治療薬の開発が求められている。感染細胞修飾機構分野では、新しい治療薬開発につながるアフリカトリパノソーマ原虫ホスホリパーゼ A₂の役割に着目した基礎的な実験を行ない、有機スズ化合物によって阻害されることを示した⁴¹⁷⁴。

トリパノソーマ原虫に *de novo* 脂肪酸合成能があるか否かは議論的であり、部分的には原虫で合成していることが最近示されたが、大部分の脂肪酸は宿主由来のものを取り込んで使用していると考えられている。トリパノソーマ原虫のホスホリパーゼ A₂はこの脂質取込みに関与している酵素であり、*Trypanosoma brucei gambiense* と *T. b. brucei* からの粗抽出液を用いて、酵素の性質を調べる実験を行なった。至適 pH は6.5から8.5にあること、活性化に Ca²⁺を要求しないこと、1% Triton X 100で活性化されることを明らかにすると共に、種々の有機スズ化合物 (Dibutyltin dimyristate, Dibutyltin dipalmitate, Dibutyltin distearate, Dibutyltin dioleate) で阻害を受けることが示された。(文責：上村)

4.5 寄生蠕虫症

人に寄生して病害を与える蠕虫は医学教科書に記載されている種でも50種以上ある。その中でも腸管に寄生する蠕虫はもっとも種類が多く、腸管寄生蠕虫に感染している人の数は全世界で35億人に達すると推定されている。感染者の多くが熱帯地域の住民であることから腸管寄生蠕虫症は熱帯病の中でも公衆衛生上とくに重要である。

糞線虫症は腸管寄生蠕虫症の一つで、免疫力が低下すると、自己感染をくり返し、播種性糞線虫症という重篤の症状を呈す。日本では沖縄に多くの感染者がみられ、成人 T 細胞性白血病の原因ウイルス HTLV-1 との重複感染がみられている。

糞線虫を駆虫するのは困難であるが、HTLV-1 との重複感染の場合、駆虫はさらに困難となる。平山（謙）らは HTLV-1 との重複感染による薬剤による糞線虫駆虫効果の減少を免疫学的に追求し、次の結果をえた⁴²⁵⁹。

HTLV-1 感染は糞線虫症感染者の単球の IFN- γ と TGF- β 1 の発現を促進する。其の結果、特異 IgE（ADCC に関与）の減少と IgG 4（blocking antibody としての役割）の増加がおこり、糞線虫の駆虫効果が減少する。

一方、藤巻らはベトナムの農村地域で回虫、鉤虫、鞭虫など土壌伝播線虫の伝播様式の調査を行っている。水田、野菜畑、学校、家の土に、特に雨期に高頻度で回虫卵が検出されている。回虫卵はまた学校、家などの床、机、窓の埃にもよく検出されている。このことは調査地における回虫の感染経路は多様であることを暗示している、鞭虫卵も土壌、埃に検出されたが、回虫卵にくらべ検出頻度は低い（未発表）。

青木らは世界で第 4 例目の腎虫 (*Dioctophymatid* sp) の人体寄生例を発表した⁴¹⁷⁶。（文責：青木）

4.6 腸管寄生原虫症

昨年度に引き続きフィリピン、ネパールにおいて腸管寄生原虫症の疫学調査が行われた。赤痢アメーバの感染は狭い居住空間に住む人達の間での直接感染が主で、従来考えられていたように汚染飲料物による感染は従であるとする我々の主張に近い結果が得られている（発表準備中）。

ヒトでは腸管寄生原虫症とは言えないが、経口感染を主感染経路とするトキソプラズマに対する抗体価調査が北九州市屠畜場労働者と豚について行われ、現在食肉からのトキソプラズマ感染の危険性が著しく減少していることが示された⁴²⁶²。（文責：神原）

4.7 デング熱および日本脳炎

デングウイルスと日本脳炎ウイルスによる感染症はともに蚊によって媒介される熱帯感染症である。デングは比較的軽症の急性熱性疾患であるデング熱と重症のデング出血熱の原因ウイルスである。日本脳炎ウイルスは文字通り中枢神経系に感染し脳髄膜炎を起こす。これらの蚊媒介性ウイルス感染症は現在熱帯地域において増加傾向にあり、とくにデングウイルス感染症は年間約2000万人の感染者が発生し世界保健機関（WHO）も重要項目の1つに掲げている。分子構造解析分野と生物環境分野ではこれらのウイルス感染症の病原性や感染伝播様式をより深く理解し適切な診断法の開発や疾病対策に利することを目的としてアジア各国での調査を含む種々の研究をおこなっている。

デングウイルス分野の研究ではタイ国で分離されたデング2型ウイルスについて系統樹解析を含む分子疫学的な解析を行い、1つの地域でも異なる遺伝子型のデングウイルスが流行している事実を確認した。重症化例では特に特徴的な遺伝子型のウイルスが分離された事をしめした⁴⁰³⁷。この遺伝子型のことなるウイルスについて媒介蚊であるネッタイシマカのウイルス伝搬性についてさらに詳細な検討がなされた⁴²⁵²。即ち重症例から分離したウイルスと軽症例から分離した遺伝子型の異なるウイルス株をそれぞれ媒介蚊に経口的に接種したのち蚊の中腸で一次増殖したウイルスが唾液腺に到達する効率を比較した。その結果、タイ国から得たネッタイシマカにおいては重症型ウイルスがより効率よく蚊の唾液腺に到達することが明らかとなった。このことは1953年以降、重症型のデング出血熱流行地域が継続的に拡大している1つの要因になりうる事を示唆している。しかし同様の実験をグアテマラで得たネッタイシマカで検討した結果、2系統のウイルスでの差は検出できなかった。このことは、地域で生息しているネッタイシマカのウイルス伝播性には多様性があり、デング流行に関しては媒介蚊とウイルスの相関関係が重要であることを明らかにしている。

デング熱に関しては地球温暖化にともない、現在温帯に位置する日本においても将来的にデングウイルスの侵入と流行が危惧されている。その可能性を予測する1つの方法は最重要の媒介蚊であるネッタイシマカが日本国内において冬季に生存越冬か否かを検討することである。そこで長崎市において約1年間にわたり、熱帯地域で採取したネッタイシマカ1系統と熱帯地域および日本において採取したヒトスジシマカ3系統を長崎市の野外気象条件に暴露しそれぞれの系統について毎月の発育・生存状況を記録しその結果と気象条件との相関を種々の統計学的方法で解析し自然環境下での発育零点を推測した。その結果、ネッタイシマカの発育零点は雌では8.52℃、雄では9.45℃であり日本に定着しているヒトスジシマカと比較して最大3.84℃も高い温度であった。さらにヒトスジシマカが形成する越冬卵はネッタイシマカにおいては形成できない特性を考えあわせればネッタイシマカの長崎をふくむ南九州

における定着の可能性は現時点ではきわめて低いものであると結論した⁴²⁴⁸。

さらに日本にすでに広く生息しデング媒介蚊となりうるヒトスジシマカについて蚊の吸血リスクを決定する環境諸要素について日本とタイ国において検討した。その結果、ヒトスジシマカは人口密度に関係なく家屋の近くに草の多い場所で多数生息しており家屋内への侵入は家屋の構造によって差異があることが明らかとなった⁴²⁴⁹。

なお、デング予防法としてのワクチンの研究は諸外国において進展しているが、いまだ実用化には程遠いのが現状である⁴¹⁶⁴。

日本脳炎研究においては遺伝子工学的手法によりに自在に変異のある日本脳炎ウイルスのリコンビナントウイルスを作製する技術を確立し日本脳炎ウイルスの表面を構成する蛋白質である E 蛋白に種々の変異を持つ日本脳炎ウイルス変異株を多数作製し、そこから以前に開発された日本脳炎ウイルスを中和する単クローン抗体では不活化されないウイルス変異株を選択しそれらの E 蛋白遺伝子を遺伝子塩基配列のレベルで解析することによって、日本脳炎ウイルス中和にもっとも重要な部位（エピトープ503）を 3 次元モデルで同定した⁴⁰⁴²。この技術をもちいて日本脳炎ウイルス NS 3 遺伝子に C 型肝炎ウイルス NS 3 遺伝子のモチーフなど種々の変異を導入した組替えウイルスを作製し蛋白機能部位を 3 次元分子モデルで視覚化した。この研究は今後日本脳炎ウイルスやデングウイルス、西ナイルウイルスなどのフラビウイルスの抗ウイルス薬の開発に有用である。（文責：森田）

4.8 肝炎および悪性腫瘍

肝炎は種々の病因により引き起こされるが、疫学的にはウイルスが大多数を占める。2001 年の時点では A, B, C, D, E 型のウイルスが同定されており、それぞれの型に対応して臨床像が異なる。A ならびに E 型肝炎は経口性に感染し、とくに熱帯地域においては A 型肝炎が好発し、この地域への旅行者に対しては不活化ワクチンの投与が望まれている。B 型肝炎ウイルス（HBV）と C 型肝炎ウイルス（HCV）は血液あるいは血液製剤を介した感染が主体であり、また HBV は性行為ならびに母胎から新生児への出生時の垂直感染により伝播する。HBV ならびに HCV は輸血を介した感染・医療行為時の不完全な滅菌による医療器具による経皮的感染が最大の感染ルートである。本邦においては、輸血に関しては、献血液中のウイルス抗原、抗ウイルス抗体、さらにはウイルスゲノムの検出によりリスクが非常に低下している。また、HBV は不活化ワクチンによる予防、さらには γ -グロブリンによる垂直感染の防止が有効である。しかし、熱帯地域の多くの国においては残念ながら不十分な状態であり、また、医療行為による感染拡大も必ずしも否定できず、さらには麻薬常習者間の感染も

問題とされている。

HBV ならびに HCV による肝炎が最も問題となるのは、感染が一過性ではなく、持続性となり（慢性肝炎）、肝障害が進行することである。肝機能が徐々に低下し、低蛋白血症・腹水、血液凝固障害、血行異常（食道静脈瘤等）も併発し、致死的転帰を示す。さらに、肝細胞癌が非常に高頻度に発生し、これによる死亡例も多い。本邦では毎年2万人以上がこれらの不幸な転帰により死亡している。これらの不幸な転帰は最初のウイルス感染以後、10年以上の経過が必要とされ、とくに新生児期に感染した宿主では数十年と考えられている。しかし、高齢者の初感染ではこの経過が非常に短くなることも最近見出されている。

2001年度は本邦における原発性肝癌の1958年から1994年の推移について検討した⁴¹⁸⁵。その結果、1960年に比し、1985年においては肝細胞癌の発生頻度は日本において4.3倍に増加していた。この増加傾向は1993年がピークであり、以後減少傾向にある。一方、ウイルス感染が関与しないと考えられている胆管細胞癌の発生頻度には変動は認められていない。

さらに、ウイルス性肝炎に原爆の被爆による影響を研究する目的のために、被爆者における肝癌の病理学的検討も行った⁴¹⁸⁴。その結果、被爆量と肝硬変、肝細胞癌、胆管細胞癌との odd ratio に優位の差異はみられておらず、また被爆者の腫瘍サイズにおける被爆の影響も検出されていない。（文責：岩崎）

4.9 コレラに代表される細菌性下痢症

コレラは O1, O139 コレラ菌感染によって引き起こされる急性下痢症で医療設備の整った都市部では、特殊な症例、例えば胃切除者、慢性胃疾患で、無胃酸・低酸であったり、制酸剤を長期服用しているとかを除けば、致命的になることはない。しかしながら、熱帯諸国では、現在でも、脱水による急性循環不全、急性腎不全で死亡する症例が少なくない。コレラは赤痢と違って、再感染することが極めてまれな感染症であり、予防免疫が成立することが疫学的にも証明されている制圧し易い唯一の細菌性下痢症である。それが現在でも有効なワクチンが使用されていないということは研究者を含めて関係者の怠慢でしかない。コレラワクチンで重要な抗原は、他のワクチンでもみられるように、付着、定着因子であり、コレラの場合は4型線毛である。ここで重要なことは、感染現場のコレラ菌は、下痢検体に見られるコレラ菌と相（phase）が違うということで、このことに関してわれわれは研究を行ってきた。つまり、下痢検体に見られるのは鞭毛を出している相（flagellate-phase）、感染現場では線毛を出さず相（piliate-, fimbriate-phase）である。このことは野生株（下痢検体から分離される株）を免疫しても、抗線毛抗体は産生されず、同じように fimbriate-phase の株を、経

口的，非経口的にウサギに免疫すると，4 - 6 週で抗線毛抗体 (IgG) が産生されることから明らかである。また，調査したすべてのコレラ回復期患者血清では抗線毛抗体が上昇している。我々は15年前に fimbriate phase のコレラ菌株 (Bgd17株) を作製している。1997年にタイのマヒドン大，熱帯医学部の Prof. Wanpen Chaicumpa らがこの Bgd17株を使って human trial, phase I , II を行い，fimbriate phase の Bgd17株死菌の経口投与で有効性を確かめ Vaccine に発表している。この fimbriate phase と flagellate phase では置かれた環境での遺伝子発現が異なることが想定され，病原因子機能解析分野では2001年度に多剤耐性菌を作製した。それぞれが発現する蛋白の相違をみると，fimbriate phase では Amp60mg / ml から 16kDa に新たな蛋白が大量に産生されるが flagellate phase ではこれが産生されず 50kDa 蛋白と OmpU が明らかに減少し 27kDa 蛋白産生が上昇した。これらの蛋白についての解析が進められている(ベトナム，NIHE との共同研究)。一方，Non-O1 コレラ菌についても，線毛の over-producer を作製して線毛遺伝子 cluster の解析が進められている⁴¹⁶⁸ (琉大医，細菌との共同研究)。Non-O1 コレラ菌が引き起こす感染症はコレラ同様の水様性下痢を主体とした感染性腸炎以外に，白血病，肝硬変あるいは担癌患者などの易感染宿主においてみられる腸管外感染症から更に進展して敗血症や多臓器不全にいたる症例がある。報告例も多く，敗血症を発症すると抗生剤療法では効果なく致死率はきわめて高い。わが国では夏場の港湾の海水から Non-O1 コレラ菌が分離され，我々も近海ものの魚介類が感染源と考えられる穿孔性腹膜炎の症例を報告した⁴¹⁶⁷。

我々はこのような腸管外感染症を引き起こす Non-O1 コレラ菌感染症の病態解明を目的として，菌を経口的に投与し，マウスに敗血症をおこし，臨床経過を追うことのできるモデルの作成を行ってきた(マウス敗血症モデルの作成)。現在では，Non-O1 コレラ菌の組織内侵入および敗血症増悪機構を明らかにすることを目的として以下の研究が進められている。

- 1) Non-O1 コレラ菌のメタロプロテアーゼ，溶血素などの病原因子の欠損変異株を作成し，敗血症増悪に関与する菌側の因子を探る，
- 2) 敗血症発症時の誘導型 NO の動態とその役割について検討する，
- 3) 菌の組織侵入，血中移行性の評価を可能にするために敗血症モデルの簡便化を図る，
- 4) 酵素抗体法及び GFP 発現コレラ菌を用いて菌の局在の検討から侵入部位を調べる。

その他の細菌性下痢症での新知見として *Salmonella typhi* のワクチン接種が5才以上に行われているが，それ以前の年少者にはもっと多くの typhoid fever の感染者がおり，ワクチン接種年令の再考が促され⁴²³¹，*Salmonella enteritidis* の鞭毛蛋白の一種の FliC で細胞内 Ca⁺⁺ の上昇がヒト Caco-2 細胞で確認された⁴¹⁶⁶。(文責：江原)

4.10 呼吸器感染症

平成13年度の呼吸器感染症における研究活動では大きくまずウイルス性急性呼吸器感染症、とりわけインフルエンザを中心とする抗ウイルス薬の臨床応用の開始によって「抗菌薬の「かぜ症候群」での使用の減少や適正な治療によってもたらされる経済効果のインパクトについて数多くの論文発表を行った^{4193 4194 4195 4197 4217 4219 4221 4222 4224 4233 4234}。また、マウス感染モデルを用いて、有効性の高いインフルエンザ予防ワクチンの開発を試みており、今後の研究の進展を目指している^{4191 4192}。

細菌性呼吸器感染症病原体の中で今日最も注目されているのが肺炎球菌の耐性菌激増である。その耐性菌増加の背景因子を解析し、耐性菌の増加にいかに関与をかけるべきであるかのいくつかの重要な提案を行った^{4199 4203 4205}。また、抗菌薬の開発では新しく登場してきたβ-ラクタマーゼ阻害剤配合のペニシリン製剤についての今日的な位置づけを概説した^{4196 4204}。

さらに、依然として医療の現場では大きな社会問題ともなっているメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症については、今年度も積極的な臨床的・基礎研究の報告がなされた。特に高齢者を中心とする院内肺炎の発症メカニズムとその効率的な感染予防の確立を目指す中で、誤嚥性肺炎⁴¹⁹⁸、保菌者対策⁴²⁰²、総合的な院内肺炎の予防対策^{4210 4232 4235}、腸炎予防対策⁴²²⁰を提言すると共に、MRSA 感染症治療薬として登場してきたムピロシンの耐性増加についても現状と対策について報告した⁴²²⁶。

また、今年度、昨年に引き続いて呼吸器感染症の発症メカニズムを明らかにすることで将来の有効な治療・予防戦略への貢献を目的としてマウスモデルを用いた実験成績について報告した。まず、マウス細菌性肺炎モデルでの治癒機転の中でアポトーシスに落ち込んだ好中球をマクロファージが貪食処理するについてはHGFが重要な役割を演じていること⁴²²⁵、緑膿菌マウス感染モデルでデキサメサゾンがINOSメッセンジャーRNA発現やTNFの産生を抑制することで肺炎の初期の発症と関連すること⁴²⁰⁸などを明らかにした。また、昨年度明らかにした細菌とヒト上皮細胞の付着に電荷が関与していることについては、今年度はさらにインフルエンザ菌のヒト咽頭上皮細胞への付着について付着阻害作用のある薬剤の電荷に及ぼす影響を明らかにした⁴²²⁷。また、これらの細菌の上気道粘膜の上皮細胞への付着と下気道感染における感染防止対策の重要性⁴²¹⁸、さらには肺炎球菌ワクチンの日本における臨床応用の今後⁴²⁰⁶を展望すると共に、その病原因子⁴²⁰¹についても解析した。

呼吸器感染症の臨床診断法⁴²¹⁴、その周辺疾患として心筋炎⁴²⁰⁰、結核⁴²²³、鑑別疾患⁴²²⁹について報告した。

さらに、今後の高齢化社会の中で益々その重要性を高めることが予想されている呼吸リハビリテーションの診断効果の判定について提案を行った⁴²³⁰。

途上国における呼吸器感染症の病原診断をより確実なものとする為の細菌検査施設の人的・物的支援を継続して行っており、タイ チェンマイ大学医学部、ウガンダ マケレレ大学医学部、バングラディシュ ダッカ小児病院、ベトナム国立公衆衛生研究所などではそれぞれに活発な共同研究活動を展開している。

今年度は、ウガンダ国における市中肺炎の抗菌化学療法について報告し、AIDS 感染者の多い中でのコストも考慮した有用性の高い治療についての提案を行った⁴²²⁸。(文責：永武)

4.11 その他の感染症

熱帯医学研究所では、熱帯地特有の疾患だけではなく熱帯地においてよく見られる疾患についても研究が行われている。

熱帯感染症研究センターでは大分医科大との共同研究で大分県におけるフトゲツツガムシ、フジツツガムシ、キタサトツツガムシの未吸着幼虫の分布について12の野鼠の巣穴で調査した。巣穴の周辺の地上部と巣穴坑道の土壌サンプルで比較したところ、フトゲツツガムシでは地上部で19%、坑道に81%、フジツツガムシでは59%と41%、キタサトツツガムシは78%と22%で、恙虫の未吸着幼虫は地上の他に主に巣坑道の土壌中に生息分布していることが判明した⁴²⁶⁵。

疾病生態分野では埼玉医科大学、日本獣医畜産大学、獣医学部等との共同研究で埼玉、群馬両県で捕獲した重度の皮膚病をもったタヌキ (*Nyctereutes procyonoides*) に関する寄生虫学的、病理組織学的検査を行った。その結果、タヌキは多数のヒゼンダニの原因となる *Sarcoptes scabiei* には感染していたが、*Demodex* の感染はないことがわかった。組織学的には明らかな不全角化症、過角化症、表皮肥厚症等と診断され、角質層には多くの *Sarcoptes scabiei* が認められた。また毛嚢の中には毛髪ではなく角質栓が存在することが示された。著者らが岐阜県におけるタヌキのヒゼンダニの流行を最初に報告して以来、他県でもその発生が確認され、その致死率が高いことが知られている。この種のダニに関しては他の哺乳類あるいはヒトにおいても濃厚接触すると、感染する恐れがあることから注意を喚起している⁴²⁵⁶。

病原因子機能解析分野では順天堂大学医学部、アトピー疾患研究センターとの共同研究で、*Helicobacter pylori* が産生する Vacuolating cytotoxin (VacA) は mast cell の遊走を促進し、proinflammatory cytokine 産生を誘導することを報告した⁴¹⁶⁵。*Helicobacter pylori* の病原因子である VacA の *Helicobacter pylori* による胃炎の重症度との関連については、まず、本毒素をマウスへ投与すると上皮の空胞化と単核球と mast cell の粘膜上皮内浸潤を24時間以内に起こすことを見いだした。骨髄由来の mast cell を用いた in vitro の実験系では、VacA は mast cell との

結合活性をもち，mast cell に対する走化性を促進した。さらに本毒素が骨髄由来 mast cell から TNF α ，macrophage-inflammatory protein-1 α ，IL-1 β 等のサイトカイン産生を誘導することを示した。これらのことから VacA による mast cell の初期の活性化の宿主応答は，胃炎発症に関係するのではないかということが示唆された。

病変発現機序分野では藤田保健衛生医学部，小児科および聖霊浜松病院，小児科等との共同研究で，突発性発疹の原因ウイルスの一つであるヒトヘルペスウイルス 6 型の感染と考えられた乳幼児の致死性急性心筋炎の症例を報告した⁴¹⁸⁹。ウイルス分離はできなかったが，HHV 6 に対する IgM 抗体は陽性であり，HHV 6 DNA は心筋を含めたいくつかの組織内に確認された。心筋組織内に浸潤した炎症細胞にアポトーシスがみられた。

病変発現機序分野ではまた，感染症研究所および名古屋大学医学部ウイルス学教室との共同研究で，プロテインキナーゼをコードした US 3 遺伝子を欠失させた herpes simplex virus type 2 を用いてマウス感染モデルにおける宿主免疫応答の違いについて分析した⁴¹⁹⁰。この変異ウイルスを用いた場合，monocyte, dendritic cell, macrophage, T cell は感染局所に早期に誘導され，またその数においても野生株の場合に比べて高く，IL-12，IFN- γ のレベルも上昇した。このことは US 3 遺伝子を欠失させるとヘルペスウイルス感染症に対する宿主免疫応答の誘導を促進することを意味し，ワクチン開発に有効な方策となり得る可能性を示唆する。(文責：一瀬)

4.12 細胞からのアプローチ

エイズ・感染防御分野では，エイズウイルス同様レトロウイルスであるヒト T 細胞性白血病ウイルス 1 型 (HTLV-I) を中心にレトロウイルス感染により生ずる宿主細胞の変化を分子レベルで解析しており，2001年度は以下に概説する成果を得ている。

1. アポトーシス (細胞自殺) 抑制因子 Bcl-X_L 及びサバイビンの遺伝子発現制御

ヒト CD 4 陽性 T 細胞が白血病細胞になるためには HTLV-I 感染による選択的細胞増殖能及び不死化能すなわちアポトーシス抑制能の獲得が必要である。本年度は HTLV-I 自身が持つ転写調節因子であり形質変換たんぱく質である Tax により NF- κ B 経路及び CREB 経路を通して Bcl-X_L の遺伝子転写を強く誘導することにより不死化能を獲得していること^{4239, 4247}，並びにサバイビンが HTLV-I 感染細胞株や急性期の ATL 患者末梢白血病細胞 (以下 ATL 細胞) で高発現しているが，慢性期 ATL 細胞及び正常人末梢単核球では発現していないことを見出しサバイビンの ATL 進展や病態への関与を示唆した^{4238, 4245}。

2. Tax による TGF- β シグナル伝達の抑制による細胞増殖制御の破綻。

造血器細胞を含む多くの細胞は TGF- β によりむやみに増殖しないよう制御を受けている。しかし、これらの細胞内における TGF- β シグナル伝達に異常が生じるとこの制御が破綻し癌化につながる。HTLV-I 感染細胞株及び ATL 細胞ともに TGF- β を産生しているものの、HTLV-I 感染 T 細胞クローンは非感染 T 細胞クローンにくらべ TGF- β による増殖抑制が起こりにくいことが示されていた。そこでこの現象への Tax の関与を解析した結果、Tax が CBP/p300 と相互作用することにより Smad 依存性に TGF- β シグナル伝達を抑制することを見出した^{4237, 4245}。

3. マトリクスメタロプロテアーゼ (MMP) - 9 及び VEGF の ATL 細胞浸潤への関与と Tax による MMP-9 遺伝子活性化機構。

ATL 細胞が血管内皮細胞間隙を通過して組織へ移行するには細胞間基質の分解が必要である。本浸潤機構として細胞間基質を分解する金属蛋白分解酵素 MMP の関与が考えられる。そこで腫瘍細胞の浸潤に重要であると考えられている MMP-9 に着目し解析を行い、HTLV-I 感染細胞株は非感染細胞株にくらべ MMP-9 の発現が亢進していること、悪性細胞浸潤を起こす ATL 患者において血漿 MMP-9 量が有意に増大していること、血漿中 MMP-9 の増加と血漿 VEGF の増加が正相関していることを見出し MMP-9 及び VEGF の ATL 細胞浸潤への密接な関与を示した^{4240, 4243}。さらにこの HTLV-I 感染細胞株における MMP-9 の発現亢進が主に Tax による NF- κ B と SP-1 を介した MMP-9 遺伝子転写促進によることを示した⁴²⁴⁴。

4. HTLV-I 感染細胞株におけるシクロオキシゲナーゼ (COX) - 2 遺伝子の恒常的発現。

細胞に起炎物質が作用すると細胞膜リン脂質中のアラキドン酸からアラキドン酸カスケードによりプロスタグランジン等の種々の生理活性物質が産生・分泌され、その結果炎症が生じる。このカスケードの中心酵素である COX のうち COX-2 は通常サイトカイン等の刺激により誘導的に発現する。しかしある種のヒト癌細胞においては COX-2 が恒常的に発現していることが知られている。そこで COX-2 の HTLV-I 感染細胞における発現を調べたところ恒常的に高発現していたことから、COX-2 高発現が HTLV-I 随伴脊髄症 / 熱帯性痙性麻痺 (HAM/TSP) に代表される HTLV-I 関連性慢性炎症性疾患の一因であることを示唆した。また COX-2 の特異的阻害剤を処理すると HTLV-I 感染細胞の増殖抑制とアポトーシス亢進が認められたことから COX-2 が HTLV-I 感染 T 細胞の生存に関与していることを示唆した⁴²⁴¹。

感染治療予防分野では、最近慢性びまん性汎細気管支炎等の慢性下気道感染症患者の炎症巣に集結している活性化好中球が、最も強力に血管内好中球の炎症巣への浸潤を促す IL-8 を分泌しそれ自身はアポトーシスを受けることを見出した。本年度はこの現象に対するマクロライド系抗生剤の影響について、炎症巣の活性化好中球を反映する LPS 刺激好中球を用い解析を行ったところ、エリスロマイシン等の 14 員環マクロライド系抗生剤が臨床的濃度において、アポトーシスを促進すること無しに LPS 刺激好中球における IL-8 合成を主に

mRNA レベルで抑制することを見出し、本抗生剤の慢性下気道感染症治療における新たな効用を示唆した⁴²³⁶。

食細胞 NADPH オキシダーゼにより産生される活性酸素は生体防御に必須な因子であり、本酵素の異常による活性酸素産生不全は、先天的易感染症疾患である慢性肉芽腫症 (CGD) を引き起こす。感染免疫においては感染局所におけるマクロファージの活性化と、感染局所への動員のための骨髄における単球の産生亢進が必須である。この両適応反応においてインターフェロン- γ (IFN- γ) が、NADPH オキシダーゼの必須構成成分であるシトクロム b558 重鎖 (以下 CYBB) の遺伝子転写を増大することが知られている。その機序としては本遺伝子上流 - 53塩基にある転写因子 PU .1 / HAF 1 結合部位を介した機構のみで説明されようとしていた。しかし、炎症細胞機構分野では同大学医学部小児科との共同研究で独自に見出していた上記 - 53塩基 PU .1 / HAF 1 結合部位を欠いた CYBB 遺伝子転写異常型 CGD において IFN- γ が著しく効くという臨床観察を重視しその矛盾を追及した結果、CYBB 遺伝子上流 - 100塩基にある GAS 部位に転写因子 STAT 1 α が、- 88塩基にある ISRE 部位に転写因子 IRF- 1 が結合し、両者が協調して CYBB 遺伝子の転写を促進するという新たな STAT 1-IRF- 1 機構を見出し既知の事実も踏まえ新たな IFN- γ による CYBB 転写促機構のモデルを提唱した⁴¹⁸³。(文責：熊取)

4 . 13 社会からのアプローチ

本項で扱う研究・報告は、熱帯病および熱帯地域に対する社会的アプローチ、熱帯病の現状レビュー、純生物学的研究、国際援助論が混在している。本年度は「健康転換 health transition」をキーワードとしてこれらの研究を鳥瞰する。

健康転換は、イギリスをはじめ欧米諸国で歴史的に観察された「急性感染症(伝染病)→結核を中心とした慢性感染症→生活習慣病(成人病)」という主要死因の変遷を核とし、それをもたらした社会的変化、保健医療の対応の変化全体を指す経験的法則として1980年代に提唱された概念である。健康転換はそれと密接に関連する人口転換(多産多死で不衛生不健康な時代→死亡率が低下し多産少死となって人口増加が顕著な時代→出生率も低下して少産少死となって人口の高齢化が進む時代)と相乗的に働き、近代以降の人類史の根底を形成してきたとされる。

しかし近年、エイズの流行、サハラ以南アフリカでの感染症対策の停滞、先進国における新興再興感染症対策等から、健康転換がより詳しく見直されつつある。多くの熱帯地域の国々は、生活基盤が変化していく中で感染症と戦いつつ都市部を中心として非感染症・生活習慣

病とも戦わなければいけない状況に直面している。先進国の健康転換モデルを簡単に現在の熱帯地域に当てはめることはできず、「新しい健康転換理論」が模索されている状態である。「アフリカの保健・医療 残された課題と21世紀における展望」⁴¹⁸⁸は HIV/AIDS, マラリア, コレラ, 結核, 住血吸虫症, 悪性腫瘍, 成人病(生活習慣病)をテーマとして, この状況を簡潔にまとめ, 社会的アプローチ(貧富の差の拡大を始めとした社会全体の活動性低下に対する対策)が保健・医療およびアフリカのすべてにとって重要であることを指摘している。

パプアニューギニア・アドミラルティ諸島での研究は, 近代化による非感染症リスクの増加(肥満, 高血圧, 血糖値上昇等)が従来からのマラリア等に加えて重要な健康問題となっていることを報告している⁴²⁶⁷。この地域では経済的理由によるニューギニア本島への人口流出等によって, 従来の文化・社会秩序・生業技術が失われている。また, それに対する伝統文化復活運動も起っている⁴²⁶⁶。このような社会変化がこの地域の健康転換の様相に強く関連していた。

マラリア, 有鉤囊虫症, 恙虫病についてのシンポジウムをまとめた報告⁴²⁵⁴では社会変化の中でこれらの疾病に対するサーベイランスシステムの確立を急ぐことが提案されている。健康転換がうまく進んでいるか否かをチェックするには各疾患に対するサーベイランスシステムが十分に確立され, 多くの研究者が情報を利用できる必要がある。

「生物兵器」として利用される可能性のある炭疽, 天然痘についての報告⁴²⁵⁵では, 先進国における「新しい感染症対策」の必要性が指摘されている。近年, 単純な健康転換理論の見直しが進んでいるが, この事例も「先進国 = 非感染症: 途上国 = 感染症」という単純化がもはや有効でないことを示す1事例だと考えられる。

アフリカへの国際援助についての論説⁴²⁵³では, これまでの日本の援助が政治的・歴史的な背景によって「なれない地域で実施困難な内容を未熟なノウハウで実行することを促されてきた」点を解説し, 国際保健分野でのソフトの強化を提案している。日本の国家戦略としての保健医療・Basic Human Needs に対する援助戦略は, 正しい「新健康転換理論」に基づいて体系的に実施されるべきことを示しているといえる。

一方, 福島県猪苗代湖と北海道のユスリカの新種・従来種を報告した研究^{4263 4264}は, ユスリカの種類の豊富さ, 自然環境の複雑さ, それについての研究不足と「自然の多様性に対する我々の無知さ」を明らかにしている。ユスリカは環境変化の指標としても注目されており, この様な地道が研究の重要性は再認識され 組織的な対策がとられるべきである。キノコショウジョウバエ属とショウジョウバエ属による食料キノコの選択性に関する生態学的研究⁴²⁵⁰も同様に重要である。社会からのアプローチは重要であるが, それをより正確で意義深いものにするには正しい生物学的理解が不可欠である。このような生物学, 生物分類学, 動物(昆虫)

生態学等の基礎研究を如何に組織的に展開し、熱帯医学とより深く関連づけるかの検討が求められる。

全般に本項で取上げた研究は興味深く、熱帯医学研究所としての特性を示すものが多かった。この「社会からのアプローチ」の分野は一般社会への啓発活動、個別専門研究の統合的分野としての意義をもつといえる。今後は、これらの研究成果・報告を基盤として長崎大学・熱帯医学研究所の研究・活動全体をよりわかり易く、深い洞察力のあるものとして社会全体に体系的にアピールする必要がある。そのためには、21世紀の「新健康転換」の現状に関する情報を蓄積・分析し、熱帯地域の保健医療に関する統合的方法論を熱帯医学研究所として確立・提案する努力が必要である。(文責：門司)

5 特別事業費による事業

5.1 熱帯医学研修課程

平成13年度（第24回）熱帯医学研修課程は、平成13年6月1日から8月31日までの3カ月間に亘って定員15名にて実施され、無事終了した。実施に先立ち所外関連領域機関長及び専門家16名に熱帯医学研修課程運営会委員を委嘱し、平成12年11月6日日本研究所において運営委員会を開催した。運営委員会では、平成12年度の実施報告に続き、平成13年度研修生募集要項（案）及び研修課程の運営案が討議され了承された。

応募者は国内及び国外から過去最高の34名の応募があった。応募者が多くなったことは、近年この種の研修課程に対する社会的要請が強まっていることの証左である。応募者の多くは先輩の修了生やNGO等の勧めにより応募したと申告していた。また、本研修課程が全国唯一の熱帯医学を専修できる研修課程であること、24回の研修を経て全国的に知名度が高くなってきていることなども考えられる。

選考の結果15名を合格とし研修生として受け入れた。研修生の内訳は、医師8名（うち2名は防衛庁医務官）、看護婦・助産婦3名、検査技師2名（厚生省検疫所係官）、薬剤師1名、研究生1名であった。研修生のうち4名は青年海外協力隊など海外での医療援助活動等の経験を持ち、また研修修了後海外で活動する具体的予定を持っている研修生も数名おり、その他の研修生もこれからも海外で何らかの形で活動する希望を強く持っていた。このように研修生の構成が高度な実践家を中心としたものに移ってきたのはここ数年の特徴である。

カリキュラムの内容については、本研究所各分野で担当する講義・実習を中心とした各論と外来講師による熱帯の自然、社会・経済、衛生環境などについての総論講義は概ね従来そのままとした上で、一部の講義課題及び講師を見直し研修生のニーズに応えることにした。具体的には、講師が異なることによる講義内容の重複等が昨年の研修生からのアンケートで指摘されたので、教務委員会で検討し、見直しを図った。またタンザニア、フィジーから国際機関の現役プロジェクト専門家を講師として招へいた。研修内容は、医師以外の研修生を考慮に入れ、あまり専門知識に偏らない講義、実習を心がけ、熱帯疾患については現地に即して幅広く取り上げた。

カリキュラム等についての教務委員と研修生との意見交換のため、研修期間半ば及び最終日に討論会を実施した。また今後の研修課程のあり方及び研修課程のカリキュラムの見直しに役立てるため研修生に対するアンケートを実施した。アンケートでは、カリキュラム（講義、実習）、講師、テキスト、研究所の設備、宿泊施設等全般について詳細で具体的な情報を得ようとした。

アンケートの結果，講義，実習，テキストの内容，研修課程全般について，10点満点のうち平均で9点の評価で，例年より2点高い評価を得た。中間討論会及び総合討論会における研修生からの意見内容を併せると，研修の意義はかなり達成されたと考えられる。しかし，一部分の講義・実習の内容，講義間の連携のなさや重複，テキストのデータの古さなどについては不満も述べられた。

熱帯医学研修に関する専門的事項を審議するための所外関連領域機関長及び専門家からなる運営委員会委員を，本年度は初の試みとして研修期間中の8月30日に開催し，議題審議の他研修生との意見交換も実施した。

昨今の応募者の推移等を勘案すれば，社会的要請に応えるためには更なる定員増も必要かもしれない。研修生からもその指摘を受けた。しかし現実環境での定員増には質の低下を危ぶむ意見も一方で多い。今後の研修課程像については教務委員会を中心に改善の途を検討中である。

5.2 熱帯地域における主要肝疾患に関する研究

東南アジアを含む熱帯・亜熱帯地域における肝炎ウイルス感染を主とした感染性肝疾患はその罹患者数，社会的問題性において重要な疾患の一つとなっている。本研究ではチェンマイ大学医学部との共同研究でタイ国北部を研究地域として平成12年度までに，1)持続感染により肝細胞癌を惹起するB型(HBV)およびC型肝炎ウイルス(HCV)について血清疫学調査をおこない，その感染実態，感染経路を明らかにした，2)季節的な変動を示すE型肝炎ウイルス感染の浸淫状況を報告した，3)衛生状態の異なった地域の児童におけるA型肝炎ウイルスの感染動向について調査をおこなった。平成13年度はHBVキャリアーに重複感染することにより，肝炎の重症化を招くことが多いD型肝炎ウイルス(HDV)について血清疫学調査をおこない，無症候性キャリアーではHDV感染がほとんど見られないことを明らかにした。また，継続しておこなった組織学的研究では市販薬の濫用による組織像の修飾が多くの肝疾患で見られるなどの知見を得た。この他，東南アジア各地においてマラリア媒介蚊の発生環境調査，赤痢アメーバの病原性株と非病原性株の分布環境調査なども継続しておこなった。

5.3 後天性免疫不全症候群（エイズ）に関する研究

現在、世界における HIV 感染者数は4,000万人を越え、そのうち70%以上がサハラ以南のアフリカに分布している。従って、この熱帯地域における HIV 感染症の社会的・経済的影響は無視できない。

感染症予防治療研究分野では1996年以降、東アフリカ、ウガンダにおいて HIV 感染症が成人の市中肺炎の発症に及ぼす影響について検討してきた。マケレレ大学附属病院に入院した市中肺炎99症例について HIV 感染の有無について調査したところ、実にその75%が HIV 感染者であった⁴²²⁸。HIV 感染者の平均末梢血 CD 4 数は330 / μl であり、HIV 非感染者は900 / μl であった。HIV 感染者の約70%が末梢血 CD 4 数は400 / μl 以下であった。しかしながら、HIV 感染者と非感染者では肺炎の臨床像に差が無かった。起炎菌は肺炎球菌、インフルエンザ菌がそれぞれ25%、10%とその主要なものであったが、これらの病原菌は主に β ラクタム薬に対する耐性が顕著であった。また、我々はこれらの症例に対してアンピシリンによる短期静注治療を試みた。39名の細菌性肺炎患者に対する治療効果は、起炎菌の薬剤耐性傾向にかかわらず HIV 感染者において81.2%、HIV 非感染者において85.7%と高率で、両群に有意差は無かった。以上の結果から、HIV 感染の蔓延する熱帯地域においてアンピシリンによる短期静注治療が細菌性市中肺炎に対する cost-effective な標準療法として推奨されるという結論に達した。

6 文部科学省科学研究費補助金等による研究

6.1 文部科学省科学研究費補助金(平成13年度採択分)

研究種目	研究代表者職・氏名	金額(千円)	研究課題	備考
特定領域研究 (C)(2)	教授・平山壽哉	7,000	ヘリコバクター・ピロリ VacA 毒素の空胞致死活性機序	13年度
"	教授・平山謙二	7,000	プール DNA を用いた熱帯感染症重症化関連遺伝子領域のマイクロサテライト	13年度
基盤研究(A) 海外(1)	教授・平山謙二	11,100 間接 3,330	シャーガス病の多様な病態とヒト及び原虫の種内変異との関連	12年～14年度 継続
基盤研究(A) 海外(2)	教授・高木正洋	3,700 間接 1,110	東南アジアにおける環境変化が疾病媒介蚊に及ぼす影響	11年～13年度 継続
基盤研究(B) 海外(1)	助教授・大石和徳	3,500	DNA array によるアフリカの HIV 感染者における免疫病態に関する研究	12年～13年度 継続
基盤研究(B) 一般(2)	教授・永武毅	2,800	呼吸器病原菌のヒト上皮細胞付着因子解明による感染予防戦略への応用	13年～14年度
基盤研究(B) 展開(2)	教授・平山壽哉	6,600	ヘリコバクター・ピロリの成分ワクチン開発基盤	13年～15年度
基盤研究(B) 海外(2)	教授・青木克己	4,800	ビルハルツ住血吸虫症 - 流行地の住民への浸潤程度が明らかにされるべき病害の疫学調査	12年～14年 継続
"	教授・神原廣二	4,800	病原性赤痢アメーバおよびクリプトスポリジウムの本来の感染様式	12年～13年度 継続
"	教授・永武毅	3,700	タイ国における AIDS に合併した呼吸器感染症治療法と予防対策の研究	12年～14年 継続
"	助教授・鳥山寛	3,600	熱帯アフリカと東南アジアにおける悪性腫瘍の分子病理学的研究	13年～16年度
"	教授・嶋田雅暁	2,300	アフリカにおける住血吸虫症流行地住民の行動研究	13年～15年度
"	教授・森田公一	4,400	東南アジアにおけるデング出血熱の新興・拡大の原因調査	13年～14年度
基盤研究(C) 一般(2)	教授・高木正洋	600	無人島におけるヒトスジシマカの定着・存続に関する研究	10年～13年度
"	教授・中村三千男	1,300	白血球における CYBB 単一遺伝子の細胞特異的発現機構の解析とその応用	12年～13年度 継続
"	助手・森直樹	1,300	ヒト T 細胞白血病ウイルス 型 Tax による TGF- β シグナル伝達の制御	12年～13年度 継続

研究種目	研究代表者職・氏名	金額(千円)	研究課題	備考
基盤研究(C) 一般(2)	講師・熊取厚志	2,100	CYBB 転写異常型慢性肉芽腫におけるインターフェロン γ 著効機序の解析	13年～14年度
"	講師・津田良夫	900	都市化がもたらすデング熱媒介蚊の生態遺伝的变化	13年～16年度
基盤研究(C) 一般(2)	講師・上村春樹	1,800	トランスシアリダーゼファミリーの構造と機能の多様性と原虫生活環における役割	13年～14年度
"	教授・青木克己	1,900	住血吸虫ミラシジウムの中間宿主貝へのケモ・クリノカインシスに係る情報伝達経路	13年～14年度
"	教授・平山壽哉	2,600	ヘリコバクター・ピロリ VacA 毒素の毒性発現と受容体の役割	13年～14年度
"	助教授・大渡伸	2,200	疾病感染に対する太陽紫外線曝露の増悪作用と影響評価	13年～14年度
奨励研究(A)	助手・金田英子	700	気候・標高・生活習慣が体力に及ぼす影響(ネパール人女性と日本人女性との比較)	12年～13年度 継続
"	助手・渡部幹次	1,400	核磁気共鳴画像装置を用いた、糞線虫感染による脳内病変と宿主行動変容の経時的解析	13年～14年度
"	助手・和田昭裕	1,500	ヘリコバクター・ピロリの病原性遺伝子群の機能解析	13年～14年度
"	助手・鈴木章一	1,800	樹状細胞の分化における IRF - 4 の役割	13年～14年度
合計	直接経費 間接経費	85,400 4,440		

6.2 文部科学省科学研究費補助金(平成14年度内定分)

研究種目	研究代表者職・氏名	金額(千円)	研究課題	備考
特定領域研究 (2)	教授・平山壽哉	6,500	ヘリコバクター・ピロリ VacA 毒素の空胞致死活性機序	14年度
"	教授・高木正洋	3,000	疾病媒介蚊の地理的変異の精査, 並びにその起因環境の GIS による分析	14年度
基盤研究(A) 海外(1)	教授・平山謙二	11,100 間接 3,330	シャーガス病の多様な病態とヒト及び原虫の種内変異との関連	12年～14年度 継続
基盤研究(A) 海外(2)	教授・高木正洋	8,500 間接 2,550	東南アジアにおける蚊媒介性感染症の流行を左右する環境の定量的評価	14年～17年度
基盤研究(B) 一般(2)	教授・永武毅	2,800	呼吸器病原菌のヒト上皮細胞付着因子解明による感染予防戦略への応用	13年～14年度 継続

研究種目	研究代表者職・氏名	金額(千円)	研究課題	備考
基盤研究(B) 展 開(2)	教授・平山 壽哉	3,600	ヘリコバクター・ピロリの成分ワ クチン開発基盤	13年～15年度 継続
基盤研究(B) 海 外(2)	教授・青木 克己	5,000	ビルハルツ住血吸虫症 - 流行地の 住民への浸潤程度が明らかにされ るべき病害の疫学調査	12年～14年 継続継続
"	教授・永武 毅	3,700	タイ国における AIDS に合併した 呼吸器感染症治療法と予防対策の 研究	12年～14年 継続
"	教授・門司 和彦	1,000	エイズと住血吸虫感染の予防行動 に対する健康教育の有効性に関する 研究	12年～15年度 継続
"	教授・森田 公一	4,600	東南アジアにおけるデング出血熱 の新興・拡大の原因調査	13年～14年度 継続
"	教授・嶋田 雅暁	2,300	アフリカにおける住血吸虫症流行 地住民の行動研究	13年～15年度 継続
"	助教授・鳥山 寛	3,400	熱帯アフリカと東南アジアにおけ る悪性腫瘍の分子病理学的研究	13年～16年度 継続
"	教授・平山 壽哉	6,900	ヘリコバクター・ピロリ感染の多 様な疾患と VacA 毒素の多型比較 調査	14年～15年度 調査
"	教授・岩崎 琢也	6,600	東南アジアにおけるウイルス性脳 脊髄炎のウイルス病理学的解析	14年～16年度
"	助教授・大石 和徳	5,300	デングウイルス感染症における血 小板減少の機序の解明	14年～15年度
"	講師・上村 春樹	2,500	熱帯熱マラリア原虫の薬剤耐性遺 伝子の変異多型と薬剤感受性：地 域性と時間的推移	14年～16年度
"	助手・安高 雄治	2,800	アフリカにおける高解像度衛星画 像デ - タの熱帯感染症研究への応 用	14年～16年度
基盤研究(C) 一 般(2)	教授・平山 壽哉	1,600	ヘリコバクター・ピロリ VacA 毒 素の毒性発現と受容体の役割	13年～14年度 継続
基盤研究(C) 一 般(2)	教授・青木 克己	1,600	住血吸虫ミラシジウムの中間宿主 貝へのケモ・クリノカイネシスに 係る情報伝達経路	13年～14年度 継続
"	助教授・大渡 伸	1,500	疾病感染に対する太陽紫外線曝露 の増悪作用と影響評価	13年～14年度 継続
"	講師・上村 春樹	1,300	トランスシアリダーゼファミリー の構造と機能の多様性と原虫生活 環における役割	13年～14年度 継続
"	講師・熊取 厚志	1,500	CYBB 転写異常型慢性肉芽腫にお けるインターフェロン γ 著効機序 の解析	13年～14年度 継続

研究種目	研究代表者職・氏名	金額(千円)	研究課題	備考
"	講師・津田良夫	900	都市化がもたらすデング熱媒介蚊の生態遺伝的变化	13年～16年度 継続
"	教授・岩崎琢也	2,200	単純ヘルペス感染における粘膜より神経への伝播経路の解明	14年～15年度
"	教授・中村三千男	2,200	リケッチア感染による gp91phox 遺伝子発現の修飾機構の解析	14年～15年度
"	助教授・大石和徳	1,700	インフルエンザ菌による肺適応免疫誘導に関する研究	14年～15年度
基盤研究(C) 企画(2)	助手・谷村晋	3,400	ミャンマ - における住血吸虫症疫学調査	14年度
萌芽研究	教授・門司和彦	1,200	アフリカにおける子どもの「病いの疫学」と統合ケア(IMCI)	14年～15年度
若手研究(B)	助手・和田昭裕	600	ヘリコバクター・ピロリの病原性遺伝子群の機能解析	13年～14年度 継続
"	助手・渡部幹次	500	核磁気共鳴画像装置を用いた、糞線虫感染による脳内病変と宿主行動変容の経時的解析	13年～14年度 継続
"	助手・鈴木章一	1,000	樹状細胞の分化における IRF - 4 の役割	13年～14年度 継続
合計	直接経費 間接経費	100,800 5,880		

6.3 受託研究費(平成13年度分)

受託者等	研究担当者職・氏名	研究課題	備考
厚生省科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業	講師・森田公一	節足動物媒介性ウイルスに対する診断法の確立, 疫学及びワクチン開発に関する研究	分担研究者
厚生省科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業	講師・森田公一	感染症および感染症対策の国際動向に関する研究	分担研究者
環境省地球環境保全等に関する試験研究	講師・森田公一	節足動物媒介性ウイルス疾患の予防・治療に関する研究	分担研究者
国際協力研究委託費	教授・神原廣二	<i>Anopheles subpictus</i> によって起こされるマラリア流行制圧の試み	分担研究者
株式会社日本厚生科学研究所との共同研究	教授・神原廣二	病原性原生動物の温度感受性に関する基礎的研究	研究代表者
国際協力事業団開発パートナー事業	教授・神原廣二	インドネシア国ロンボックおよびスンバウ島におけるマラリア対策	プロジェクトマネージャー

受託者等	研究担当者職・氏名	研究課題	備考
国際医療協力研究 委託事業	教授・青木克己	国際寄生虫対策の効果的，効率的な推進方 策に関する研究	分担研究者
厚生科学研究費 補助金	教授・青木克己	日本住血吸虫等，世界の寄生虫疾患の疫学 及び予防に関する研究	分担研究者
厚生科学研究費補 助金・新興・再興 感染症研究事業	教授・岩崎琢也	重症エンテロウイルス脳炎の疫学的及びウ イルス学的研究並びに臨床的対策に関する 研究	代表研究者
厚生科学研究費補 助金・新興・再興 感染症研究事業	教授・岩崎琢也	野生齧歯類及びダニ類に由来する病原体の 病原性	分担研究者
厚生科学研究費 補助金・特定疾患 研究事業	教授・岩崎琢也	特定疾患の微生物学的病因究明に関する研 究	分担研究者
厚生労働省国際医 療協力研究委託費	助教授・鳥山寛	タイにおける肝疾患のウィルス学的および 病理学的研究	分担研究者
国際医療協力研究 委託事業	教授・永武毅	開発途上国において有効な急性呼吸器感染 症（ARI）の治療・予防に関する研究～熱 帯地方における急性呼吸器感染症の実態調 査と治療および予防に関する臨床的研究～	分担研究者
厚生省科学研究費 補助金	教授・永武毅	インフルエンザ脳炎・脳症の発症機序の解 析と治療法の開発研究	分担研究者
日米医学協力研究会	教授・永武毅	急性呼吸器感染症	部会員
日米医学協力計画 アジア地域奨励 研究事業	教授・永武毅	ベトナムの小児急性肺炎の起炎菌診断に関 する疫学的研究	主任研究者
厚生省特定疾患 対策研究事業	教授・永武毅	特定疾患の微生物学的原因究明に関する研 究	分担研究者
厚生科学研究費 補助金	教授・永武毅	新興・再興感染症研究事業 髄膜炎菌性髄膜炎の発生动向調査及び検出 方法研究	分担研究者
公益信託日本白血 病研究基金	助手・森直樹	NF- κ B 阻害剤による成人 T 細胞白血病の 分子標的療法	
厚生省新興再興 感染症研究事業	教授・平山謙二	日本住血吸虫等世界の寄生虫疾患および予 防に関する研究	分担研究者
厚生科学研究費 補助金	教授・嶋田雅暁	日米住血吸虫等世界の寄生虫疾患の疫学及 び予防に関する研究 対策のための数学 モデルの作成	分担研究者

7 海外活動

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
教授	青木克己	ケニア国感染症および寄生虫症研究対策プロジェクト実施協議調査団員	ケニア	13.4.4 ～ 13.4.15	国際協力事業団
教授	永武毅	共同研究打ち合わせ	トルコ	13.4.20 ～ 13.4.25	委任経理金
教授	永武毅	小児性髄膜炎に関する共同研究打ち合わせ	バングラデシュ	13.4.26 ～ 13.4.30	受託研究費
教授	溝田勉	小児性髄膜炎に関する共同研究打ち合わせ	バングラデシュ	13.4.26 ～ 13.4.30	受託研究費
助教授	大石和徳	フィリピンにおけるデングウイルス感染症の実態調査及び臨床的研究	フィリピン	13.5.8 ～ 13.5.13	委任経理金
教授	永武毅	第2回ケトライド国際フォーラムへ出席・発表	アメリカ	13.5.17 ～ 13.5.21	自費
教授	平山壽哉	米国微生物学会へ出席・発表	アメリカ	13.5.19 ～ 13.5.27	委任経理金
助手	中澤秀介	拠点大学方式による共同研究(ベトナムにおける蚊媒介性疾患(マラリア)に関する研究)の実施	ベトナム	13.5.31 ～ 13.6.27	日本学術振興会
教授	高木正洋	東南アジアにおける環境変化が疾病媒介蚊に及ぼす影響に関する調査研究	タイ	13.6.7 ～ 13.6.16	科学研究費補助金(基盤研究(A)(2))
教授	中村三千男	Phagocytes学会へ出席・発表及び研究打合せ	アメリカ	13.6.8 ～ 13.6.17	科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))
教授	平山謙二	タマサート大学保健衛生学部医科学大学院で国際プログラムの一環として講演	タイ	13.6.10 ～ 13.6.14	タマサート大学
講師	渡邊浩	チェンマイ大学との共同研究「タイ国におけるAIDSに合併した呼吸器感染症治療法と予防対策」の実施	タイ	13.6.16 ～ 13.6.23	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助手	麻生憲史	チェンマイ大学との共同研究「タイ国におけるAIDSに合併した呼吸器感染症治療法と予防対策」の実施	タイ	13.6.16 ～ 13.6.23	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
講師	津田良夫	拠点大学方式による共同研究(疾病媒介蚊の生態学研究)の実施	ベトナム	13.6.19 ～ 13.6.26	日本学術振興会
教授	平山謙二	WHO熱帯病特別研究プロジェクト(抗マラリア薬の治験プロジェクトの臨床モニターとして)へ参加	タイ	13.6.29 ～ 13.7.4	世界保健機関

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
助手	菊池三穂子	第2回アジア住血吸虫症ネットワーク会議及び住血吸虫症国際シンポジウムへ出席・発表	中国	13.6.30 ～ 13.7.6	自費
教授	青木克己	インドネシア・開発パートナー「NTBロンボック及びスンバワ島におけるマラリア対策」に係る調査団員	インドネシア	13.7.1 ～ 13.7.10	国際協力事業団
教授	神原廣二	インドネシア・開発パートナー「NTBロンボック及びスンバワ島におけるマラリア対策」に係る調査団員	インドネシア	13.7.1 ～ 13.7.12	国際協力事業団
教授	平山壽哉	ヘリコバクター・ピロリの成分ワクチン開発に関する研究打合せ	アメリカ	13.7.9 ～ 13.7.13	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助手	江原雅彦	拠点大学方式による共同研究(腸管感染症に関する研究)の実施	ベトナム	13.7.15 ～ 13.7.22	日本学術振興会
助教授	大石和徳	マケレレ大学医学部との共同研究「DNA arrayによるアフリカのHIV感染者における免疫病態に関する研究」の実施	ウガンダ	13.7.16 ～ 13.7.29	科学研究費補助金(基盤研究(B)(1))
教授	永武毅	第4回アジア太平洋消毒会議へ出席及び発表	カナダ	13.7.17 ～ 13.7.22	自費
助手	金田英子	平成13年度技術協力専門家研修(プライマリ・ヘルスケアコース)へ参加	フィリピン	13.7.19 ～ 13.7.31	国際協力事業団
教授	平山謙二	トリパノソーマのマイクロサテライト解析について共同研究打合せ・WHO/TDRの会議へ出席	アメリカ タ イ	13.7.20 ～ 13.8.14	科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))
外国人 研究員	リベラ ウインデル ラベリント	赤痢アメーバの分子疫学に関する調査・研究及び資料収集	フィリピン	13.7.28 ～ 13.8.12	自費
講師	藤巻康教	拠点大学方式による共同研究(土壌媒介寄生虫病に関する研究)の実施	ベトナム	13.7.29 ～ 13.8.12	日本学術振興会
助教授	鳥山寛	タイ国北部において肝疾患の血清疫学及び悪性腫瘍の組織学的調査・研究	タイ	13.8.4 ～ 13.8.14	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助教授	大石和徳	拠点大学方式による共同研究(ベトナムにおける急性呼吸器感染症の診断・治療と予防)の実施	ベトナム	13.8.5 ～ 13.8.11	日本学術振興会
助手	渡邊貴和雄	拠点大学方式による共同研究(ベトナムにおける急性呼吸器感染症の診断・治療と予防)の実施	ベトナム	13.8.5 ～ 13.8.11	日本学術振興会
教授	高木正洋	拠点大学方式による共同研究(蚊媒介性疾患に関する研究)の実施	ベトナム	13.8.5 ～ 13.8.11	日本学術振興会

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
教授	神原 廣二	「病原性赤痢アメーバおよびクリプトスポリジウムの本来の感染様式」に関する研究	フィリピン	13.8.5 ～ 13.8.12	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助手	中澤 秀介	ラオスマラリアコントロールプログラムの総括会議へ出席・発表	ラオス	13.8.6 ～ 13.8.8	委任経理金
助手	谷村 晋	東南アジアにおける環境変化が疾病媒介蚊に及ぼす影響の研究のための情報・資料収集	ベトナム	13.8.5 ～ 13.8.11	科学研究費補助金(基盤研究(A)(2))
助手	菊池 三穂子	新興・再興感染症研究の最近の進展に関するセミナーへの出席・発表	タイ	13.8.7 ～ 13.8.11	日本学術振興会
教授	溝田 勉	熱帯地域における主要肝疾患に関する調査研究及び研究打合せ	タイ	13.8.10 ～ 13.8.12	委任経理金
助手	渡部 幹次	ネパールにおけるマラリアに対する文化的・生物学的適応に関する調査・研究	ネパール	13.8.17 ～ 13.9.1	科学研究費補助金(大阪大学負担)
講師	森田 公一	結核及び日本脳炎に関するテクニカルミーティングの講師	ベトナム	13.8.19 ～ 13.8.25	(助)日本国際医療団
客員教授	バス デヴ パンディ	アジア諸国の小児科医による研究集会へ参加	マレーシア	13.8.26 ～ 13.9.2	自費
講師	森田 公一	スリランカにおける Dengue 迅速診断法の指導	スリランカ	13.9.1 ～ 13.9.15	国際原子力機構
教授	神原 廣二	「病原性赤痢アメーバおよびクリプトスポリジウムの本来の感染様式」に関する調査・研究	ネパール	13.9.5 ～ 13.9.26	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助手	柳 哲雄	「病原性赤痢アメーバおよびクリプトスポリジウムの本来の感染様式」に関する調査・研究	ネパール	13.9.5 ～ 13.9.26	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助手	長谷部 太	拠点大学方式学術交流事業による共同研究実施	ベトナム	13.9.8 ～ 13.9.21	日本学術振興会
教授	嶋田 雅暁	第44回人間生物学会合同シンポジウム参加及び資料収集	イギリス	13.9.15 ～ 13.9.20	委任経理金
講師	津田 良夫	第3回国際媒介動物生態学会出席およびケニアにおける疾病媒介蚊の生態調査	スペイン ケニア	13.9.16 ～ 13.10.29	委任経理金
助手	中澤 秀介	拠点大学方式学術交流事業による共同研究実施	ベトナム	13.9.25 ～ 13.9.29	日本学術振興会

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
助教授	大石和徳	デングウイルス感染症実態調査及び臨床的研究	フィリピン	13.10.4 ～ 13.10.11	委任経理金
教授	平山壽哉	ヘリコバクター・ピロリの成分ワクチン開発に関する調査研究	アメリカ合衆国	13.10.5 ～ 13.10.19	在外研究員旅費
教授	中村三千男	活性酸素産生系機構に関する共同研究	アメリカ合衆国	13.10.8 ～ 13.10.12	科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))
教授	平山謙二	原虫分類に関する共同研究打合せ	マレーシア	13.10.8 ～ 13.10.13	科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))
教授	青木克己	第7回日韓寄生虫セミナー参加	韓国	13.10.23 ～ 13.10.25	委任経理金
教授	嶋田雅暁	第7回日韓寄生虫セミナー参加	韓国	13.10.23 ～ 13.10.25	委任経理金
教授	平山謙二	第7回日韓寄生虫セミナー参加および発表	韓国	13.10.23 ～ 13.10.25	科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))
外国人研究員	リベラ ウインデル ラベリント	赤痢アメーバの分子疫学に関する調査・研究及び資料収集	フィリピン	13.10.27 ～ 13.11.11	自費
教授	神原廣二	マラリアコントロールに関する研究のためのロンボク島地域全体の流行差調査	インドネシア	13.11.4 ～ 13.11.10	受託研究費
教授	平山謙二	シャーガス病患者の採血及び共同研究打合せ	ポリビア	13.11.12 ～ 13.11.19	科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))
教授	神原廣二	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	インドネシア	13.11.16 ～ 13.12.1	受託研究費
教授	高木正洋	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	インドネシア	13.11.16 ～ 13.12.1	受託研究費
助手	都野展子	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	インドネシア	13.11.16 ～ 13.12.1	受託研究費
技能補佐員	前川芳秀	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	インドネシア	13.11.16 ～ 14.3.31	受託研究費
技能補佐員	吉永一未	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	インドネシア	13.11.16 ～ 14.3.31	受託研究費

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
教授	永武毅	共同研究打合せ	トルコ	13.11.16 ～ 13.11.20	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
講師	藤巻康教	「ベトナム小児の摂取栄養と寄生虫感染がアレルギーに及ぼす影響」についての研究打合せ及び糞便寄生虫卵検査の実施	ベトナム	13.11.19 ～ 13.11.23	科学研究費補助金(徳島大学負担)
教授	平山謙二	住血吸虫再感染抵抗性に関する遺伝要因の研究に関する共同研究打合せ	中国	13.11.20 ～ 13.11.23	科学研究費補助金(特定領域研究(C)(2))
教授	森田公一	東南アジアにおけるデング出血熱の新興・拡大の原因調査	フィリピン ベトナム	13.11.25 ～ 13.12.4	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教授	平山謙二	デング熱及びマラリアに関する研究打合せ	ベトナム タイ	13.11.29 ～ 13.12.4	科学研究費補助金(特定領域研究(C)(2))
助手	柳哲雄	原虫感染症の疫学的研究	グアテマラ キューバ	13.12.2 ～ 14.1.30	在外研究員旅費
教授	永武毅	急性呼吸器感染症に関する共同研究	ベトナム	13.12.9 ～ 13.12.14	日本学術振興会
教授	平山謙二	会議出席及び研究打合せ	アメリカ	13.12.6 ～ 13.12.13	世界保健機関
教授	高木正洋	「東南アジアにおける環境変化が疾病媒介蚊に及ぼす影響」に関する研究打合せ	ベトナム	13.12.17 ～ 13.12.23	科学研究費補助金(基盤研究(A)(2))
教授	永武毅	小児性髄膜炎に関する共同研究打合せ	バングラデシュ	13.12.23 ～ 13.12.28	受託研究費
教授	溝田勉	「地球保健における新興・再興感染症対策」の共同研究	ベトナム	13.12.30 ～ 14.1.6	日本学術振興会
教授	高木正洋	論博研究者の研究指導	タイ	14.1.5 ～ 14.1.20	日本学術振興会
教授	平山謙二	抗マラリア薬の治験審査	タイ	14.1.6 ～ 14.1.9	世界保健機関
講師	津田良夫	疾病媒介蚊の野外調査	シンガポール インドネシア	14.1.9 ～ 14.1.29	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教授	永武毅	急性呼吸器感染症に関する共同研究	タイ	14.1.12 ～ 14.1.17	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
助手	麻生 憲史	急性呼吸器感染症に関する共同研究	タイ	14.1.12 ～ 14.1.26	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教授	平山 謙二	中南米のシャーガス病患者由来の原虫株の分離と収集	メキシコ ボリビア	14.1.15 ～ 14.1.28	科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))
助手	井上 真吾	デングウイルスおよび日本脳炎ウイルスの分離・解析	フィリピン	14.1.15 ～ 14.2.28	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教授	平山 壽哉	ヘリコバクターピロリ感染の実状に関する資料収集及び感染予防対策とワクチン応用の可能性についての討議	ベトナム	14.1.19 ～ 14.1.23	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
講師	上村 春樹	ベトナムにおける蚊媒介性疾患(マラリア)に関する共同研究	ベトナム	14.1.23 ～ 14.1.30	日本学術振興会
助教授	鳥山 寛	肝疾患の血清疫学、病理学的調査及び研究	タイ	14.1.26 ～ 14.2.10	受託研究費
教授	神原 廣二	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	インドネシア	14.1.27 ～ 14.2.16	受託研究費
教授	溝田 勉	共同研究打合せ	タイ バングラデシュ	14.1.29 ～ 14.2.5	委任経理金
教授	嶋田 雅暁	タンザニア「キリマンジャロ農業技術者訓練センター計画フェーズⅡ(灌漑事業における住血吸虫対策)」専門家	タンザニア	14.2.2 ～ 14.2.28	国際協力事業団
教授	青木 克己	ケニアにおけるビルハルツ住血吸虫感染による排尿困難に関する調査研究	ケニア	14.2.3 ～ 14.2.17	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助手	渡部 幹次	ケニアにおけるビルハルツ住血吸虫感染による排尿困難に関する調査研究	ケニア	14.2.3 ～ 14.2.25	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助手	吉嶺 裕之	マケレレ大学医学部とのエイズ合併日和見感染症の共同研究	ウガンダ	14.2.4 ～ 14.2.16	受託研究費
助手	安高雄 治	住血吸虫症の疫学的及び生態学的研究	イギリス タンザニア	14.2.6 ～ 14.3.22	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教授	高木 正洋	国際協力事業団開発パートナーシップ事業の実施及び拠点大学方式学術交流事業による平成14年度交流事業計画の打合せ	インドネシア ベトナム	14.2.12 ～ 14.2.24	受託研究費及び日本学術振興会
助手	金田 英子	住血吸虫症流行地住民の行動研究	タンザニア	14.2.13 ～ 14.4.12	自費

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
助教授	大石和徳	日米医学協力研究会急性呼吸器感染症部会日米合同会議へ出席および発表	アメリカ	14.2.13 ～ 14.2.17	委任経理金
教授	永武毅	日米医学協力研究会急性呼吸器感染症部会日米合同会議へ出席および発表	アメリカ	14.2.13 ～ 14.2.17	委任経理金
庶務主任	橋口洋二	拠点大学方式学術交流事業による平成14年度交流事業計画の打合せ	ベトナム	14.2.17 ～ 14.2.23	日本学術振興会
助手	谷村晋	拠点大学方式による共同研究(地域保健における新興・再興感染症対策)の実施	ベトナム	14.2.21 ～ 14.2.27	日本学術振興会
講師	藤巻康教	拠点大学方式による共同研究(腸管感染症に関する研究)の実施	ベトナム	14.2.24 ～ 14.3.9	日本学術振興会
教授	森田公一	日本学術振興会論文博士号取得希望者に対する研究指導	インド	14.2.24 ～ 14.3.4	日本学術振興会
講師	津田良夫	疾病媒介蚊の現地調査及び資料収集	タイ	14.2.26 ～ 14.3.9	科学研究費補助金(基盤研究(A)(2))
教授	平山謙二	デング出血熱患者の疾患感受性遺伝子解析	ベトナム	14.2.27 ～ 14.3.2	科学研究費補助金(特定領域研究(C)(2))
教授	永武毅	外務省巡回医師団	タンザニア エチオピア	14.3.1 ～ 14.3.11	外務省
教授	嶋田雅暁	外国人受託研究員のための資料収集	タンザニア	14.3.6 ～ 14.3.22	産学連携等研究費
助教授	大石和徳	日米医学協力計画に基づく米国研修生(中級)	アメリカ	14.3.10 ～ 14.3.17	日米医学協力研究会
教授	平山壽哉	ヘリコバクター・ピロリの病原性に関する研究打合せ	アメリカ	14.3.12 ～ 14.3.16	科学研究費補助金(特定領域研究(C)(2))
助手	中澤秀介	厚生労働省国際医療協力研究委託事業として、血液銀行、研究施設の視察訪問	インドネシア	14.3.17 ～ 14.3.22	(財)国際保健医療交流センター
教授	神原廣二	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	インドネシア	14.3.20 ～ 14.3.24	国際協力事業団
助手	谷村晋	ホンジュラス・第7保健地域リプロダクティブヘルス向上(保健医療情報システム2)短期派遣専門家	ホンジュラス	14.3.30 ～ 14.4.18	国際協力事業団

8 外国人研究者の受け入れ

8.1 熱帯医学研究コース

国際協力事業団（JICA）の委嘱により熱研に於いて実施している本集団研修コース（熱帯医学研究）は、平成10年度より期間が9ヶ月から12ヶ月となった。また従来の Certificate に変わって Diploma を授与する事となり、より一層の質的向上を果たした。第19回目に当たる平成13年度には10名の研修生を受け入れた。その内訳は、中国1名、タンザニア2名、キューバ5名、ベトナム1名であった。

平成14年1月21日に入所式を行った後、1月24日より3月4日まで凡そ6週間に亘り熱帯医学総論、感染症各論、各種病原体・媒介動物同定法などの研修を行った。この共通講義・実習には所内全分野が参加し数日ずつ分担して各分野の基礎的な知識を授けた。

各研修生は3月5日より各専攻分野に所属し、分野が用意したプログラムに沿った研修と、与えられた研究課題に係る研究に専念した。5月には京都大学ウィルス研究所、大阪大学微生物学研究所、神戸大学医学部への研修旅行を実施した。また学会、野外調査などに参加した研修生も多かった。

12月9日に研究成果の発表が行われ、その評価に基づき12月13日に Diploma の授与と修了式が挙行された。

8.2 平成13年度に受け入れた外国人研究者

分野等	氏名	国籍	受入期間	制度等	備考
分子構造解析	Kriengsak Limkittikul	タイ	13.1.22~ 13.12.14	集団研究 コース	JICA
	Parquet Maria del Carmen	アルゼンチン	13.4.1~ 14.3.31	中核的研究 機関研究員	文部科学省
	Yu Fuxun	中国	13.4.1~ 14.3.31	外国人客員 研究員	日中医学協会
	Truong Uyen Ninh	ベトナム	13.6.20~ 13.7.17		JSPS
	Le Thi Quynh Mai	ベトナム	13.6.20~ 13.7.17		JSPS
	Vu Thi Que Huong	ベトナム	13.7.15~ 13.8.11		JSPS
	Do Quang Ha	ベトナム	13.7.15~ 13.7.21		JSPS
	Paresh Sumatilal Shah	インド	13.10.13~ 14.1.10	論博研究者	JSPS
	Phan Thi Nga	ベトナム	14.1.12~ 14.1.31		JSPS
	Gissel Garcia Menendez	キューバ	14.1.21~ 14.12.13	集団研究 コース	JICA
	Do Quang Ha	ベトナム	14.3.10~ 14.3.17		JSPS
病原因子機能解析	Mohamed Lemine Cherif	モーリタニア	13.1.22~ 13.12.14	集団研究 コース	JICA
	Blanquita B DE Guzman	フィリピン	13.7.1~ 13.9.28	論博研究者	JSPS
	Jose Luis Millan	アメリカ	13.7.29~ 13.7.31		
	Rafael Alberto Llanes Caballero	キューバ	14.1.21~ 14.12.13	集団研究 コース	JICA
感染細胞修飾機構	Liliana Pelayo	キューバ	13.1.15~ 13.11.14	外国人招聘 研究者	JSPS
	Rivera Windell Laberinto	フィリピン	13.6.1~ 14.3.31	外国人研究員	文部科学省
	Le Duc Dao	ベトナム	13.11.15~ 13.12.12		JSPS
	Acleus Malinzi Rutta	タンザニア	14.1.21~ 14.12.13	集団研究 コース	JICA
	Julio Cesar Reyes Stumvoll	ボリビア	14.2.19		JICA
	Ngin Nuon Pisey	カンボジア	14.2.19		JICA
	Bayinchahan	中国	14.2.19		JICA
	Richard Kwasi Yeboah	ガーナ	14.2.19		JICA
	Karanjya Daivis	ケニア	14.2.19		JICA

分野等	氏名	国籍	受入期間	制度等	備考
感染細胞修飾機構	Irungu Mwangi Gaturaga	ケニア	14.2.19		JICA
	Proches Constantine Malamsha	タンザニア	14.2.19		JICA
	Montalan Vongpakorn	タイ	14.2.19		JICA
	Thicomporn Yamsaard	タイ	14.2.19		JICA
	Kubi Christopher Kaluba	ザンビア	14.2.19		JICA
	Komang Gerudug	インドネシア	14.3.7 ~ 14.3.15		
寄生行動制御	Augustine Okwudili Maduekwe	ナイジェリア	13.1.30 ~ 13.12.14	集団研究 コース	JICA
	Libere Ndayisenga	ブルンディ	13.1.22 ~ 13.12.14	集団研究 コース	JICA
	Wamae Elisabeth Claire Njeri	ケニア	13.8.1 ~ 14.3.31	外国人研究員	文部科学省
	Nguyen Thi Dang	ベトナム	13.10.1 ~ 13.10.28		JSPS
	Fidel Angel Nunez Fernandez	キューバ	14.1.21 ~ 14.12.13	集団研究 コース	JICA
	Ismail Mostafa AL - Sharkawi	エジプト	14.3.1 ~ 14.5.31	外国人客員 研究員	エジプト政府
分子疫学	Enriquez Gloria Lumbea	フィリピン	11.6.1 ~ 13.5.31	外国人研究員	文部科学省
	Pandey Basu Dev	ネパール	13.6.1 ~ 14.5.31	外国人研究員	文部科学省
炎症細胞	楊丹	中国	12.6.1 ~ 13.5.31	外国人研究員	文部科学省
	Erzsebet Katalin Rusvai	ハンガリー	13.1.22 ~ 13.12.14	集団研究 コース	JICA
	Jorge Fraga Nodarse	キューバ	14.1.21 ~ 14.12.13	集団研究 コース	JICA
病変発現機序	Yan Zha	中国	13.1.22 ~ 13.12.14	集団研究 コース	JICA
	Driss Ahmed MOULAYE	モーリタニア	14.1.21 ~ 14.12.13	集団研究 コース	JICA
	Prapan Jutavijittum	タイ	14.2.10 ~ 14.3.12		
感染症予防治療	Simon Angelo Ntabaguzi	タンザニア	13.1.22 ~ 13.12.14	集団研究 コース	JICA
	Phan Le Thanh Huoug	ベトナム	13.6.17 ~ 13.6.30		JSPS
	Ngo Thi Thi	ベトナム	13.6.17 ~ 13.6.30		JSPS
	Nguyen Thi Lan Hoa	ベトナム	13.6.17 ~ 13.6.25		JSPS
	Saha Samir Kumar	バングラデシュ	13.9.16 ~ 13.9.22		

分野等	氏名	国籍	受入期間	制度等	備考
感染症予防治療	Pojana Sriburee	タイ	13.9.30~ 13.12.1		
	Olivia Sebastian Rusizoka	タンザニア	14.1.21~ 14.12.13	集団研究 コース	JICA
生物環境	Siswanto	インドネシア	13.1.22~ 13.12.14	集団研究 コース	JICA
	Hans Overgaard	ノルウェー	13.2.1~ 13.4.5	外国人客員 研究員	日本・スウェー デン協会
	Ha Ba Khiem	ベトナム	13.7.15~ 13.7.21		JSPS
	Wannapa Suwonkerd	タイ	13.8.16~ 13.11.13	論博研究者	JSPS
	Nguyen Van Cu	ベトナム	13.9.3~ 13.9.9		JSPS
	Xi-Min Hu	中国	14.1.21~ 14.12.13	集団研究 コース	JICA
	Joyce Nyambura Githuto	ケニア	14.3.18~ 15.2.13		JICA
社会環境	Hla Mya Thway Einda	ミャンマー	13.1.22~ 13.12.14	集団研究 コース	JICA
	Pham Kim Sac	ベトナム	13.7.15~ 13.7.28		JSPS
	Susana Marta Borroto Gutierrez	キューバ	14.1.21~ 14.12.13	集団研究 コース	JICA
疾病生態	Mohamed Raafat Taha	エジプト	13.11.26~ 14.11.25		JSPS
	Phu Manh Sieu Tran	ベトナム	14.1.21~ 14.12.13	集団研究 コース	JICA
	Victor Monteon	メキシコ	14.2.12~ 14.2.28		
熱帯感染症研究 センター	Joseph Ruyonga	ウガンダ	13.1.22~ 13.12.14	集団研究 コース	JICA
	Chalit Komalamisra	タイ	13.7.26~ 13.7.30		JICA
	Kasjnee Buchachart	タイ	13.7.26~ 13.7.30		JICA
	Md.Wahiduzzaman Akhanda	バングラデシュ	13.7.23		
	Tieng Sivanna	カンボジア	13.7.23		JICA
	Xu Qi-Jiang	中国	13.7.23		JICA
	Hassan Marzouk Hassan ABD-ELAAL	エジプト	13.7.23		JICA
	Angyogdem Samuel Yaw	ガーナ	13.7.23		JICA
	Wambua Nicholas Musyoka	ケニア	13.7.23		JICA
	Sanchez Castillo Lucia Marlen	メキシコ	13.7.23		JICA

分野等	氏名	国籍	受入期間	制度等	備考
熱帯感染症研究センター	Adalberto Maximo Aguero Fernandez	ペルー	13.7.23		JICA
	Oliver Sokana Zimuku	ソロモン諸島	13.7.23		JICA
	Kapila Krishantha Sooriyaarachchi	スリランカ	13.7.23		JICA
	Nguyen Thu Thuy	ベトナム	13.7.23		JICA
	Enock Shimishi Kalombo	ザンビア	13.7.23		JICA
	Narith Ratha	カンボジア	13.7.23		JICA
	Amir Khati	ネパール	13.7.23		JICA
	Marian Epefania Ramas Isiderio	フィリピン	13.7.23		JICA
	Khaled Salah Salem AL-Dhaibani	イエメン	13.7.23		JICA
	Hamood Yahia Mahyoub Alhanahi	イエメン	13.7.23		JICA
	Abdul-Aziz Adam Abdul-Aziz Dada	イエメン	13.7.23		JICA
	Xu Jiying	中国	13.7.23		JICA
	Mohamed Ibrahim Refaye	エジプト	13.10.10		JICA
	Abdulwahid Idris Mohammed	エチオピア	13.10.10		JICA
	Nancy Karimi Njine	ケニア	13.10.10		JICA
	Hemantha Pushpakumara Sudusinghe	スリランカ	13.10.10		JICA
	Tamara Longwe Mwamulowe	ザンビア	13.10.10		JICA
	Mwiza Sinkamba	ザンビア	13.10.10		JICA
	Mingu David Mathu	ケニア	13.10.15~ 14.9.26		JICA
	Moitshpi MAKOME	ボツワナ	13.11.21		JICA
	Caroline Mmallori BASUPANG	ボツワナ	13.11.21		JICA
	Mantha TEK	カンボジア	13.11.21		JICA
	Mary KATA	クック諸島	13.11.21		JICA
	Eveline Bertrice MOUMOU	セイシェル	13.11.21		JICA

9 研究成果の発表状況

9.1 研究業績

【分子構造解析分野】

- 4161 森田 公一： Dengue 熱・ Dengue 出血熱 . 今日の看護 . 2001 .
- 4162 森田 公一： 狂犬病 . 今日の看護 . 2001 .
- 4163 森田 公一： ウイルス性出血熱 . 今日の看護 . 2001 .
- 4164 森田 公一： Dengue 熱ワクチン . 臨床と微生物 Vol 29 : 137 141 , 2002 .
- 4152 Vargas R.E.M., Morita K., Eshita Y., Tsuda Y., Fukuma T. and Takagi M.: Infection and dissemination of two dengue type 2 viruses isolated from patients exhibiting different disease severity in orally infected *Aedes aegypti* from different geographic origin. *Journal of Medical Entomology and Zoology* 53 : (1) : 21 27 2002 .

【病原因子機能解析分野】

- 4165 Supajatura V, Ushio H, Wada A, Yahiro K, Okumura K, Ogawa H, Hirayama T and Ra C: VacA, a vacuolating cytotoxin of *Helicobacter pylori* directly activates mast cells for migration and production of pro-inflammatory cytokines. *J. Immunology* 22 : 2603 2606 , 2002 .
- 4166 Takahashi, A., Wada, A., Ogushi, K., Maeda, K., Kawahara, T., Mawatari, K., Kura-zono, H., Moss, J., Hirayama, T., Nakaya, Y., Production of β -defensin-2 by human colonic epithelial cells induced by *Salmonella enteritidis* flagella filament structural protein. *FEBS Letters* . 508 : 484 488 , 2001 .
- 4167 一瀬 休生, 清水 輝久, 大曲 武征, 賀来 満夫, 原 耕平, 江原 雅彦, 辻 孝雄, 島田 俊雄: 穿孔性腹膜炎を起こした *Vibrio cholerae* non-O1 の性状について (2001) *感染症学雑誌* 75 , 696 702 , 2001 .
- 4168 Toma, C., Kuroki, H., Nakasone, N., Ehara, M., Iwanaga, M.: Minor pilin subunits are conserved in *Vibrio cholerae* type IV pili. *FEMS Immunol. Med. Microbiol* 33 : 35 40 2002 .
- 4187 Izumi, S., Kimura, M., Kimura, T., Wada, A., Hirayama, T., Ichinose, A. & Koji., T. : Induction of Active Invagination of Plasma Membranes by *Helicobacter pylori* Cytotoxin, VacA, in Cultured Gastric Cells: An Immunoelectron Microscopic Study. *Acta Histochem* 33 (2) : 89 94 , 2000 .

【感染細胞修飾機構分野】

- 4169 神原 廣二：原虫感染症．クリニカルファーマシーのための病態生理 第12章 感染症の薬物治療，越前宏俊，辻本豪三編，医薬ジャーナル社，286-290，2000．
- 4170 中澤 秀介：熱帯熱マラリア原虫フィールド分離培養株の樹立方法．マラリア学 ラボマニュアル，田辺和裕，脇 誠治，小島 莊明，北 潔編，菜根出版，103-107，2000．
- 4171 神原 廣二：フィールドにおける血液サンプルの採取法．マラリア学 ラボマニュアル，田辺 和裕，脇 誠治，小島 莊明，北 潔編，菜根出版，283-285，2000．
- 4172 神原 廣二：原虫性疾患．本邦臨床統計集⁽¹⁾ 第I編 感染症，寄生虫症，日本臨床59増刊号7，176-181，2001．
- 4173 Putaporntip, C., Jongwutiwes, S., Tia, T., Ferreira, M. U., Kanbara, H., & Tanabe, K. : Diversity in the thrombospondin-related adhesive protein gene (TRAP) of *Plasmodium vivax*. Gene268 : 97-104 , 2001
- 4174 Shuaibu, M. N., Kanbara, H., Yanagi, T., Ameh, D. A., Bonire, J. J., & Nok, A. J. : Phospholipase A₂ from *Trypanosoma brucei gambiense* and *Trypanosoma brucei brucei*: Inhibition by organotins. Journal of Enzyme Inhibition16 : 433-441 , 2001 .
- 4175 Nakazawa, S., Maoka, T., Uemura, H., Ito, Y., & Kanbara, H. : Malaria parasites giving rise to recrudescences in vitro. Antimicrobial Agents and Chemotherapy46⁽⁴⁾ : 958-965 , 2002 .

【寄生行動制御分野】

- 4176 Urano, Z., Hasegawa, H., Katsumata, T., Toriyama, K. & Aoki, Y.: Diactophmatid nematode larva found from human skin with creeping eruption. J. Parasitol 87 : 462-465 , 2001 .
- 4177 Itoh, M., Weerasooriya, M.V., Qiu, X.G., Gunawardena, N.K., Anantaphruti, M.T., Tesana, S., Pattanaxay, P., Fujimaki, Y. & Kimura, E.: Sensitive and specific enzyme-linked immunosorbent assay for the diagnosis of *Wuchereria Bancrofti* Infection in urine samples. Am. J. Trop. Med. Hyg.,65 : 362-365 , 2001 .
- 4178 青木 克己：その他の吸虫症（肺吸虫症，肝吸虫症，横川吸虫症，肝蛭症）．今日の治療指針，医学書院，174-175，2002．
- 4179 青木 克己：病原寄生虫の治療と薬剤 線虫症⁽²⁾ フィラリア症，顎口虫症，アニサキス症．医薬ジャーナル 37 : 183-187，2001．
- 4180 青木 克己：寄生虫感染と防圧 4．寄生虫病対策，吸虫類各論 血管寄生虫類，診

断検査法 蠕虫性疾患 成虫の検出 中間宿主体内の幼虫検出 . エッセンシャル寄生虫病学 第3版第2刷 25 27 , 103 107 , 273 281 , 2002 .

【分子疫学分野】

- 4181 Sherchand J.B, Pandey B.D, Haruki K, Jimba M. : Sero-diagnosis of Japanese encephalitis and dengue virus infection from clinically suspected patients of Nepal. *J.Inst.Med* 23 : 81 85 , 2001 .
- 4182 Hasebe,F., Parquet,M.C., Pandey,B.D., Mathenge,EGM., Morita,K., Balasubramaniam,V., Saat,Z., Yusop,A., Sinniah,M., Natkunam.S., Igarashi,A.: Combined detection and genotyping of chikungunya virus by specific reverse transcription polymerase chain reaction. *J. Med.Virol* . 2002 in press.

【炎症細胞機構分野】

- 4237 Mori, N., Morishita, M., Tsukazaki, T., Giam, C.Z., Kumatori, A., Tanaka, Y., Yamamoto, N.: Human T-cell leukemia virus type I oncoprotein Tax represses Smad-dependent transforming growth factor beta signaling through interaction with CREB-binding protein/p300. *Blood* 97 (7) : 2137 2144 . 2001 .
- 4041 Parquet, M.C., Kumatori, A., Hasebe, F., Morita, K., Igarashi, A.: West Nile virus-induced bax-dependent apoptosis. *FEBS Lett* . 500 (1 2) : 17 24 , 2001 .
- 4183 Kumatori, A., Yang, D., Suzuki, S., and Nakamura, M.: Cooperation of STAT 1 and IRF-1 in interferon- γ -induced transcription of the gp91^{phox} gene. *J Biol Chem* 277(11) : 9103 9111 , 2002 .
- 4236 Tsuchihashi, Y., Oishi, K., Yoshimine, H., Suzuki, S., Kumatori, A., Sunazuka, T., Omura, S., Matsushima, K., Nagatake, T: Fourteen-member macrolides suppress interleukin-8 production but do not promote apoptosis of activated neutrophils. *Antimicrob Agents Chemother* 46(4) : 1101 1104 . 2002 .

【病変発現機序分野】

- 4184 Fukuhara T, Sharp GB, Mizuno T, Itakura H, Yamamoto M, Tokunaga M, Tokuoka S, Cologne JB, Fujita Y, Soda M, Mabuchi K.: Liver cancer in atomic-bomb survivors: histological characteristics and relationships to radiation and hepatitis B and C viruses. *J Radiat Res (Tokyo)* . 2001 Jun ; 42(2) : 117 30 .
- 4185 Sharp GB, Cologne JB, Fukuhara T, Itakura H, Yamamoto M, Tokuoka S. : Temporal

- changes in liver cancer incidence rates in Japan: accounting for death certificate inaccuracies and improving diagnostic techniques. *Int J Cancer* . 2001 Sep 1 ; 93(5) : 751 8 .
- 4176 Urano Z, Hasegawa H, Katsumata T, Toriyama K, Aoki Y. : Dioctophymatid nematode larva found from human skin with creeping eruption. *J Parasitol* . 2001Apr ; 87(2) : 462 5 .
- 3951 Amano H, Yamamoto H, Senba M, Oishi K, Suzuki S, Fukushima K, Mukaida N, Matsushima K, Eguchi K, Nagatake T. : Impairment of endotoxin-induced macrophage inflammatory protein 2 gene expression in alveolar macrophages in streptozotocin-induced diabetes in mice. *Infect Immun* . 2000 May ; 68(5) : 2925 9 .
- 4097 Amano H, Oishi K, Sonoda F, Senba M, Wada A, Nakagawa H, Nagatake, T. : Role of cytokine induced neutrophil chemoattractant 2 (CINC 2)alpha in a rat model of chronic bronchopulmonary infections with *Pseudomonas aeruginosa*. *Cytokine* . 2000 Nov ; 12(11) : 1662 8 .
- 4186 Morimoto K, Amano H, Sonoda F, Baba M, Senba M, Yoshimine H, Yamamoto H, Ii T, Oishi K, Nagatake T. : Alveolar macrophages that phagocytose apoptotic neutrophils produce hepatocyte growth factor during bacterial pneumonia in mice. *Am J Respir Cell Mol Biol* . 2001 May ; 24(5) : 608 15 .
- 4208 Satoh S, Oishi K, Iwagaki A, Senba M, Akaike T, Akiyama M, Mukaida N, Matsushima KM, Nagatake T. : Dexamethasone impairs pulmonary defence against *Pseudomonas aeruginosa* through suppressing iNOS gene expression and peroxynitrite production in mice. *Clin Exp Immunol* . 2001 Nov ; 126(2) : 266 7
- 4188 鳥山 寛 : アフリカの保健・医療；残された課題と21世紀における展望（特集：21世紀のアフリカ研究）. *アフリカ研究* , 57 : 17 20 , 2001
- 4189 Yoshikawa T, Ihira M, Suzuki K, Suga K, Kito H, Iwasaki T, Kurata T, Tanaka T, Saito Y, Asano, Y. : Fatal acute myocarditis in an infant with human herpesvirus 6 infection. *J Clin Pathol* . 54(10) : 792 5 , 2001
- 4190 Inagaki-Ohara K, Iwasaki T, Watanabe D, Kurata T, Nishiyama Y. : Effect of the deletion of US 2 and US 3 from herpes simplex virus type 2 on immune responses in the murine vagina following intravaginal infection. *Vaccine* 2001 Oct 12 ; 20(1 2) : 98 104 .
- 4191 Hasegawa H, Kadowaki S, Watanabe I, Aizawa H, Takahashi H, Iwasaki T, Tamura S, Kurata T, Sata T. : Persistent infection of influenza virus in irradiated mice and its prevention by intranasal vaccination. *Vaccine* 2002Jan15 ; 20(7 8) : 1050 7 .
- 4192 Asahi Y, Yoshikawa T, Watanabe I, Iwasaki T, Hasegawa H, Sato Y, Shimada S, Nanno M, Matsuoka Y, Ohwaki M, Iwakura Y, Suzuki Y, Aizawa C, Sata T, Kurata T,

Tamura S. : Protection against influenza virus infection in polymeric Ig receptor knockout mice immunized intranasally with adjuvant-combined vaccines. J Immunol . 2002 Mar 15 ; 168(6) : 2930 8 .

【感染症予防治療分野】

- 4193 松本 慶蔵, 下方 薫, 山本 雅史, 麻生 憲史: インフルエンザウイルス感染症に対するザナビルの医療経済学的検討. 化学療法の領域 Antibiotics & Chemotherapy . 医薬ジャーナル社 . 18(1)99 109 , 2002
- 4194 永武 毅: 実地医家における呼吸器感染症の抗菌薬療法 1 . かぜ症候群のサイエンス ~ウイルスと細菌のかかわり~ . 感染と抗菌薬 . Infection and Antimicrobials . 5 (1)52 54 , 2002
- 4195 永武 毅: I . 呼吸器感染症の分子医学 4 . インフルエンザ感染と予防薬: 新しい病態解析と予防法 . 日本胸部臨床 . 60(11)18 - 23 , 2002
- 4196 松本 慶蔵: 新規 ラクタマーゼ阻害剤配合のペニシリン製剤 . カレントセラピー . 19(12)101 103 , 2001
- 4197 松本 慶蔵: 抗インフルエンザウイルス薬とその選択基準 . 日本病院薬剤師会雑誌 . 37(12)13 - 17 , 2001
- 4198 永武 毅: 特集 高齢者呼吸器疾患への対応 誤嚥と誤嚥性肺炎 . 日本医師会雑誌 125(7) , 2001
- 4199 松本 慶蔵: 特集 2 抗菌薬の適正使用最前線 ~ 耐性菌の現状を踏まえて ~ 1 . 総説: 耐性菌と抗菌薬 . 37(11)109 114 , 2001
- 4200 松本 慶蔵, 貝田 繁雄, 土井 豊, 縄田 康郎, 出川 聡, 大石 和徳, 永武 毅: 私達の感染症と化学療法⁽⁷⁰⁾ 感染性心膜炎とウイルス性心菌炎⁽²⁾ . 化学療法の領域 Antibiotics & Chemotherapy . 医薬ジャーナル社 . 17(10)76 83 , 2001
- 4201 松本 慶蔵, 貝田 繁雄, 山下 広志, 大石 和徳, 永武 毅: 私達の感染症と化学療法⁽⁶⁹⁾肺炎球菌とその感染症の pathogenesis . 化学療法の領域 Antibiotics & Chemotherapy . 17(9)1643 1650 , 2001
- 4202 真崎 宏則: シリーズ・在宅感染対策 退院患者の保菌状態 . 感染と抗菌薬 Infection and Antimicrobials . 4(4)398 401 , 2001
- 4203 永武 毅: 特集 現在の化学療法の反省その1 1 . 内科領域 1) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 ペニシリン耐性肺炎球菌は homemade の耐性菌である 化学療法の領域 Antibiotics & Chemotherapy . 17(10)1751 1757 , 2001
- 4204 松本 慶蔵, 大石 和徳, 永武 毅: 私達の感染症と化学療法⁽⁶⁸⁾ペニシリン系薬と

- ラクタマーゼ阻害薬の合剤について 特にタゾバクタム・ピペラシン(タゾミンR)の合剤を中心に . 化学療法の領域 Antibiotics & Chemotherapy . 17(8)1473-1485, 2001
- 4205 永武 毅:特集2 抗菌薬の適正使用最前線~耐性菌の現状を踏まえて~3 . 呼吸器感染症 2)成人市中肺炎における耐性菌の現状と治療 . 医薬ジャーナル . 37(11)138-143, 2001
- 4206 永武 毅:特集 肺炎球菌ワクチン 肺炎球菌ワクチンの今後 . 日本胸部臨床 . 60(10)903-909, 2001
- 4207 中川喜代子,大石 和徳,天野 秀明,山領 豪,渡辺貴和雄,千場 正敬,朝永 匡,衛藤 正雄,永武 毅:劇症型A群溶連菌感染症(TSLS)の1例 その炎症性サイトカインの動態 . 炎症・再生 . 25(5)593-598, 2001
- 4208 Satoshi Sato, Kazunori Oishi, Akitaka Iwagaki, Masachika Senba, Takaaki Akaike, Moritoshi Akiyama, Naohumi Muakida, Kouji Matsushima, Tsuyoshi Nagatake:Dexamethasone impairs pulmonary defence against *Pseudomonas aeruginosa* through suppressing iNOS gene expression and peroxyhitrite production in mice. Clin.Exp. Immunol . 126 . 266-273 . 2001
- 4209 永武 毅:本邦臨床統計集(1)感染症,寄生虫症 腸チフス・パラチフス,コレラ . 日本臨床59(7)7-13, 2001
- 4210 永武 毅:特集 老人性肺炎 老人性肺炎の予防 院内肺炎を中心に . 呼吸20(10)1008-1011, 2001
- 4211 Hiroshi Watanabe, Hironori Masaki, Norichika Aso, Kiwao Watanabe, Kazunori Oishi, Akiyoshi Sato, Rinya Sugita, Tsuyoshi Nagatake : Low Concentrations of Mupirocin in the Pharynx following Intranasal Application May Contribute to Mupirocin Resistance in Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus*. Journal of Clinical Microbiology 39(10)3775-3773, 2001
- 4212 松本 慶蔵,大石 和徳,秋山 香美,斎藤麻理子,永武 毅:私達の感染症と化学療法(67)感染性心膜炎(infective pericarditis) (1) 結核性を中心に . 化学療法の領域 Antibiotics & Chemotherapy . 17(7)1342-1347, 2001
- 4213 松本 慶蔵,真崎 宏則,大石 和徳,土橋 佳子,永武 毅:私達の感染症と化学療法(66)感染性心内膜炎(3) . 化学療法の領域 Antibiotics & Chemotherapy . 17(6)1163-1171, 2001
- 4214 松本 慶蔵,渡辺貴和雄,大石 和徳,永武 毅,西岡 きよ,大野 勲,原田 知行,隆杉 正和,力富 直人:私達の感染症と化学療法(65)呼吸器感染症の起

- 炎菌決定法 良性痰採取の仕方, グラム染色, 定量培養法について . 化学療法の領域 *Antibiotics & Chemotherapy* .17(5)953-962, 2001
- 4215 松本 慶蔵, 大石 和徳, 永武 毅: 私達の感染症と化学療法⁽⁶⁴⁾髄膜炎菌感染症 . 化学療法の領域 *Antibiotics & Chemotherapy* . 17(4)147-154, 2001
- 4216 松本 慶蔵: 特集 VRE(バンコマイシン耐性腸球菌)感染症にいかに対処するか . 1 . VRE 感染症 序論 . 化学療法の領域 *Antibiotics & Chemotherapy* . 17(5)867-868, 2001
- 4217 松本 慶蔵: 薬物療法 オセルタミビル(抗インフルエンザ薬: 経口ノイミラニターゼ阻害薬) . 呼吸 . 20(5)487-493, 2001
- 4218 永武 毅, 星野 和彦: 特集 ハイリスク患者の感染予防策~肺炎球菌感染症対策を中心に 基礎疾患と感染予防の実際 D慢性呼吸器疾患 . 感染と抗菌薬 *Infection and Antimicrobials* . 4(3)241-248, 2001
- 4219 永武 毅: 炎症 抗インフルエンザ薬の現状と展望 . 感染・炎症・免疫 *Infection Inflammation Immunity* . 31(3)180-186, 2001
- 4220 Hiroshi Watanabe, Hironori Masaki, Norichika Asoh, Kiwao Watanabe, Kazunori Oishi, Shinobu Kobayashi, Akiyoshi Sato, Tsuyoshi Nagatake: Enterocolitis Caused by Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus*: Molecular Characterization of Respiratory and Digestive Tract Isolates. *Microbiol. Immunol.* . 45(9)629-634, 2001
- 4221 永武 毅: 特集 実践感染症新法 インフルエンザ . 最新医学56(9)54-62, 2001
- 4222 大石 和徳: 抗インフルエンザウイルス薬の登場とその使い方 . *Medical Practice* 18(8): 1339-1343, 2001
- 4223 永武 毅: 結核~世界標準の診断と治療 5 日和見感染症としての結核症 . 医学のあゆみ 198(3): 206-208, 2001 .
- 4224 永武 毅: インフルエンザの予防と治療 特集 最近注目されてきた疾患・病態・治療 ~内科のトピックスを知る . 臨床雑誌「内科」 87(6): 1079-1084, 2001 .
- 4225 Kounosuke Morimoto, Hideaki Amano, Fuminari Sonoda, Motoo Baba, Masachika Senba, Hiroyuki Yoshimine, Hidefumi Yamamoto, Tsuyoshi Ii, Kazunori Oishi, Tsuyoshi Nagatake: Alveolar Macrophages that Phagocyte Apoptotic Neutrophils Produce Hepatocyte Growth Factor during Bacterial Pneumonia in Mice. *American Journal of Respiratory Cell and Molecular Biology* . 24, 608-615, 2001
- 4226 Hiroshi Watanabe, Hironori Masaki, Norichika Asoh, Kiwao Watanabe, Kazunori Oishi, Akitsugu Furumoto, Shinobu Kobayashi, Akiyoshi Sato, Tsuyoshi Nagatake: Emergence and spread of low-level mupirocin resistance in methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* isolated from a community hospital in Japan. *Journal of Hospital Infection* 2001 .

- 47 . 294 300 , 2001
- 4227 Cheikh Tidiane Ndour, Kamruddin Ahmed, Tomomi Nakagawa, Yamaji Nakano, Akitoyo Ichinose, Gulnur Tarhan, Masamichi Aikawa, Tsuyoshi Nagatake : Modulating effects of mucoregulating drugs on the attachment of Haemophilus influenzae. Microbial Pathogenesis . 30 , 121 127 , 2001
- 4228 Hiroyuki Yoshimine, Kazunori Oishi, Francis Mubiru, Hawa Nalwoga, Hideaki Amano, Philip Ombasi, Kiwao Watanabe, Moses Joloba, Thomas Aisu, Kamruddin Ahmed, Masaaki Shimada, Roy Mugerwa, Tsuyoshi Nagatake : Community-Acquired Pneumonia In Ugandan Adults : Short-Term Parenteral Ampicillin Therapy For Bacterial Pneumonia. Am. J. Trop. Med. Hyg . 63(3 4)172 177 , 2001
- 4229 光嶋 博昭 , 真崎 宏則 , 大石 和徳 , 赤嶺 晋治 , 岡 忠之 , 綾部 公懿 , 芦澤 和人 , 林 邦昭 , 林 徳真吉 , 永武 毅 : 喀血を繰り返した原発性気管支動脈蔓状血管腫の 1 例 . 日本呼吸器学会雑誌 . 39(2)135 139 , 2001
- 4230 Hidefumi Ishikawa, Kazunori Oishi, Hideaki Senju, Masashi Yamamoto : Effects of Pulmonary Rehabilitation for Patients with Chronic Pulmonary Disease with Different Types of Ventilatory Defects : Relationships between Pulmonary Function Parameters and Exercise Tolerance. Acta Med. Nagasaki 2001 , 46 (1 2) 49 53 , 2001
- 4231 Samir K. Saha, Abdullah H. Baqui, M. Hanif, Gary L. Darmstad, M. Ruhulamin, T. Nagatake, Mathuram Santosham, Robert E, Black : Typhoid fever in Bangladesh : implications for vaccination policy. Pediatr Infection Disease20(5) : 521 524 , 2001
- 4232 真崎 宏則 : MRSA 感染症と抗菌薬の使い方 MRSA 感染症を起こす患者背景因子 . 感染と抗菌薬 . Infection and Antimicrobials 増刊号 . 4(1)11 15 , 2001
- 4233 永武 毅 : 呼吸器 インフルエンザの予防と治療 . 内科 . 87(6)1079 1083 , 2001
- 4234 吉嶺 裕之 : 薬の上手な使い方 抗ウイルス薬 . 臨床医 . 27(5)679 682 , 2001
- 4235 Hironori Masaki, Hiroshi Watanabe, Satoshi Degawa, Hiroyuki Yoshimine, Norichika Asoh, Naoto Rikitomi, Keizo Matsumoto, Kamruddin Ahmed, Kiwao Watanabe, Kazunori Oishi, Tsuyoshi Nagatake : Significant Reduction of Methicillin-resistant Staphylococcus of Infection Control Measures against Nosocomial Infections. Internal Medicine40(3) : 214 220 , 2001
- 4236 Tsuchihashi, Y., Oishi, K., Yoshimine, H., Suzuki, S., Kumatori, A., Sunazuka, T., Omura, S., Matsushima, K., Nagatake, T: Fourteen-member macrolides suppress interleukin 8 production but do not promote apoptosis of activated neutrophils. Antimicrob Agents Chemother . 46(4) : 1101 1104 . 2002 .

【エイズ感染防御分野】

- 4237 Mori, N., Morishita, M., Tsukazaki, T., Giam, C. - Z., Kumatori, A., Tanaka, Y. & Yamamoto, N.: Human T-cell leukemia virus type I oncoprotein Tax represses Smad-dependent transforming growth factor β signaling through interaction with CREB-binding protein/p 300. *Blood*97(7) : 2137-2144, 2001.
- 4238 Mori, N., Yamada, Y., Hata, T., Ikeda, S., Yamasaki, Y., Tomonaga, M. & Yamamoto, N.: Expression of survivin in HTLV-I-infected T-cell lines and primary ATL cells. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 282(5) : 1110-1113, 2001.
- 4239 Mori, N., Fujii, M., Cheng, G., Ikeda, S., Yamasaki, Y., Yamada, Y., Tomonaga, M. & Yamamoto, N.: Human T-cell leukemia virus type I Tax protein induces the expression of anti-apoptotic gene Bcl-x_L in human T-cells through nuclear factor- κ B and c-AMP responsive element binding protein pathways. *Virus Genes* 22(3) : 279-287, 2001.
- 4240 Hayashibara, T., Yamada, Y., Miyanishi, T., Mori, H., Joh, T., Maeda, T., Mori, N., Maita, T., Kamihira, S. & Tomonaga, M.: Vascular endothelial growth factor and cellular chemotaxis: a possible autocrine pathway in adult T-cell leukemia cell invasion. *Clin. Cancer Res.* 7(9) : 2719-2726, 2001.
- 4241 Mori, N., Inoue, H., Yoshida, T., Tanabe, T., Yamamoto, N.: Constitutive expression of the cyclooxygenase 2 gene in T-cell lines infected with human T cell leukemia virus type I. *Int. J. Cancer*94(6) : 813-819, 2001.
- 4242 Moro, H., Iwai, K., Mori, N., Watanabe, M., Fukushi, M., Oie, M., Arai, M., Tanaka, Y., Miyawaki, T., Gejyo, F., Arakawa, M. & Fujii, M.: Interleukin 2-dependent but not independent T-cell lines infected with human T-cell leukemia virus type 1 selectively express CD45 RO, a marker for persistent infection *in vivo*. *Virus Genes* 23(3) : 263-271, 2001.
- 4243 Hayashibara, T., Yamada, Y., Onimaru, Y., Tsutsumi, C., Nakayama, S., Mori, N., Miyanishi, T., Kamihira, S., Tomonaga, M. & Maita, T.: Matrix metalloproteinase-9 and vascular endothelial growth factor: a possible link in adult T-cell leukaemia cell invasion. *Br. J. Haematol.* 116(1) : 94-102, 2002.
- 4244 Mori, N., Sato, H., Hayashibara, T., Senba, M., Hayashi, T., Yamada, Y., Kamihira, S., Ikeda, S., Yamasaki, Y., Morikawa, S., Tomonaga, M., Geleziunas, R. & Yamamoto, N.: Human T-cell leukemia virus type I Tax transactivates the matrix metalloproteinase-9 gene: potential role in mediating adult T-cell leukemia invasiveness. *Blood*99(4) : 1341-1349, 2002.
- 4245 森 直樹 : HTLV-I による発癌機構 . *血液・腫瘍科* . 42(5) : 471-481, 2001 .

- 4246 森 直樹：HTLV - I感染と monocyte chemoattractant protein 1 血液・腫瘍科 . 43 (3) : 208 216 , 2001 .
- 4247 森 直樹 , 藤井 雅寛 : ATL細胞と宿主遺伝子 . 山本直樹(編) : ヒトレトロウイルス研究の最前線 - ヒト免疫不全ウイルスとヒト T細胞白血病ウイルス . シュプリンガー・フェアラーク東京 , 131 142 , 2002 .

【生物環境分野】

- 4248 Tsuda,Y.& Takagi,M.: Survival and development of *Aedes aegypti* and *Aedes albopictus* (Diptera:Culicidae) larvae under seasonally changing environment in Nagasaki,Japan.Environmental Entomology 30(5) : 855 860 , 2001 .
- 4249 Higa,Y.,Tsuda,Y.,Tsuno,N.& Takagi,M.: Preliminary field experiments on exophagy of *Aedes albopictus* (Diptera:Culicidae) in peridomestic habitat.Medical Entomology and Zoology 52(2) : 105 116 , 2001 .
- 4250 都野 展子 : 京都におけるキノコ食昆虫群集の構造 . 日本生態学会誌 51(2) : 73 86 , 2001 .
- 4251 Overgaard,H.J.,Tsuda,Y.,Suwonkerd,W.& Takagi,M.: Characteristics of *Anopheles minimus* (Diptera:Culicidae) larval habitats in Northern Thailand.Environmental Entomology31 (1) : 134 141 , 2002 .
- 4252 Morales,R.E.,Morita,K.,Eshita,Y.,Tsuda,Y.,Fukuma,T.& Takagi,M.: Infection and dissemination of two dengue type- 2 viruses isolated from patients exhibiting different disease severity in orally infected *Aedes aegypti* from different geographic origin.Medical Entomology and Zoology53(1) : 21 27 , 2002 .

【社会環境分野】

- 4253 溝田 勉 : アフリカ支援の多国間国際保健 (下) . 月刊アフリカ 第41巻 , 第6号 , 16 20 , 2001 .
- 4254 楽得 康之・溝田 勉・板倉 英世 : 4 TH INTERNATIONAL CONFERENCE OF TROPICAL PATHOLOGY 東南アジアの寄生虫疾患の病理学的検討 特にマラリア , 有鉤囊虫症 , 恙虫病について . 熱帯 第34巻 , 197 206 , 2001 .
- 4255 楽得 康之・溝田 勉 : 炭疽および天然痘に関わる生物学的兵器の脅威への対処 . 熱帯 第34巻 , 207 - 213 , 2001 .

【疫病生態分野】

- 4256 Takahashi, M., Misumi, H., Nogami, S., Takahama, M., Hirayama, K. : Severe sarcoptic mange in the raccoon dog, *Nyctereutes procyonoides*, in Saitama and Gunma Prefecture, Japan. *Med.Entomol.Zool* . 52 : 67 71 , 2001
- 4257 Kikuchi, M., Looareesuwan, S., Ubalee, R., Tasanor, O., Suzuki, F., Wattanagoon, Y., Na-Bangchang, K., Kimura, A., Aikawa, M., Hirayama, K. : Association of adhesion molecule PECAM- 1 /CD 31 polymorphism with susceptibility to cerebral malaria in Thais. *Parasitol.Int.* , 50(4) : 235 9 , 2001 .
- 4258 Ubalee, R., Suzuki, F., Kikuchi, M., Tasanor, O., Wattanagoon, Y., Ruangweerayut, R., Na-Bangchang, K., Karbwang, J., Kimura, A., Itoh, K., Kanda K., Hirayama, K. : Strong association of a tumor necrosis factor- α promoter allele with cerebral malaria in Myanmar *Tissue Antigens* , 58(6) : 407 410 , 2001 .
- 4259 Satoh, M., Toma, H., Sato, Y., Takara, M., Shiroma, Y., Kiyuna, S., and Hirayama, K. : Reduced efficacy of treatment of strongyloidiasis in HTLV- 1 carriers related to enhanced expression of IFN- γ and TGF- β 1 .*Clin.Exp.Immunol* . 127(2) : 354 9 , 2002 .
- 4260 平山 謙二 : マラリア感染におけるサイトカインの役割 *臨床免疫* , 35(1) : 30 37 , 2001
- 4261 Kenji Hirayama.: Immunogenetic analysis of severe forms of parasitic diseases. *Acta Medica Nagasakiensia* , 46 : 1 5 , 2001

【熱帯感染症研究センター】

- 4228 Yoshimine , H., Oishi, K., Mubiru, F., Nalwoga, H., Takahashi, H., Amano, H., Om-basi, P., Watanabe, K., Joloba, M., Aisu, T., Ahmed, K., Shimada, M., Mugerwa, R. and Nagatake, T.: Community-acquired pneumonia in Ugandan adults :Short-term par-enteral ampicillin therapy for bacterial pneumonia. *Am. J. Trop. Med. Hyg.*,64(3 4) , 172 177 , 2001 .
- 4139 Yamamoto, T., Shimada, M., Moji, K. and Mizota, T.: Research activities on emerging and reemerging diseases. *Jpn. J. Trop. Med.Hyg.*,29(2) , 231 234 , 2001 .
- 4262 Horio,M., Nakamura, K. and Shimada,M. Risk of *Toxoplasma gondii* Infection in Slaugh-terhouse Workers in Kitakyushu City. *J. UOEH* 23(3) , 233 243 , 2001 .
- 4263 Sasa, M., Kitami,K. & Suzuki, H. : Additional Studies on the chironomid midges collected on the shore of Lake Inawashiro (2001) . The Dr.Noguchi Memorial hall , 1 38 , 2001 .
- 4264 Sasa, M.& Suzuki,H.: Studies on the Chironomid species collected in Hokkaido in Septem-

ber , 2000 .Trop. Med.,43 (1/2) 1 38 , 2001 .

- 4265 X.D.Pham, Suzuki, H. & Takaoka,H. : Distribution of unengorged larvae of *Leptotrombidium pallidum* and other species in and around the rodent nest holes. Southeast Asian J.Trop. Med.Public Health . 32(3)553 ~ 557 , 2001 .
- 4266 安高 雄治 : パプアニューギニア・アドミラルティ諸島における伝統漁の復活とその背景 . 動物考古学16 : 91 115 , 2001(with English summary)
- 4267 稲岡 司, 安高 雄治 : 島嶼部 - 近代化が進行するマヌス州のパロパ「ニューギニア」~ 交錯する伝統と近代」京都大学学術出版会 , p205 237 , 2002 .

9.2 学会発表演題

- 1) 和田昭裕, 野村知彦, 藤井儀夫, 岡本敬の介, 平山壽哉: *Aeromonas sobria* が産生するヘモリシンの宿主受容体の構造決定. 第74回日本細菌学会, 岡山, 2001年4月2日 - 4日.
- 2) 八尋錦之介, 和田昭裕, 木村美幸, 新留琢郎, 青柳東彦, 木村貴弘, 倉園久生, 藤澤順一, 平山壽哉: *Helicobacter pylori* VacA 毒素の毒性発現: 受容体 RPTPbeta の変異と毒素感受性. 第74回日本細菌学会, 岡山, 2001年4月2日 - 4日.
- 3) 大串賢一, 和田昭裕, 新留琢郎, 畠山智充, 青柳東彦, 倉園久生, 牧野壮一, 平山壽哉: *Salmonella enteritidis* の FliC による human b - defensin - 2 発現誘導機序の解析. 第74回日本細菌学会, 岡山, 2001年4月2日 - 4日.
- 4) 平山壽哉: ヘリコバクター・ピロリの VacA 毒素とその毒性発現に関わる宿主蛋白. 第74回日本細菌学会, 岡山, 2001年4月2日 - 4日.
- 5) 柳 哲雄, 高橋華子, 村上 愛, Juarez, S., Galvez, A., Sherchand J. B., Pandey, B. D., 神原廣二: ネパール住民の腸管内寄生虫症調査. 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4 - 6日.
- 6) 柳 哲雄, Juarez, S., 村上 愛, Galvez, A., Machfudz, Koesdarto, S., Dachlan, Y. P., 神原廣二: インドネシア・スンバワ島住民の腸管寄生虫症調査. 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4 - 6日.
- 7) 上村春樹, 加藤美枝, 柳 哲雄, 中澤秀介, 神原廣二: *T. cruzi* トランスシアリダーゼの N, C 末端配列の違いと局在. 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4 - 6日.
- 8) Putaporntip, C., Jongwutiwes, S., Ferreira, M., Tia, T., Kanbara, H., Tanabe, K.: Diversity in the thrombospondin - related adhesive protein gene (TRAP) of *Plasmodium vivax*. 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4 - 6日.
- 9) 神原廣二, 高木正洋, 田辺和祐, 川本文彦, ユース・プリジャトナ・ダクラン, スバギョー・ゴトヨロノト他: インドネシア・スンバワ島におけるマラリア疫学の特徴. 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4 - 6日.
- 10) 中澤秀介: D - sorbitol 繰り返し処理後の熱帯熱マラリア原虫の再燃. 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4 - 6日.
- 11) 藤巻康教, Gunawardena NK, 青木克己: 酵素による糸状虫感染型幼虫の宿主血清への走化性抑制. 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4 - 6日. (ポスター) 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大

会記録, p107 .

- 12) 渡部幹次, 草場照代, 大渡 伸, 青木克己: 核磁気共鳴画像装置を用いたネズミ糞線虫感染マウス頭蓋内病変の経時的観察. 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4 - 6日.(ポスター) 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会記録, p109 .
- 13) 勝又達也, 熊取厚志, 青木克己: 住血吸虫セルカリア - 脂肪酸刺激による preacetabular gland の Ca 濃度上昇. 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4 - 6日.(ポスター) 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会記録, p106 .
- 14) 山内秀彦, 松山拓史, 青木克己: 住血吸虫ミラシジウムの中間宿主貝への chemoklinokun-esis . 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4 - 6日.(ポスター) 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会記録, p 107 .
- 15) 津田良夫, 高木正洋, 小林 潤, 宮城一郎, 當間孝子: デング熱媒介蚊の発生と人為的要因. 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4日 - 6日 .
- 16) 神原廣二, 高木正洋, 田辺和桁, 川本文彦, ユース・プリジャトナ・ダクラン, スバギョー・ゴトヨロノト: インドネシア・スンバワ島におけるマラリア疫学の特徴. 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4日 - 6日 .
- 17) 津田良夫, 小林 潤, Phompida,S., Nambanya,S., 宮城一郎, 當間孝子: ラオス中部 (Thakhek 及び Nongbok) におけるデング熱媒介蚊の発生源と天敵相. 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4日 - 6日 .
- 18) 津田良夫, 杉山 章, 都野展子, 比嘉由紀子, 佐藤朝光, Dieng,H., 高木正洋: 無人島におけるヒトスジシマカの記号放逐再捕獲実験. 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4日 - 6日 .
- 19) 比嘉由紀子, 津田良夫, 都野展子, 高木正洋: 家屋周辺におけるヒトスジシマカの屋外吸血性に影響を及ぼす要因について. 第70回日本寄生虫学会・第54回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4日 - 6日 .
- 20) 沢辺京子, 都野展子, 高木正洋, 津田良夫: コガタハマダラカ *Anopheles minimus* complex の系統学的研究 2 - 28SD 3 領域と ITS 領域の塩基配列から見た近縁関係 - . 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4日 - 6日 .
- 21) 當間孝子, 宮城一郎, 岡澤孝雄, 才田 進, 小林 潤, 高木正洋, シモン・ナンバニヤ, ホンカム・ケオマニラ: ラオス国カムワン県のマラリア流行地におけるハマダラカの調

- 査 (1999年). 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4日 - 6日.
- 22) **佐藤朝光, 津田良夫, プラディア・ソンプーン, 都野展子, 高木正洋**: ポウフラの雌雄を考慮した PYRIPROXYFEN の効果判定. 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4日 - 6日.
- 23) **菊池三穂子, 陳紅根, 平山謙二**: 日本住血吸虫感染の肝線維化症の重症度を規定する HLA - クラス II アレルの免疫学的調節機能. 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4日 - 6日.
- 24) **武田雅人, 平山謙二, Ratawan Ubalee, Oumaporn Tasanor, 菊池三穂子, Yupaporn Wattanagoon, Kesara Na - Bangchang, Juntra Karbwang, 柴原茂樹**: ヘムオキシゲナーゼ - 1 遺伝子のプロモーター領域に存在するマイクロサテライトの多型性と脳マラリア感受性との相関. 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会, 山形, 2001年4月4日 - 6日.
- 25) **野田伸一, 吉家清貴, 小田 紘, 鈴木 博**: PCR による患者発生地のタテツツガムシからのツツガムシ病リケッチャ DNA の検出. 第70回日本寄生虫学会・第53回日本衛生動物学会合同大会. 山形. 2001年4月4日 - 6日.
- 26) **永武 毅**: ランチョンセミナー かせ症候群のサイエンス - ウイルスと細菌のかかわり. 第41回日本呼吸器学会総会. 東京, 2001年4月4日 - 6日.
- 27) **天野秀明, 森本浩之輔, 黒木麗喜, 苑田文成, 伊井 強, 大石和徳, 永武 毅**: 急性肺炎症の終息における MCP - 1 の役割. 第41回日本呼吸器学会総会. 東京, 2001年4月4日 - 6日. Vol 39 P.142
- 28) **森本浩之輔, 天野秀明, 苑田文成, 馬場基男, 伊井 強, 大石和徳, 永武 毅**: 急性肺炎症の終息と組織修復における AM の役割. 第41回日本呼吸器学会総会. 東京, 2001年4月4日 - 6日. Vol 39 P.142
- 29) **山口祐子, 大石和徳, 斎藤麻理子, 永武 毅**: 緑膿菌由来の肺上皮細胞における分泌型 IL - 8 誘導因子の検討. 第41回日本呼吸器学会総会. 東京, 2001年4月4日 - 6日. Vol 39 P.167
- 30) **大石和徳, 山領 豪, 吉嶺裕之, 土橋佳子, 天野秀明, 永武 毅**: マクロファージによるアポトーシス好中球の貪色に対するマクロライド系抗菌薬の効果. 第41回日本呼吸器学会総会. 東京, 2001年4月4日 - 6日. Vol 39 P.169
- 31) **山領 豪, 大石和徳, 吉嶺裕之, 土橋佳子, 天野秀明, 永武 毅**: マクロファージによる気道のアポトーシス好中球の貪色機構の検討. 第41回日本呼吸器学会総会. 東京, 2001年4月4日 - 6日. Vol 39 P.228

- 32) 吉嶺裕之, 大石和徳, 石田正之, 渡辺貴和雄, 永武 毅: ウガンダ共和国における成人市中肺炎の再発に対する HIV 感染の影響. 第41回日本呼吸器学会総会. 東京, 2001年4月4日 - 6日. Vol 39 P 295
- 33) 井関充及, 津田暢夫, 林徳真吉, 穴見正信, 安部邦子, 多丸直江, 鳥山 寛, 板倉英世: 小脳血管芽腫・間質細胞の病理組織学的・免疫組織学のおよび電顕的考察. 第90回日本病理学会総会. 東京, 2001年4月5 - 7日.
- 34) 林 徳真吉, 津田暢夫, 井関充及, 穴見正信, 安部邦子, 多丸直江: 腎血管筋脂肪腫にみられる血管成分. 第90回日本病理学会総会, 東京, 2001年4月5 - 7日.
- 35) 津田暢夫, 林徳真吉, 井関充及, 穴見正信, 安部邦子, 多丸直江, 松尾 武: 腺管構造を示す左心房粘液腫. 第90回日本病理学会総会, 東京, 2001年4月5 - 7日.
- 36) 鳥山 寛, 井関充及, 千馬正敬: タイ北部における播種性ペニシリウム症の臨床病理学的研究. 第90回日本病理学会総会, 東京, 2001年4月5 - 7日.
- 37) 麻生憲史, 真崎宏則, 渡辺 浩, 鬼塚智子, 山領 豪, 出川 聡, 大石和徳, 永武 毅: 一般病棟及び療養型病棟における *Maraxella (Branhamella) catarrhalis* 院内流行の分子疫学的解析. 第98回日本内科学会. 横浜市, 2001年4月12日 - 14日. Vol 90 P 178
- 38) 大石和徳, 佐藤哲史, 永武 毅, 岩垣明隆: ステロイド投与による易肺炎発症と iNOS の発現抑制. 第98回日本内科学会. 横浜市, 2001年4月12日 - 14日. Vol 90 P 277
- 39) 森 直樹, 林原歳久, 山田恭暉, 朝長万左男: 成人 T 細胞白血病 (ATL) とマトリックスメタロプロテアーゼ (MMP) ~ ATL の臓器浸潤のメカニズム ~. 第98回日本内科学会総会, 横浜, 2001年4月12日 - 14日. (日本内科学会雑誌 90: 282, 2001)
- 40) 森 直樹: HTLV - I 感染 T 細胞におけるシクロオキシゲナーゼ (COX) - 2 の発現. 第63回日本血液学会総会, 名古屋, 2001年4月19日 - 21日. (Int. J. Hematol .73 supplement 1 : 142, 2001)
- 41) Md. Islam, R., Chun, F., Fujii, Y., & Nakamura, M.: PU. 1 as a key transcriptional factor for the expression of gp 91^{phox} gene in human myelogenous cells and the sequence optimization for its binding and activity. 平成13年度日本生化学会九州支部例会. 長崎. 2001年4月28 - 29日. Biodefence12 : a - 16.
- 42) 森田公一, Wong Pooi Fong, 長谷部 太, 五十嵐 章: デングと日本脳炎ウイルスのキメラウイルスの作製とその性状. 日本脳炎研究会, 石川, 2001年5月10 - 11日.
- 43) 森田公一, 長谷部 太, 五十嵐 章, Phan Thi Nga: ベトナムで流行している日本脳炎ウイルスの解析と血清診断上の問題点. 日本脳炎研究会, 石川, 2001年5月10 - 11日.
- 44) 一ノ瀬 昭豊: 試料作製方法の違いによつて見え方が変わる. 日本電子顕微鏡学会・第57回学術講演会, ワークショップ電子顕微鏡技術とその応用, 福岡, 2001年5月10 - 12

日 .

- 45) **都野展子** : 菌の栄養型と空間分布と繁殖戦略 . 日本動物学会第54回・日本植物学会九州支部第51回・日本生態学会九州地区第46回・合同大会 , 佐賀 , 2001年 5月19 - 20日 .
- 46) **鳥山 寛 , 井関充及 , 千馬正敬** : ケニア西部における悪性腫瘍疫学調査の20年間の総括 . 第38回日本アフリカ学会学術大会 , 名古屋 , 2001年 5月26 - 27日 .
- 47) **松本慶蔵** : ハイライトセミナー β ラクタム / B - ラクタマーゼ阻害剤の最近の話題
2) 世界的見地から . 第49回日本化学療法学会総会 . 横浜市 . 2001年 5月30 - 31日 .
Vol 49 P 92
- 48) **渡辺 浩 , 渡辺貴和雄 , 大石和徳 , 永武 毅 , 小林 忍** : タイ国北部地域におけるペニシリン耐性肺炎球菌の現状と血清型別についての検討 . 第49回日本化学療法学会総会 . 横浜市 . 2001年 5月30 - 31日 . Vol 49 P .126
- 49) **麻生憲史 , 真崎宏則 , 渡辺 浩 , 山領 豪 , 出川 聡 , 下釜誠司 , 渡辺貴和雄 , 大石和徳 , 永武 毅** : *Moraxella (Branhamella) catarrhalis* 呼吸器感染症における院内流行株と外来患者分離株の分子疫学的解析 . 第49回日本化学療法学会総会 . 横浜市 . 2001年 5月30 - 31日 . Vol 49 P .141
- 50) **渡辺貴和雄 , 渡辺 浩 , 大石和徳 , 永武 毅 , 小林 忍** : タイ国北部地域において分離されたインフルエンザ菌の各種薬剤感受性成績 . 第49回日本化学療法学会総会 . 横浜市 . 2001年 5月30 - 31日 . Vol 49 P .169
- 51) **大石和徳 , 佐藤哲史 , 永武 毅 , 岩垣明隆** : ステロイド長期大量投与による易肺炎発症機構 . 第21回気道分泌研究会 . 東京都 . 2001年 6月 2日 . P13
- 52) **田嶋友子 , 大久保和昭 , 石川博基 , 市川辰樹 , 加治屋勇二 , 武田宜士 , 東真一郎 , 濱崎圭輔 , 中尾一彦 , 中田恵輔 , 鳥山 寛 , 江口勝美** : Non - cirrhotic portal hypertension に合併した partial nodular transformation の一例 . 第77回日本消化器病学会九州支部例会 , 別府 , 2001年 6月15 - 16日 .
- 53) **力富直人** : シンポジウム 呼吸器臨床と Ethics 2) 慢性肺疾患患者のリハビリテーション . 第46回日本呼吸器学会九州地方会 . 玉名市 . 2001年 6月16日 .
- 54) **土橋佳子 , 斎藤若奈 , 中川喜代子 , 川上健司 , 高橋孝郎** : 上葉優位型間質性肺炎の一例 . 第46回日本呼吸器学会九州地方会 . 玉名市 . 2001年 6月16日 . P36
- 55) **栗田伸一 , 渡辺 浩 , 渡辺貴和雄 , 岡 忠之 , 千場正敬 , 大石和徳 , 永武 毅** : 内科的治療に苦慮し肺切除に到った *Mycobacterium chelonae* 肺感染症の一例 . 第46回日本呼吸器学会九州地方会 . 玉名市 . 2001年 6月16日 . P47
- 56) **斎藤若奈 , 中川喜代子 , 土橋佳子 , 川上健司 , 高橋孝郎** : 腫瘤状陰影を呈した肺非定型抗酸菌 (*M.avium*) 症の一例 . 第46回日本呼吸器学会九州地方会 . 玉名市 . 2001年 6月

16日 . P49

- 57) 鶴飼桃代, 渡辺 浩, 麻生憲史, 天野秀明, 森本浩之輔, 吉嶺裕之, 鬼塚正三郎, 大石和徳, 永武 毅: 抗 GM - CSF 抗体を証明し得た特発性肺胞蛋白症の一例 . 第46回日本呼吸器学会九州地方会 . 玉名市 . 2001年 6月16日 . P63
- 58) 池田秀樹, 石田正之, 田代 誠, 武田宏之, 渡辺 浩, 大石和徳, 永武 毅: 喀血を繰り返し血管造影にて気管支動脈瘤を認めた一例 . 第46回日本呼吸器学会九州地方会 . 玉名市 . 2001年 6月16日 . P68
- 59) 森 直樹, 和田昭裕, 平山壽哉: *Helicobacter pylori* 感染による MMP - 9 発現誘導機序 . 第7回日本ヘリコバクター学会, 横浜, 2001年 6月21日 - 22日 .
- 60) 平山壽哉, 和田昭裕: *Helicobacter pylori* 感染による宿主上皮細胞からの β - defensin - 2 (hBD - 2)発現誘導機序 . 第7回日本ヘリコバクター学会, 横浜, 2001年 6月21日 - 22日 .
- 61) 磯本 一, 浦田 恵, 和田昭裕, 柳原克紀, 平瀧洋一, 井上健一郎, 村田育夫, 平山壽哉, 河野 茂: 各種機能水を用いた内視鏡機器の消毒効果 . 第7回日本ヘリコバクター学会, 横浜, 2001年 6月21日 - 22日 .
- 62) 天野秀明: 炎症終息における肺胞マクロファージ (AM) の役割: 肝細胞増殖因子 (HGF) 産生を中心として . 第22回日本炎症・再生医学会, 東京, 2001年 7月 2 - 3日 .
- 63) R.Ubalee, ASM. Zaidi, S Lokman Hakim, KJ. Ong, M. Kikuchi, HA Nasuruddin, JW. Mak, T. sone, K. Hirayama: Identification of HLA - B 1513 - restricted epitopes using *P.falciparum* synthetic peptides IFN - gamma ELISPOT. 第二回マラリア研究フォーラム 長崎, 2001年 7月14日 .
- 64) 木村美幸, 和田昭裕, 八尋錦之助, 後藤信治, 近藤宇史, 平山壽哉: *Helicobacter pylori* の産生する VacA 毒素の宿主細胞に対する致死作用解析 . 第48回毒素シンポジウム, 千葉, 2001年 7月25日 - 28日 .
- 65) 八尋錦之助, 和田昭裕, 木村美幸, 木村貴弘, 新留琢郎, 青柳東彦, 倉園久生, 藤澤順一, 平山壽哉: *Helicobacter pylori* の産生する VacA 毒素の宿主受容体 (RPTP β) の構造活性相関 . 第48回毒素シンポジウム, 千葉, 2001年 7月25日 - 28日 .
- 66) 辻 孝雄, 佐々木慶子, 加藤道夫, 高橋 剛, 本馬恭子, 一瀬休生, 浅野喜造, 横地高志: 病原性大腸菌の LT との鼻腔内併用投与による Oka 株ワクチンに対する細胞性免疫の誘導 . 第48回毒素シンポジウム, 千葉, 2001年 7月25日 - 28日 .
- 67) 菊池三穂子, 平山謙二, Honggen Chen, Ratawan Ubalee, Tong Yin, Xiaonan Gu, Jianxiang Liu, Shaoji Zhang and Hongchang Yuan: 日本住血吸虫性肝線維症重症化に対する HLA - クラス II と IL - 13プロモーター遺伝子アレルの相乗効果 . 厚生省新興再興感染症研究事業 - 日本住血吸虫等世界の寄生虫疾患および予防に関する研究 - 班会議 .

- 長崎 . 2001年 8 月27日 - 28日 .
- 68) Md. Islam, R., Chun, F., Fujii, Y., and Nakamura, M : PU. 1 as a key transcriptional activator for the expression of gp 91^{phox} gene in human myelogenous cells . 第12回日本生体防御学会 . 京都 . 2001年 8 月24 - 25日 . 生化学 73(11)1379 .
- 69) 森 直樹, 山本直樹 : HIV - 1 Tat による TGF - beta シグナル伝達抑制機構 . 第38回日本ウイルス学会九州支部総会, 北九州, 2001年 9 月 7日 - 8日 .
- 70) 大石和徳 : 熱帯地における急性細菌性呼吸器感染症 (ARI) とその重要性 . 第42回日本熱帯医学大会 . 東京都 . 2001年 9 月23 - 24日 . Vol 29 - P .140
- 71) 永武 毅 : ランチョンセミナー(I) 感染症における病原体と宿主細胞のかかわり - 新しい治療・予防薬の開発 - 「細菌感染症から」 . 第42回日本熱帯医学大会 . 東京都 . 2001年 9 月23 - 24日 .
- 72) 斎藤麻理子, 大石和徳, 和田昭裕, 平山壽哉, 永武 毅 : *Burkholderia pseudomallei* による肺上皮細胞の IL - 8 産生誘導 . 第42回日本熱帯医学大会 . 東京 . 2001年 9 月23 - 24日 . P195
- 73) 麻生憲史, 渡辺 浩, 小林 忍, 渡辺貴和雄, 大石和徳, Weerayut Kositsakulchai, Tippaya Sanchai, Sumpun Kahintapong, Banyong Khantawa, Prasit Tharavichitkul, Thira Sirisanta : タイ国北部地域における HIV 陽性患者に合併した市中呼吸器感染症の臨床的検討 . 第42回日本熱帯医学大会 . 東京都 . 2001年 9 月23 - 24日 . P196
- 74) 一瀬休生, 戸田隆義, クラウディア, トーマ, 岩見守, 江原雅彦, 平山壽哉, 岩永正明 : *Aeromonas sobria* を用いたマウス敗血症モデルの検討 . 日本細菌学会九州支部総会, 北九州, 2001年 9 月
- 75) 斎藤麻里子, 大石和徳, 和田昭裕, 平山壽哉, 永武 毅 : *Burkholderia pseudomallei* による肺上皮細胞の IL - 8 産生誘導 . 第42回日本熱帯医学会大会, 東京, 2001年 9 月23日 - 24日 .
- 76) 和田昭裕, 大串賢一, 平山壽哉 : *Salmonella enteritidis* の鞭毛構成蛋白質 (FliC) が宿主細胞に hBD - 2 を発現誘導させる , 第42回日本熱帯医学会大会, 東京, 2001年 9 月23日 - 24日 .
- 77) 狩野繁之, 中澤秀介 : ベトナムの一移住地におけるマラリア流行特性 . 第42回日本熱帯医学会大会, 東京, 2001年 9 月23 - 24日 .
- 78) 中澤秀介 : 培養系における熱帯熱マラリア原虫の再燃 . 第42回日本熱帯医学会大会, 東京, 2001年 9 月23 - 24日 .
- 79) 伊藤 誠, Mirani V Weerasooriya, Nipul K Gunawardena, 藤巻康教, 邱旭丘, 木村英作 : リンパ系フィラリア症対策評価のための, 乳幼児の感染状況把握の試み . 第42回日

- 本熱帯医学会大会，東京，2001年9月23 - 24日．日本熱帯医学学会雑誌，29(増)，p177．
- 80) 藤巻康教，Dao To Quyen，佐藤ゆき，Nguyen Thi Dang, Ha Huy Khoi, DoThi Kim Lien，青木克己，山本 茂，太田房雄：ベトナムハノイの学童におけるアレルギーと栄養状況および寄生虫感染．第42回日本熱帯医学会大会，東京，2001年9月23 - 24日．日本熱帯医学学会雑誌，29(増)，p181．
- 81) Watanabe K., Ito, M., Hamano, S., Kobayashi, S., Sharma, S., Acharya, G.P., Aoki, Y. : A survey on antigenemia of *Wuchereria bancrofti* and urine antibody titer in rural communities in Nepal．第42回日本熱帯医学大会，東京，2001年9月23 - 24日．日本熱帯医学学会雑誌，29(増)，p175．
- 82) 鳥山 寛，Wasike - Siminyu, J.,井関充及，千馬正敬：ケニア西部における悪性腫瘍の疫学調査，1979 - 1998年．第42回日本熱帯医学会大会，東京，2001年9月23 - 24日
- 83) Siswanto, Shimada,M., Joseph,R., Kisu,T., Suparmanto, P. : A questionnaire survey for dengue control in Blitar Municipality, East Java Province, Indonesia :An evaluation for better community education approach．第42回日本熱帯医学会大会，東京，2001年9月23 - 24日．
- 84) K. Hirayama, M. Kikuchi, H. Chen, R. Ubalee, T. Yin, X. Gu, J. Liu, S. Zhang and H. Yuan : Synergistic Effect Of Two Susceptible Genetic Markers, Hla - B5* 0101And Il - 13p - A/A, On The Development Of Post - Schistosomal Liver Fibrosis．東京，第42回日本熱帯医学会大会，2001年9月23日 - 24日．
- 85) 井関充及，鳥山 寛：AIDS に合併した肝ペニシリウム症の臨床病理学的研究．第45回日本医真菌学会総会，東京，2001年9月26 - 27日．
- 86) 森 直樹，佐藤 博，山田恭暉，上平 憲，朝長万左男，池田柊一，山本直樹：ATL と MMP:ATL の臓器浸潤のメカニズム．第60回日本癌学会総会，横浜，2001年9月26日 - 28日．(Jpn. J. Cancer Res . 92 . supplement : 180 , 2001)
- 87) 菊池三穂子，平山謙二，Honggen Chen, Ratawan Ubalee, Tong Yin, Xiaonan Gu, Jianxiang Liu, Shaoji Zhang and Hongchang Yuan : 日本住血吸虫性肝線維症重症化に対する HLA - クラス II と IL - 13プロモーター遺伝子アレルの相乗効果．人類遺伝学会，大宮，2001年10月2日 - 4日．
- 88) 木村英作，藤巻康教，丹羽正美，藤原 守，角坂照貴，伊藤 誠.: フィラリア感染が心血管系におよぼす影響．第37回高血圧自然発症ラット (SHR) 学会総会，長崎，2001年10月6日．
- 89) Joseph Ruyonga, Siswanto, Tomoko Kisu, Masaaki Shimada, Emer Mathew : A study of Communicable Diseases Pattern Hoima District, Uganda. Based on the Monthly Report from 34 Health Units in the year 2000．第16回日本国際保健医療学会総会，東京，2001年10月7

- 8日 .

- 90) 和田昭裕：ヘリコバクター・ピロリの産生する空胞化毒素 (VacA) による病態形成におけるヒト RPTPb の機能解析 . 第32回病態代謝研究会研究報告会 , 東京 , 2001年10月20日 .
- 91) 林原歳久 , 山田恭暉 , 宮西隆幸 , 森 直樹 , 毎田徹夫 : ATL における Ah 受容体 . 第74回日本生化学会大会 , 京都 , 2001年10月25日 - 28日 .
- 92) 齋藤若奈 , 中川喜代子 , 土橋佳子 , 川上健司 : 症例報告 . 1 肺膿瘍 , 多発脳膿瘍をきたした *Scedosporium apiospermum* 症の一例 . 第2回長崎炎症肺疾患研究会 . 長崎市 . 2001年10月26日 .
- 93) 原田義高 , 森本浩之輔 , 渡辺 浩 , 大石和徳 , 永武 毅 , 隆杉正和 , 林徳真吉 : シェーグレン症候群に BOOP を併発した症例に関する検討 . 第2回長崎炎症肺疾患研究会 . 長崎市 . 2001年10月26日 .
- 94) 木村英作 , 伊藤 誠 , 藤巻康教 , 高橋優三 : 寄生虫学の教育におけるインターネット利用の可能性 . 第57回日本寄生虫学会西日本支部大会・第56回日本衛生動物学会西日本支部大会 , 岐阜 , 2001年10月27日 .
- 95) 藤巻康教 , Nipul K Gunawardena , 青木克己 : 糸状虫感染幼虫の宿主血清の走化性 - 分子量3000以下の分画を認識する - . 第54回日本寄生虫学会南日本支部大会・第51回日本衛生動物学会南日本支部大会合同大会 , 北九州 , 2001年10月27 - 28日 .
- 96) Nipul Kithsiri Gunawardena, Yasunori Fujimaki, Yoshiki Aoki : Possible Role of Calcium/Calmodulin Pathway as mediators of the Host Recognizing Mechanisms of Filarial Infective Larva . 第54回日本寄生虫学会南日本支部大会・第51回日本衛生動物学会南日本支部大会合同大会 , 北九州 , 2001年10月27 - 28日 .
- 97) Njeri Wamae, Yoshiki Aoki : Toward elimination of lymphatic filariasis in Africa . 第54回日本寄生虫学会南日本支部大会・第51回日本衛生動物学会南日本支部大会合同大会 , 北九州 , 2001年10月27 - 28日 .
- 98) 都野展子 : 里山と山の中の蚊2 卵トラップによる幼虫調査 . 第54回日本寄生虫学会南日本支部大会・第51回日本衛生動物学会南日本支部大会合同大会 , 北九州 , 2001年10月27日 - 28日 .
- 99) Dieng,H.,Tsuno,N.,Tsuda,Y.& Takagi,M. : Laboratory and field evaluation of three copepods species as predators of immature *Aedes albopictus* . 第54回日本寄生虫学会南日本支部大会・第51回日本衛生動物学会南日本支部大会合同大会 , 北九州 , 2001年10月27日 - 28日 .
- 100) 谷村 晋 : 「日本における人的医療資源の配分の変動」 . 第60回日本公衆衛生学会総会 , 香川 , 2001年10月31 - 11月2日 . (日本公衆衛生雑誌第48巻第10号 p 412)

- 101) 菊池三穂子, 平山謙二, Honggen Chen, Ratawan Ubalee, Tong Yin, Xiaonan Gu, Jianxiang Liu, Shaoji Zhang and Hongchang Yuan: 日本住血吸虫性肝線維症重症化に対する HLA - クラス II と IL - 13プロモーター遺伝子アレルの相乗効果. 第10回日本組織適合学会 福岡, 2001年11月1日 - 2日.
- 102) 森 直樹, 山田恭暉, 塚崎邦弘, 朝長万左男, 池田柊一, 山崎嘉宏: 成人 T細胞白血病に対する NF - κ B 阻害剤による治療. 第43回日本臨床血液学会総会, 神戸, 2001年11月13日 - 15日. (臨床血液42(10): 929, 2001)
- 103) 林原歳久, 山田恭暉, 森 直樹, 鬼丸康之, 福島卓也, 上平 憲, 朝長万左男: ATL細胞浸潤における IV型コラゲナーゼ (MMP - 2, 9) と VEGF. 第43回日本臨床血液学会総会, 神戸, 2001年11月13日 - 15日. (臨床血液42(10): 984, 2001)
- 104) 天野秀明: 若手特別講演(4)マウス肺炎モデルにおける炎症終息過程と肝細胞増殖因子 (HGF) の動態と HGF 産生メカニズムを中心として. 第53回日本結核病学会九州地方会総会. 第47回日本呼吸器学会九州地方会総会. 熊本市. 2001年11月15 - 16日. P58
- 105) 川上健司, 斎藤若奈, 中川喜代子, 土橋佳子, 高橋孝郎: 間質性陰影を呈し間質性肺炎との鑑別が困難であったレジオネラ肺炎の一例. 第53回日本結核病学会九州地方会総会. 第47回日本呼吸器学会九州地方会総会. 熊本市. 2001年11月15 - 16日. P70
- 106) 中川喜代子, 斎藤若奈, 土橋佳子, 川上健司, 高橋孝郎: 3年間経過観察をしえた空洞性病変より発生した肺線癌の1例. 第53回日本結核病学会九州地方会総会. 第47回日本呼吸器学会九州地方会総会. 熊本市. 2001年11月15 - 16日. P75
- 107) 池田秀樹, 鈴木 基, 黒木麗喜, 大石和徳, 永武 毅: VATS によって診断し得た多発肺内リンパ節の一例. 第53回日本結核病学会九州地方会総会. 第47回日本呼吸器学会九州地方会総会. 熊本市. 2001年11月15 - 16日. P88
- 108) 石田正之, 尾崎方子, 本田章子, 大石和徳, 永武 毅: 喀痰から malignant lymphoma cell が検出された一症例. 第53回日本結核病学会九州地方会総会. 第47回日本呼吸器学会九州地方会総会. 熊本市. 2001年11月15 - 16日. P95
- 109) 鈴木 基, 池田秀樹, 黒木麗喜, 大石和徳, 永武 毅: 静脈脱血送血で経皮的心肺補助を開始後に著しい利尿亢進を認めた急性呼吸窮迫症候群の一例. 第53回日本結核病学会九州地方会総会. 第47回日本呼吸器学会九州地方会総会. 熊本市. 2001年11月15 - 16日. P113
- 110) 山領 豪, 大石和徳, 吉嶺裕之, 天野秀明, 永武 毅: 肺胞マクロファージによる気道のアポトーシス好中球の貪食機構の検討. 第53回日本結核病学会九州地方会総会. 第47回日本呼吸器学会九州地方会総会. 熊本市. 2001年11月15 - 16日. P128
- 111) 本田章子, 小林国彦, 酒井 洋, 米田修一, 野口行雄, 大石和徳, 永武 毅: 肺癌に

- M.foortuitum による肺感染症を合併した一例．第53回日本結核病学会九州地方会総会．第47回日本呼吸器学会九州地方会総会．熊本市．2001年11月15 - 16日．P130
- 112) 川添金雄, 真崎宏則, 鬼塚智子, 古本郎嗣, 大石和徳, 永武 毅, 大谷義夫, 角 勇樹, 新 謙一, 吉澤靖之: イソシアートが原因と考えられた塗装業関連過敏性肺臓炎の一例．第53回日本結核病学会九州地方会総会．第47回日本呼吸器学会九州地方会総会．熊本市．2001年11月15 - 16日．P134
- 113) 森本浩之輔, 天野秀明, 黒木麗喜, 苑田文成, 大石和徳, 永武 毅: ヒト肺胞マクロファージの HGF 産生に関する検討．第53回日本結核病学会九州地方会総会．第47回日本呼吸器学会九州地方会総会．熊本市．2001年11月15 - 16日．P138
- 114) 黒木麗喜, 天野秀明, 森本浩之輔, 苑田文成, 大石和徳, 永武 毅: 高血糖マウスにおける LPS 投与時の BALF 中の HGF 産生の検討．第53回日本結核病学会九州地方会総会．第47回日本呼吸器学会九州地方会総会．熊本市．2001年11月15 - 16日．P138
- 115) 黒木麗喜, 天野秀明, 森本浩之輔, 苑田文成, 大石和徳, 永武 毅: 夜間の睡眠時呼吸障害を背景に II 型呼吸不全の増悪を認めたマルファン症候群の一例．第53回日本結核病学会九州地方会総会．第47回日本呼吸器学会九州地方会総会．熊本市．2001年11月15 - 16日．P157
- 116) 岩崎琢也: インフルエンザ脳症の病理．第 5 回日本神経ウイルス研究会シンポジウム, 大阪, 2001年11月17日．
- 117) 森田公一, 長谷部 太, 五十嵐 章: デングウイルスと日本脳炎ウイルスのキメラウイルスの作製とその性状解析．第49回日本ウイルス学会総会, 大阪, 2001年11月18 - 20日．
- 118) Myint L, Matsuda Z, Yokomaku Y, Matsuo K, Iwasaki T, Yamada K, Sugiura W: Importance of gag and protease mutations in fitness recovery of the HIV - 1 with D30N and L90M protease mutations．第49回日本ウイルス学会総会, 大阪, 2001年11月18 - 20日．
- 119) 尾崎泰子, 吉川智城, 渡辺 泉, 岩崎琢也, 長谷川秀樹, 佐藤由子, 倉田 毅, 佐多徹太郎, 田村慎一, 島田進一郎, 大脇 真, 岩倉洋一郎, 鈴木雄次郎, 相沢主税: インフルエンザワクチンを経鼻免疫した pIgR 欠損マウスの上気道感染防御における IgA 抗体の役割．第49回日本ウイルス学会総会, 大阪, 2001年11月18 - 20日．
- 120) 本井ゆり恵, 井上 智, 佐藤由子, 岩崎琢也, Alan Calor, Mary E.G. Miranda, 山田章雄: 免疫組織化学的手法を用いた狂犬病診断法の実用化に関する研究．第49回日本ウイルス学会総会, 大阪, 2001年11月18 - 20日．
- 121) 加藤茂孝, 岩崎琢也, 永田典代, 須崎百合子, 網 康至: フェレットを用いた風疹ウイルスの催奇形性研究モデル動物の開発 (第 2 報) - 外表奇形と流産の誘導．第49回日本ウイルス学会総会, 大阪, 2001年11月18 - 20日．

- 122) 小池 智, 李 継芬, 細沼美樹, 清水博之, 岩崎琢也, 永田典代: エンテロウイルス71の感染性 cDNA の構築. 第49回日本ウイルス学会総会, 大阪, 2001年11月18 - 20日.
- 123) 永田典代, 清水博之, 網 康至, 田野良夫, 須崎百合子, 原嶋綾子, 佐藤由子, 長谷川秀樹, 佐多徹太郎, 岩崎琢也: カニクイザルを用いたエンテロウイルス71の病態解析. 第49回日本ウイルス学会総会, 大阪, 2001年11月18 - 20日.
- 124) 吉川哲史, 岩崎琢也, 倉田 毅, 西村直子, 尾崎隆雄, 秋元史帆, 浅野善造, 五島 典, 西山幸廣: 上皮細胞における HHV - 6 感染ならびにそれに伴う表面抗原の変化. 第49回日本ウイルス学会総会, 大阪, 2001年11月18 - 20日.
- 125) 長谷川秀樹, 巽 正志, 高橋秀宗, 長島和雄, Hall WW, 岩崎琢也, 倉田 毅, 佐多徹太郎: HTLV - II エンベロープ蛋白のプロセッシングの解析. 第49回日本ウイルス学会総会, 大阪, 2001年11月18 - 20日.
- 126) 森 直樹, 山本直樹: EBV LMP - 1 による TGF - β シグナル伝達の抑制機構. 第49回日本ウイルス学会総会, 大阪, 2001年11月18日 - 20日.
- 127) 廣仲紀子, 森 直樹, 山本直樹, 山岡昇司: HTLV - 1 感染細胞における NF - κ B 活性化のメカニズム. 第49回日本ウイルス学会総会, 大阪, 2001年11月18日 - 20日.
- 128) 村岡なつ子, 井関充及, 林徳真吉, 安部邦子: 尿管に発生した混合型小細胞癌の1例. 第40回日本臨床細胞学会, 米子, 2001年11月22 - 23日.
- 129) 井関充及: 炎症性偽膀胱腫瘍. スライドセミナー, 第40回日本臨床細胞学会, 米子, 2001年11月22 - 23日.
- 130) 岩崎琢也, 永田典代, 清水博之: シンポジウム 1: 髄膜炎, 脳炎・脳症 - 発症のメカニズムを探る - エンテロウイルス71脳炎. 第33回日本小児感染症学会 宇部 2001年11月23日.
- 131) 吉嶺裕之: 感染症とアポトーシス 4. 呼吸器感染症におけるアポトーシスの好中球処理機構とその制御. 第71回日本感染症学会西日本地方会総会. 岡山市. 2001年11月29 - 30日. P40
- 132) 古本郎嗣, 真崎宏則, 鬼塚智子, 出川 聡, 山領 豪, 下釜誠司, 高橋秀彦, 星野和彦, 渡辺貴和雄, 大石和徳, 永武 毅: Coryneform CDC group ANF による市中肺炎と考えられた一例. 第71回日本感染症学会西日本地方会総会. 岡山市. 2001年11月29 - 30日. P48
- 133) 池田 徹, 吉田俊昭, 川内安二, 大石和徳, 永武 毅: 当院における血液培養分離菌の検討. 第71回日本感染症学会西日本地方会総会. 岡山市. 2001年11月29 - 30日. P84
- 134) 倉本剛史, 吉嶺裕之, 田代尚樹, 大石和徳, 永武 毅: Interferon - γ 吸入療法が有効であった多剤耐性結核の一症例. 第71回日本感染症学会西日本地方会総会. 岡山市. 2001

年11月29 - 30日 . P60

- 135) 齋藤若奈, 中川喜代子, 土橋佳子, 川上健司, 渡辺貴和雄, 永武 毅: 肺膿瘍, 多発脳膿瘍をきたした *Scedosporium apiospermum* 症の一例. 第71回日本感染症学会西日本地方会総会. 岡山市. 2001年11月29 - 30日 . P66
- 136) 鶴飼桃代, 渡辺 浩, 吉嶺裕之, 渡辺貴和雄, 大石和徳, 永武 毅: フルコナゾールとフルトシンが有効であった髄膜脳炎を合併した肺クリプトコッカス症の一例. 第71回日本感染症学会西日本地方会総会. 岡山市. 2001年11月29 - 30日 . P66
- 137) 佐藤哲史, 小林 忍, 佐藤晃嘉, 渡辺貴和雄, 大石和徳, 永武 毅: 健康成人に発症した肺炎球菌性髄膜炎の一症例. 第71回日本感染症学会西日本地方会総会. 岡山市. 2001年11月29 - 30日 . P67
- 138) 原田義高, 黒木麗喜, 大石和徳, 永武 毅, 岡田晴恵, 佐藤 威, 田代真人: 高校生に発症した麻疹脳炎の一例. 第71回日本感染症学会西日本地方会総会. 岡山市. 2001年11月29 - 30日 . P68
- 139) 栗田伸一, 黒木麗喜, 大石和徳, 永武 毅, 野口英太郎, 岡田晴恵, 佐藤 威, 田代真人: 長崎市内の高校で流行した麻疹患者の臨床的検討. 第71回日本感染症学会西日本地方会総会. 岡山市. 2001年11月29 - 30日 . P69
- 140) 川上健司, 中川喜代子, 土橋佳子, 齋藤若奈, 山領 豪, 池田 徹, 出川 聡, 大石和徳, 永武 毅: 慢性呼吸器疾患患者を対象としてインフルエンザワクチン接種前後のペア血清抗体価 (1999 / 2000シーズン, 2000 / 2001シーズン) の検討. 第71回日本感染症学会西日本地方会総会. 岡山市. 2001年11月29 - 30日 . P78
- 141) 松本慶蔵: 教育セミナー 人獣共通感染症とインフルエンザ. 第49回日本化学療法学会西日本支部総会. 名古屋市. 2001年12月 6 - 7日 . Vol 49
- 142) 麻生憲史, 渡辺 浩, 小林 忍, 渡辺貴和雄, 大石和徳, 永武 毅: タイ国北部地域における HIV 陽性患者に合併した市中呼吸器感染症の臨床的検討. 第49回日本化学療法学会西日本支部総会. 名古屋市. 2001年12月 6 - 7日 . Vol 49 . P51
- 143) 菊池三穂子, 平山謙二, Honggen Chen, Ratawan Ubalee, Tong Yin, Xiaonan Gu, Jianxiang Liu, Shaoji Zhang and Hongchang Yuan: 日本住血吸虫性肝線維症重症化に対する HLA - クラス II と IL - 13プロモーター遺伝子アレルの相乗効果. 第31回日本免疫学会総会, 大阪, 2001年12月11日 - 13日
- 144) 平山謙二: プール DNA を用いた熱帯感染症重症化関連遺伝子領域のマイクロサテライトマッピング - マラリア, 住血吸虫症, デング熱, シャーガス病における探索 - . 第1回特定領域研究 感染の成立と宿主応答の分子基盤 班会議, 東京, 2002年 1月10日 - 12日 .

- 145) **平山謙二**, Somchai Jongwutiwes, Cputaporntip Chaturong, **菊池三穂子**: HLA - B 15の人は CSP 遺伝子 Th2R 部位の A アレルの熱帯熱マラリアにかかりにくい。日米寄生虫研究部会, 名古屋, 2002年 2月22日 - 23日。
- 146) **平山謙二**: 日本住血吸虫卵由来(中国株)の cDNA ライブラリーからのヒト血清中 IgG 反応性抗原タンパクをコードする遺伝子の単離。新興再興感染症班会議, 名古屋, 2002年 2月21日。
- 147) **平山謙二**: 二次元電気泳動法によるクルーズトリパノソーマ種内変異の解析 第1回シャーガス病の多様な病態とヒト及び原虫の種内変異との関連 - 班会議, 長崎, 2002年 2月25日。
- 148) **門司和彦**, **谷村 晋**, **八幡裕一郎**, **中尾理恵子**, **崎谷恭子**, **田原靖昭**, **石橋晴美**, **石橋由里子**, **重政昭彦**, **伊藤妙子**, **牟田美智子**, **土居 浩**, **青柳 潔**: Nagasaki Health Study 2001の概要と途中経過。第39回長崎県総合公衆衛生研究会, 長崎市, 2002年 3月 1日。
- 149) **鶴飼桃代**: 抗 GM - CSF 抗体を証明し得た持発性肺胞蛋白症の 1 例。第 1 回長崎炎症性肺疾患研究会。長崎市。2002年 3月 2日。
- 150) **森本浩之輔**: 当科で経験した NSIP の臨床的, 病理学的検討。第 1 回長崎炎症性肺疾患研究会。長崎市。2002年 3月 2日。
- 151) **平山壽哉**, **木村美幸**, **木村貴弘**, **八尋錦之助**, **大串賢一**, **和田昭裕**: *H. pylori* VacA は p38MAP kinase のリン酸化を亢進する。第27回長崎感染症研究会, 長崎, 2002年 3月 9日。
- 152) **森 直樹**, **山本直樹**: EBV LMP - 1 による TGF - β シグナル伝達の抑制機構。第27回長崎感染症研究会, 長崎, 2002年 3月 9日。
- 153) **鳥山 寛**, **井関充及**, **千馬正敬**: 熱帯アフリカの子宮頸癌および陰茎癌における HVP 感染, 第91回日本病理学会総会, 横浜, 2002年 3月26日。
- 154) **岩崎琢也**, **長谷川秀樹**, **小林庸次**, **小川 晃**, **岡崎 悦夫**, **中山雅弘**, **佐藤由子**, **熊坂利夫**, **中島典子**, **佐多徹太郎**, **倉田 毅**: 小児のインフルエンザウイルス感染の病理像。第91回日本病理学会総会, 横浜, 2002年 3月27日。
- 155) **長谷川秀樹**, **門脇信悦**, **高橋秀宗**, **岩崎琢也**, **田村慎一**, **倉田 毅**, **佐多徹太郎**: 放射線照射とインフルエンザ感染によるマウスの感染免疫と肺病変の解析。第91回日本病理学会総会, 横浜, 2002年 3月27日。
- 156) **大渡 伸**, **藤巻康教**, **熊取厚志**, **鳥山 寛**, **金田英子**: 太陽紫外線による疾病感染の影響。第79回日本生理学会大会, 広島市, 2002年 3月28 - 30日。
- 157) **曾根敏雄**, **高木里英**, **穆箭兵**, **柳 哲雄**, **肥後広夫**, **多田功**, **平山謙二**: 二次元電気泳動法によるクルーズトリパノソーマ種内変異の解析。第71回日本寄生虫学会, 神奈川,

名古屋，2002年3月27日 - 29日。

- 158) **大渡 伸，藤巻康教，熊取厚志，鳥山 寛，金田英子**：太陽紫外線による疾病感染の影響。第79回日本生理学会大会，広島市，2002年3月28 - 30日。
- 159) Putaporntip, C., Jongwutiwes, S., Sakihama, N., Kanbara, H., Tanabe, K. : Extensive allelic diversity generated by intragenic recombination in the *Plasmodium vivax* merozoite surface protein I gene in natural isolates。第71回日本寄生虫学会大会，伊勢原，2002年3月29 - 30日。
- 160) **柳 哲雄，Sandra Juarez, S., 村上 愛，Sherchand, J. B., Pandey, B. D., 神原廣二**：ネパールの市街地スラムと近郊農村における赤痢アメーバとパルバム・クリプトスポリジウムの感染状況。第71回日本寄生虫学会大会，伊勢原，2002年3月29 - 30日。
- 161) **神原廣二，Dachlan, Y. P., 他3名，Gerudug, I. K.**：インドネシア，ロンボク島におけるマラリアコントロール。第71回日本寄生虫学会大会，伊勢原，2002年3月29 - 30日。
- 162) **前野芳正，中澤秀介，長嶋茂雄，佐々木潤，谷口孝喜**：マラリア感染における宿主の免疫反応の解析：乾燥血液標本からサイトカイン mRNA の解析は可能か？第71回日本寄生虫学会大会，伊勢原，2002年3月29 - 30日。
- 163) **中澤秀介**：*Plasmodium berghei* Nk65持続感染モデル。第71回日本寄生虫学会大会，伊勢原，2002年3月29 - 30日。
- 164) **上村春樹，藤井 茂，Pelayo, L., 神原廣二**：*T. cruzi* トランスシアリダーゼの活性型，不活性型の精製と比較。第71回日本寄生虫学会大会，伊勢原，2002年3月29 - 30日。
- 165) Juarez, S., Putaporntip, C., Ichinose, A., Jongwutiwes S., Yanagi, T., Kanbara, H. : A species of microsporidium isolated from an HIV - infected patient's cornea and identified as *Trachipleistophora* sp. by transmission electron microscopy。第71回日本寄生虫学会大会，伊勢原，2002年3月29 - 30日。
- 166) **木村幹男，青木克己**：新興再興寄生虫症の疫学（ワークショップ）。第71回日本寄生虫学会大会，伊勢原，2002年3月29 - 30日。第71回日本寄生虫学会大会プログラム抄録集，p58。
- 167) **渡部幹次，松山拓史，濱野真二郎，小林 茂，Gopal P.Acharya,Sashi Sharma，青木克己**：ネパール，ジュディガウン村における蠕虫症の罹患状況の変移。第71回日本寄生虫学会大会，伊勢原，2002年3月29 - 30日。第71回日本寄生虫学会大会プログラム抄録集，p101。
- 168) **藤巻康教，Nipul K Gunawardena，青木克己**：糸状虫感染幼虫の宿主侵入時に関与する宿主血清中の認識物質。第71回日本寄生虫学会大会，伊勢原，平成14年3月29 - 30日。第71回日本寄生虫学会大会プログラム抄録集，p148。

169) Nipul K Gunawardena, Fujimaki Y, Aoki Y. : Involvement of cAMP/cGMP and protein kinases on filarial infective larvae host recognition . 第71回日本寄生虫学会大会 , 伊勢原 , 2002年3月29 - 30日 . 第71回日本寄生虫学会大会プログラム抄録集 , p149 .

9 . 3 国際会議における研究発表

- 1)Hirayama T., Wada A., Moss J. : *Helicobacter pylori*-mediated transcriptional regulation of the human β -defensin-2 gene requires NF- κ B. The 101 General Meeting of American Society for Microbiology, May 19-24, 2001, Orland, USA.
- 2)Susumu Tanimura, Tomoko Kisu : Application of GIS in descriptive epidemiology of schistosomiasis in Tanzania. Asia GIS 2001, June 20-22, 2001. Tokyo, Japan (Proceeding of Asia GIS 2001 [CDROM])
- 3) M. Kikuchi, K.Hirayama , H. Chen, R. Ubalee, T. Yin, X. Gu, J. Liu, S. Zhang and H. Yuan : Synergistic effect of two susceptible genetic markers, HLA-B 5*0101 and IL-13 P-A/A, on the development of post-schistosomal liver fibrosis. 2nd International Symposium Schistosomiasis. July 3-6, 2001, Shanghai, China.
- 4) Tsuyoshi Nagatake : Prevention of respiratory infections by povidone iodine gargle. 4th Asian Pacific Congress on Antisepsis, July 18-20, 2001, Vancouver, Canada.
- 5) K. Hirayama : Synergistic effect of two susceptible genetic markers, HLA-B 5*0101 and IL-13 P-A/A, on the development of post-schistosomal liver fibrosis. 36th Joint Conference on Parasitic Diseases. NIH Rockledge II, July 22-24, 2001, Rockville, USA.
- 6) M. Kikuchi, S. Looareesuwan, R. Ubalee, O. Tسانnor, F. Suzuki, Y. Wattanagoon, K. Na-Bangchang, A. Kimura, M. Aikawa and K. Hirayama : Association of adhesion molecule PECAM-1/CD 31 polymorphism with susceptibility to cerebral malaria in Thais. Joint International Tropical Medicine Meeting 2001. August 8-10, 2001. Bangkok, Thailand.
- 7) Wada, A., Ogushi, K., Hirayama, T. : Induction of human β -defensin-2 in human colon adenocarcinoma cell, Caco-2, by *Salmonella enteritidis* FliC (flagella filament protein). The Awaji International Forum on Infection and Immunity August 19-21, 2001, Awaji island, Japan.
- 8) K.Morita : New technology for laboratory diagnosis on JE. SEAMIC Meeting, August 20-24, 2001, Hanoi, Vietnam.
- 9) K.Morita : Research on new JE vaccines. SEAMIC Meeting, August 20-24, 2001, Hanoi, Vietnam.
- 10) K.Morita : Virological research, new information on JEV. SEAMIC Meeting, August 20-24, 2001, Hanoi, Vietnam.
- 11) Tsuda, Y. & Takagi, M. : Simulation study on temporal and house variation of *Aedes aegypti* within a small village. 3rd International Congress of Vector Ecology. September 16-21, 2001. Barcelona, Spain.

- 12) K. Hirayama : Human genetic factors in parasitic diseases . 第4回マレーシア保健省および医学アカデミー-医学会及び熱帯医学に関する国際会議 , マレーシア , クアラルンプール , 2001年10月9日 - 12日 .
- 13) J.B. Mu, T. Sone, T. Yanagi, H. Higo, M. Gil, V. Matta, C. Monroy, N. Acosta, E. Lopez, A. R. Arias, N. Uyema, I. Tada, K. Hirayama : Evaluation of protein variabilities in *Trypanosoma cruzi* as indicated by two-dimensional gel electrophoresis. Japan-Korea Parasitology Meeting, October,24-26, 2001, Seoul, Korea.
- 14) Susumu Tanimura, Tsutomu Mizota : Changing People-Environment Interaction in Contemporary Asia : An Area Study Approach. CSEAS COE International Seminar, November 16, 2001, Kyoto. Japan . (抄録集は成書として出版予定)
- 15) Mori, N., Yamada, Y., Ikeda, S., Tsukasaki, K. & Tomonaga, M. : An inhibitor of transcription factor NF- κ B induces apoptosis of HTLV-I infected T-cell lines and primary adult T-cell leukemia cells. 43rd Annual Meeting of the American Society of Hematology, December 7-11, 2001. Orlando, U.S.A.,(Blood 98. supplement 1: 304 a, 2001)
- 16) Hirayama T., Ogushi K - I., Wada, A., Moss, J.: Induction of human β -defensin-2 in human colon adenocarcinoma cell, Caco-2, by *Salmonella enteritidis* FliC (flagella filament protein). The 41th Annual meeting of the American Society for Cell Biology, Dec. 8-12, 2001, Washington DC, USA.
- 17) K. Hirayama : Research ethics review procedures in Japan. Research Ethics in China, South Korea and Japan in Nagasaki, December 20-22, 2001.
- 18) Kazunori Oishi, Hidehiko Takahashi, and Tsuyoshi Nagatake: Decreased serum opsonic activity against *Streptococcus pneumoniae* in HIV-infected Ugandan adults. US/Japan Cooperative Medical Science Meeting Acute Respiratory Infections Subcommittee., February. 14-15, 2002. New Orleans, Louisiana, U.S.A.
- 19) Keizo Matsumoto, Tsuyoshi Nagatake, Kazunori Oishi : Current situation of pneumococcal infections in Japan US/Japan Cooperative Medical Science Meeting Acute Respiratory Infections Subcommittee., February. 14-15, 2002. New Orleans, Louisiana, U.S.A.
- 20) Tsuda, Y. & Takagi, M. : Differences in the resistance of *Aedes aegypti* and *Ae. albopictus* larvae to low temperatures. The 2nd European Mosquito Control Association Workshop. March 14-16, 2002. Bologna, Italy.
- 21) Takagi, M. & Tsuda, Y. : A landscape ecological approach to *Anopheles minimus* habitat. The 2nd European Mosquito Control Association Workshop. March 14-16, 2002. Bologna, Italy.

9.4 報告書等印刷物

- 1) K.Morita : Final Report to IAEA: Technolgy Transfer on dengue diagnosis in Sri Lanka.
- 2) **森田 公一** : 「節足動物媒介性ウイルスに対する診断法の確立, 疫学及びワクチン開発に関する研究」(分担) 厚生省科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業 (平成13年研究報告書)
- 3) **森田 公一** : 「感染症および感染症対策の国際動向に関する研究」(分担) 厚生省科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業 (平成13年研究報告書)
- 4) **神原 廣二** : マラリア インドネシア東部ロンボクおよびスンバワにおけるマラリア疫学研究 . 日本学術振興会大型共同研究報告書 - インドネシア (1991年~2001年), p128 - 168, 2001年3月
- 5) **鳥山 寛** : タイにおける肝疾患のウイルス学および病理学的研究 . 平成12年度厚生労働省国際医療協力研究委託費研究報告書, p521 - 522, 2001 .
- 6) **大石和徳** : DNA array によるアフリカの HIV 感染者における免疫病態に関する研究 . 平成12年度~平成13年度科学研究費補助金 基盤研究(B)1) 研究成果報告書, P 1 - 51, 2001 .
- 7) **都野 展子** : 書評 ファイトテルマータ . 日本生態学会誌, Vol 51 (1) : 45 - 47, 2001 .
- 8) **溝田 勉** : 熱帯性感染症対策に影響を及ぼす開発・環境・文化要因 「全国共同利用研」共同研究事業 研究集会報告書 2001年12月刊
- 9) **溝田 勉** : 開発途上国における疾病対策と貧困・環境・文化(Ⅲ) 「全国共同利用研」共同研究事業 共同研究報告書 2002年3月刊
- 10) **大渡 伸, 藤巻康教, 熊取厚志, 鳥山 寛, 金田英子** : 紫外線 (UV - B) 照射と生体免疫能の関連, 共同研究報告書, 2001 .
- 11) **安高雄治, 梅崎昌裕, Krishna Pahari, 大塚柳太郎** : パプアニューギニア島嶼部における焼畑農耕地の土地被覆分類 : 高解像度衛星 IKONOS 画像データの人類的応用 . 「土地利用・土地被覆の経時変化分析の人類学への応用」平成11 - 13年度科学研究費補助金 (国際学術研究) 研究成果報告書 (研究代表者 : 大塚柳太郎), p 8 - 21, 2002 .
- 12) **安高雄治** : 高解像度衛星画像データによる土地利用の定量的分析 : パプアニューギニア島嶼部における人類的応用 . 生態人類学会ニュースレター 7 : 6 - 7, 2001 .

9.5 熱帯医学研究所集談会

平成13年度熱帯医学研究所大集談会について

日時 平成14年3月5日(火) 9:30より16:50まで

場所 熱研 大会議室

9:30~9:35 青木所長 挨拶

9:35~9:55 感染症予防治療分野(座長 岩崎)

- (1) 渡辺貴和雄「ベトナムにおける小児ARIの起炎菌決定と薬剤感受性について」
- (2) 大石 和徳「デングウイルス感染症における血小板減少のメカニズム」

9:55~10:15 感染症研究センター(座長 大石)

- (1) 嶋田 雅暁「タンザニアにおける熱帯感染症 - 我々の研究と将来」

10:15~10:35 炎症細胞機構分野(座長 嶋田)

- (1) Md. Rafiqul Islam「PU.1 is dominant and HAF-1 supplementary for the activation of gp91^{phox} promoter in human monocytic PLB-985 cells」
- (2) 鈴木 章一「樹状細胞の分化における特定転写因子の役割」

10:35~10:55 病原因子機能解析分野(座長 中村)

- (1) 八尋錦之助「*Helicobacter pylori* の産生する VacA 毒素の宿主受容体(p140)の同定」
- (2) 和田 昭裕「*S. enteritidis* の flagellin による NF- κ B 活性化機構の解析」

10:55~11:15 エイズ・感染防御分野(座長 平山壽哉)

- (1) 森 直樹「HTLV-1の発癌機構」

11:15~11:35 社会環境分野(座長 森)

- (1) 谷村 晋「平成13年度社会環境分野の研究進捗状況」

11:35~13:00 休憩

13:00~13:20 疾病生態分野の新任教授講演(座長 溝田)

- (1) 平山 謙二「熱帯感染症流行地のエコノシステムにおけるゲノムダイナミクス」

13:20~13:40 病変発現機序分野の新任教授講演(座長 平山謙二)

- (1) 岩崎 琢也「東南アジアで問題となる神経ウイルス感染症」

13:40~14:00 分子構造解析分野の新任教授講演(座長 岩崎)

- (1) 森田 公一

14:00~15:00 ベトナムプロジェクトの成果(座長 森田)

- (1) 高木 正洋「本年度の活動の紹介」

- (2) 江原 雅彦「ベトナム分離コレラ菌の解析：繊維状ファージ，自己凝集性コレラ菌の解析」
- (3) 谷村 晋「ベトナムにおける交通事故死亡の疫学 - 研究デザインの検討 - 」
- (4) 中澤 秀介「ビンフック省プーチュンむらに於ける熱帯熱マラリア調査」
- (5) 長谷部 太「Molecular epidemiology of dengue type 4 virus in Vietnam」

15 : 00 ~ 15 : 10 休憩

15 : 10 ~ 15 : 30 寄生行動制御分野（座長 高木）

- (1) 青木 克己「教室の研究課題」
- (2) 渡部 幹次「ビルハルツ住血吸虫感染による排尿障害」
- (3) N.K.Gunawar dena「Chemotax of *Brugia pahangi* infective larvae」

15 : 30 ~ 15 : 50 分子構造解析分野（座長 青木）

- (1) 長谷部 太「日本脳炎ウイルス NSS 蛋白の RNA 合成活性の解析」
- (2) 長谷部 太「フラビウイルス Helicase のリコンビナントウイルスを用いた解析」

15 : 50 ~ 16 : 10 生物環境分野（座長 森田）

- (1) Ronald Enrique Moralis Vargas「Infection and dissemination of two dengue type 2 virus isolated from patients exhibiting different disease severity in orally infected *Aedes aegypti* from different geographic origin」
- (2) Nobuko Tuno, Yoshio Tsuda, Masahiro Takagi, and Wannapa Swonkerd「Behavior of mosquitoes around a bovine host with reference to their pre-biting test」

16 : 10 ~ 16 : 30 感染細胞修飾機構分野（座長 高木）

- (1) Windell L. Rivera「Genetic polymorphisms of clinical and field isolation of *Entamoeba histolytica* in the Philippines」
- (2) 中澤 秀介「熱帯熱マラリア原虫の in vitro における再燃」

16 : 30 ~ 16 : 50 疾病生態分野（座長 神原）

- (1) 大渡 伸「マンソン住血吸虫感染に対する太陽紫外線の影響」
- (2) 菊池三穂子「日本住血吸虫性肝繊維症重症化に対する HLA - クラス II と IL - 13 プロモーター遺伝子アレルの相乗効果」

16 : 50 ~ 17 : 10 病変発現機序分野（座長 平山謙二）

- (1) 鳥山 寛「タイ北部における A 型肝炎の動向」
- (2) 千馬 正敬「ケニア内陸部における子宮頸癌および陰茎癌とヒトパピローマウイルス感染の関係について」

10 講演会

10.1 熱帯医学研究所における所外講師による講演

- 1) ベトナムのデング・日本脳炎の現状
Do Quang Ha
2001年7月17日
- 2) トキソプラズマ原虫のエスケープ戦略
矢野 明彦 (千葉大学大学院・医学研究院・感染生態防御学)
2001年11月22日 熱帯医学研究所小会議室
- 3) Climate Change and infectious diseases..
A.J. McMichael
National Centre for Epidemiology and Population Health,
Australian National University, Canberra
2001年11月26日, 医学部ポンペ会館
- 4) 消化管線虫症としての毛様線虫の生物学
福本真一郎 (酪農学園大学・獣医学部・獣医寄生虫学)
2001年12月7日, 熱帯医学研究所小会議室
- 5) 特発性心筋症原因遺伝子の探索: 新規原因遺伝子の同定と変異の機能解析
木村 彰方 (東京医科歯科大学・難治疾患研究所・分子病態)
2001年12月14日, 熱帯医学研究所ゼミナール室
- 6) マイクロサテライトを用いたゲノムワイドな相関解析による疾患遺伝子のマッピング
猪子 英俊 (東海大学・医学部・分子生命科学)
2001年12月14日, 熱帯医学研究所ゼミナール室
- 7) ケモカインによる感染/免疫反応制御
松島 綱治 (東京大学大学院・医科系分子予防医学)
2002年1月18日, 熱帯医学研究所小会議室
- 8) ドミニカ共和国のデング疫学調査
牧野 芳大
2002年14年1月28日
- 9) デング媒介蚊について
江下 優樹
2002年2月8日

- 10) 神経組織発生における SOX の役割
安河内幸雄 (東京医科歯科大学難治疾患研究所)
2002年2月8日, 炎症細胞セミナー室
- 11) 研究における originality の意味
安河内幸雄 (東京医科歯科大学難治疾患研究所)
2002年2月12日, 炎症細胞セミナー室
- 12) p53サプレッサーを用いた低形成性甲状腺癌の遺伝子治療効果のヒストンデアシラーゼ
阻害剤による増強
大津留 晶 (長崎大学医学部)
2002年2月22日, 熱帯医学研究所ゼミナール室
- 13) 肝細胞癌の新奇遺伝子治療戦略
川下 雄丈 (長崎大学医学部附属病院)
2002年2月22日, 熱帯医学研究所ゼミナール室
- 14) HVJ - E による遺伝子導入
加藤 雅也 (石原産業 KK 研究所)
2002年2月22日
- 15) 腸管寄生線虫の寄生機構
丸山 治彦 (名古屋市立大学医学部医動物学)
2002年3月1日, 熱帯医学研究所小会議室
- 16) ヒト T 細胞白血病ウイルス 1 型とカポジ肉腫ウイルスの潜伏感染と発ガンの分子機構
藤井 雅寛 (新潟大学大学院・医歯学総合研究科・国際感染医学講座ウイルス学分野)
2002年3月8日, 熱帯医学研究所ゼミナール室
- 17) SCID マウスを用いた最近の HIV/AIDS 研究から
山本 直樹 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医学部ウイルス制御学)
2002年3月8日, 熱帯医学研究所ゼミナール室
- 18) ウイルス性出血熱の診断法開発
西条 政幸
2002年3月18日
- 19) 旅行医学について
大利 昌久 (神奈川県おおり医院)
2002年3月18日, 熱帯医学研究所大会議室

10.2 熱帯医学研究所教官による講演

1) ATL と転写因子

森 直樹

日本癌学会シンポジウム「成人 T 細胞白血病のウイルス病因発見から20年～これまでの研究軌跡と臨床からの問い掛け～」

2001年 4月 6日, 京都

2) 寄生虫疾患の重症化に関する遺伝子

平山 謙二

山形大医学部特別講義

2001年 4月27日, 山形

3) 開発途上国における感染症

永武 毅

東京大学医学部学生講義

2001年 5月 7日, 東京

4) 住血吸虫症, 糸状虫症, 蠕虫症の治療

青木 克己

山形大学医学部特別講義

2001年 5月10日, 山形

5) Genetic Markers that Predict The Prognosis of Parasitic Infection.

Hirayama, Kenji

Tropical disease IV Laboratory and Field observation in Tropical Diseases. Thammasat University May 5-12, 2001. Bangkok, Thailand

6) 国際保健医療入門

青木 克己

佐賀医科大学医学部看護学科講義

2001年 5月15日, 佐賀

7) HTLV - 1 による発癌機構の解析

森 直樹

第18回角尾学術賞受賞記念講演

2001年 5月21日, 長崎

8) 21世紀における日本の役割

溝田 勉

長崎県すこやか長寿大学校

2001年5月25日，長崎

9) プライマリヘルスケア

嶋田 雅暁

久留米大学医療科学講義

2001年6月5日 久留米

10) 熱帯地域感染症の現状と対策

大石 和徳

熊本県内科学会総会学術講演会

2001年6月9日，熊本市

11) 呼吸器感染症における今日の問題と対応

永武 毅

内科学会北海道支部生涯教育

2001年6月10日，札幌市

12) 人間の安全保障

溝田 勉

放送大学長崎学習センター

2001年6月16日，長崎

13) 呼吸器感染症の今日の問題と対応

永武 毅

京都北部感染症懇話会

2001年6月23日，舞鶴市

14) 紫外線障害について

大渡 伸

長崎大学環境科学部特別講義

2001年6月27日，長崎

15) 熱帯寄生虫病学：特に住血吸虫症対策について

青木 克己

愛媛大学医学部特別講義

2001年6月28日，愛媛

16) 食品と寄生虫病

藤巻 康教

徳島大学医学部栄養衛生学講義

2001年6月28日，徳島

- 17) 人間の安全保障 - 『循環型社会』理解と創生

溝田 勉

放送大学長崎学習センター

2001年6月30日，長崎

- 18) 国際感染症 原虫病

神原 廣二

大阪大学医学部保健学科大学院講義

2001年7月17日，18日，大阪

- 19) 寄生虫疾患の hidden morbidity

青木 克己

徳島大学医学部栄養学科講義

2001年7月27日，徳島

- 20) **大渡 伸**

熱帯環境に生きる身体の変化と対策

長崎大学熱帯医学研究所公開講座

2001年7月28日，長崎

- 21) 人は世につれ，蚊は人につれ

高木 正洋

長崎大学熱帯医学研究所公開講座

2001年7月28日，長崎

- 22) 磯の生き物

都野 展子

大村商工会議所

2001年7月29日，大村

- 23) 熱帯医学と文化人類学

青木 克己

日本学術会議第7部シンポジウム

2001年7月30日，長崎

- 24) 細菌感染症における諸問題 - 呼吸器から腸管まで -

永武 毅

第379回長崎医学会例会

2001年8月4日，大村市

- 25) Liver pathology
Toriyama, Kan
Special lecture, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, Thailand.
August 6, 2001, Chiang Mai, Thailand
- 26) 微生物感染と炎症・発癌 (HTLV - I とヘリコバクター・ピロリからのレッスン)
森 直樹
福島県立医大セミナー
2001年 8月29日, 福島
- 27) 国際社会変化と人間の安全保障
溝田 勉
放送大学長崎学習センター
2001年 9月 1日, 長崎
- 28) 比較健康教育学
溝田 勉
神戸大学発達科学部集中講義
2001年 9月 5日 ~ 7日, 神戸
- 29) 熱帯医学とケニアにおける住血吸虫症対策
青木 克己
九州大学医学部特別講義
2001年 9月 7日 福岡
- 30) 国連 NGO 活動と私達
溝田 勉
国際ソロプチミスト長崎
2001年 9月 8日, 長崎
- 31) 微生物感染と炎症・発癌 ~ HTLV - 1 とヘリコバクター・ピロリからのレッスン ~
森 直樹
第300回生医研セミナー
2001年 9月19日, 福岡
- 32) 呼吸器感染症の外来治療 - 今日的問題とその対応 -
永武 毅
第11回北海道感染症研究会
2001年 9月29日, 札幌市

- 33) 国際保健医療
嶋田 雅暁
高知医科大学講義
2001年10月2日, 高知
- 34) 疾病媒介蚊の生態と防除
高木 正洋
三重大学大学院医学研究科特論
2001年10月12日, 津
- 35) 新時代のインフルエンザの臨床 - 診断・治療・予防の考え方 -
永武 毅
神奈川県保険医協会横浜支部研究会
2001年10月23日, 横浜市
- 36) 院内肺炎の今日的な治療・予防戦略
永武 毅
第一回埼玉呼吸器感染症研究会
2001年10月25日, 大宮市
- 37) カポシ肉腫の変遷とウィルス・シンポジウム「皮膚感染症の新たな視点」
鳥山 寛
第53回日本皮膚科学会西部支部学術大会,
2001年10月27 - 28日, 長崎
- 38) 感染症はどうしたら防げるか? - 食中毒から院内感染まで -
一瀬 休生
長崎県立大村病院 院内感染対策研修会
2001年11月2日, 大村市
- 39) ビルハルツ住血吸虫症: hidden morbidity
青木 克己
九州大学医学部寄生虫学教室同門会50周年記念講演会
2001年11月3日, 福岡
- 40) Introduction of our new trial study to identify Genome-Genome Interaction between host and parasite.
K. Hirayama
熱研セミナー
2001年11月3日, 長崎

- 41) 国際保健医療
嶋田 雅暁
産業医科大学保健学科講義
2001年11月3 - 4日, 北九州
- 42) 日本で問題となる寄生虫
平山 謙二
関東甲信越臨床検査学会 インターネット会議
2001年11月10日, 大宮
- 43) 世界のムカシウサギを追って
鈴木 博
第21回日本実験動物技術者協会九州支部研究発表会・特別講演
2001年11月11日, 長崎
- 44) ソロモン諸島のマラリア対策
鈴木 博
大分医科大学医学部特別講義
2001年11月14日, 大分
- 45) 米国における西ナイルウイルスの流行
森田 公一
トガ・フラビ・ペスチ研究会
2001年11月17日, 大阪
- 46) 呼吸器感染症における好中球の IL - 8 産生誘導とアポトーシス
大石 和徳
第5回脂質メデエーター研究集会
2001年11月17日, 東京都
- 47) 今, 学校教育に求められていること
溝田 勉
長崎県教育センター: (中堅教員としての役割(経営基礎)研修講座)
2001年11月20日, 長崎
- 48) 元気虎の巻: 女性が2人に1人が悩む冷え症を退治
大渡 伸
長崎国際TV(NIB)のニュース番組「プラス1」の特集
2002年11月22日放映

- 49) 新時代のインフルエンザの臨床
永武 毅
富山県医師会学術講演会
2001年11月28日, 富山市
- 50) “Agricultural Medicine: Control of Parasitic Diseases”
嶋田 雅暁
産業医科大学 JICA 講義
2001年11月28 - 30日, 北九州
- 51) HTLV - I の発癌機構
森 直樹
第1回九州 ATL 研究会学術講演会
2001年12月1日, 福岡
- 52) 国連と NGO の立場から見たテロと報復戦争
溝田 勉
2001長崎証言の会総会
2001年12月2日, 長崎
- 53) 蚊の生理・生態と熱帯医学
高木 正洋
日本家庭用殺虫剤工業会総会
2001年12月6日, 和歌山
- 54) 原虫性疾患
神原 廣二
京都大学医学部学生講義
2001年12月6日, 京都
- 55) 熱帯寄生虫病学特論
青木 克己
京都大学医学部講義
2001年12月10日, 京都
- 56) 国際医学 赤痢アメーバとクリプトスポリジウムの疫学
神原 廣二
富山医科薬科大学医学部学生講義
2001年12月14日, 富山

57) 寄生虫疾患の重症化に關与する遺伝子

平山 謙二

長崎医学会公開シンポジウム

2001年12月15日, 長崎

58) 新時代のインフルエンザの臨床

永武 毅

磐田市医師会学術講演会

2001年12月17日, 磐田市

59) 熱帯寄生虫病学: 特に住血吸虫症対策について

青木 克己

愛媛大学医学部特別講義

2001年12月18日, 愛媛

60) 国際保健医療

嶋田 雅暁

関西医科大学講義

2001年12月18日, 大阪

61) ケニアにおける住血吸虫症の疫学と対策

青木 克己

東京医科歯科大学医学部特別講義

2002年1月11日, 東京

62) マウス肺炎モデルにおける炎症終息過程と肝細胞増殖因子

天野 秀明

第1回九州肺分子病態研究会 九州 Lung Molecular Biology (LMB 研究会)

2002年1月14日, 福岡市

63) 熱帯医学と住血吸虫症対策

青木 克己

大分医科大学特別講義

2002年1月16日, 大分

64) 呼吸器感染症の外来治療 - 今日的問題とその対応 -

永武 毅

伊万里有田地区三師会学術講演会

2002年1月17日, 伊万里市

- 65) 呼吸器感染症の外来治療 - 耐性菌の今日的問題と対応 -
永武 毅
第9回徳島市医師会学術講演会
2002年1月24日, 徳島市
- 66) 蚊学の世界から
高木 正洋
大日本除虫菊(株)本社 社内講演会
2002年1月25日, 大阪
- 67) エビデンスにみる高齢者の呼吸器感染症 - 肺炎・結核の最新診療 -
永武 毅
「老年医学研修会」エビデンス老年病学シリーズ 第3回京都研修会
2002年1月26日, 京都市
- 68) 西太平洋地域の Dengue 熱・ Dengue 出血熱
森田 公一
九州熱帯医学会
2002年1月26~27日, 鹿児島
- 69) 熱帯医学
青木 克己
国際保健学生フォーラム in 鹿児島
2002年1月27日, 鹿児島
- 70) Dengue 熱・ Dengue 出血熱
森田 公一
鹿児島大学多島圏研究センターセミナー
2002年1月28日, 鹿児島
- 71) Liver pathology
Toriyama, Kan
Special lecture, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, Thailand.
February 4, 2002, Chiang Mai, Thailand
- 72) Migration and fertility on Manus: The demographic impact of modernization in a small island population in Papua New Guinea.
Ataka, Yuji
Fertility and Reproduction Seminars, University of Oxford
February 11, 2002. Oxford, UK

- 73) Community Participation: A key for the success of control program of parasitic diseases
Aoki, Yoshiki
Workshop on Program Design and Course
Organization for Global Parasitic Diseases Control in Eastern Africa
February 14, 2002. Nairobi, Kenya
- 74) 寄生虫疾患の重症化に関する遺伝子
平山 謙二
東京医科歯科大学特別講義
2002年2月15日, 東京
- 75) 呼吸器病原性菌の耐性化現状と抗菌化学療法
大石 和徳
長崎県支払基金学術講演会
2002年2月19日, 長崎市
- 76) 難治性呼吸器感染症の実態と治療
永武 毅
感染症シリーズ 大阪府医師会館
2002年2月21日, 大阪市
- 77) 発熱
大渡 伸
長崎国際 TV (NIB) のニュース番組「プラス1」の特集
2002年2月21日放映
- 78) NF-kappa B 阻害剤による HTLV - 1 感染細胞株および ATL 細胞へのアポトーシス誘導
森 直樹
第1回長崎大学 HTLV - 1 研究会
2002年2月23日, 原爆後障害医療研究施設研修室
- 79) 国際社会環境と長崎平和教育
溝田 勉
放送大学長崎学習センター
2002年2月23日, 長崎
- 80) 衛生動物をめぐる最近の話題
高木 正洋
第37回ねずみ衛生害虫駆除技術研修会
2002年2月26日, 大野城

81) 地球環境と生物

鈴木 博

第37回ねずみ衛生害虫駆除技術研修会

2002年2月27日, 大野城

82) Epitope analysis of Japanese encephalitis virus E protein.

森田 公一

インド国立ウイルス研究所講演会

2002年3月1日 プネ, インド

83) ケニアに於ける住血吸虫症対策

青木 克己

第28回大山健康財団賞, 受賞講演

2002年3月7日, 東京

11 熱帯医学研究所公開講座

平成13年度は、長崎大学公開講座の一つとして「熱帯病研究はいかに人類に貢献できるか」と銘打った公開講座で、平成11年度から3年計画で行っている講座の最終年であった。

本年度のテーマは「熱帯という環境に生かされる人間」とし、7月28日(土)に参加者20名を得て行われた。

講演テーマと講演者はそれぞれ次のようなものであった。

蚊における選り好み	高木 正洋
なぜ熱帯性感染症対策が国内外で騒がれ始めたか？	溝田 勉
熱帯環境に生きる体の変化と対策	大渡 伸
ひとは熱帯病とどのように付き合うのか？	嶋田 雅暁

12 主要な研究設備

- 1 アルゴンイオンレーザー
- 2 医用サーモグラフィー装置
- 3 インジェクトスコープ
- 4 ウルトラグリット濃度勾配作成装置
- 5 ウルトラマイクロトーム
- 6 エイズウイルス分離解析システム
- 7 X - プレス細胞破碎装置
- 8 温度勾配バイオフィトレコーダー
- 9 温冷風循環式巡回培養機
- 10 回転電動万能マイクロトーム
- 11 環境制御実験装置
- 12 クリオスタット
- 13 クリニスタットマイクロトーム
- 14 顕微鏡ハイスピードビデオ解析システム
- 15 原虫遺伝子 DNA 解析システム
- 16 抗生物質生体内分布及び治療効果解析システム
- 17 高速液体クロマトグラフ
- 18 高速冷却遠心機
- 19 コンピュータガスコロマトグラフ
- 20 細胞自動解析システム
- 21 三次元画像解析分析システム
- 22 真空高速冷却遠心機
- 23 神経機能データ処理システム
- 24 自記分光光度計
- 25 自動炭酸ガス細胞培養装置
- 26 生体機能解析装置
- 27 全自動高速冷却遠心機
- 28 全自動冷却遠心機
- 29 走査用電子顕微鏡装置
- 30 組織解析システム
- 31 耐酸構造凍結乾燥装置
- 32 体表温度測定システム
- 33 多用途計測記録装置
- 34 蛋白質・細胞相互作用解析システム
- 35 超マイクロトーム
- 36 低温 N₂ - O₂ - CO₂ インキュベーター
- 37 低温恒温室
- 38 DNA シンセサイザーシステム
- 39 デスクトップコンピュータ装置
- 40 電気泳動蛋白分取システム
- 41 電気泳動装置
- 42 二次元電気泳動システム
- 43 反射型蛍光顕微鏡
- 44 バイオハザードセーフティフード
- 45 万能顕微鏡装置
- 46 万能倒立顕微鏡
- 47 微生物全自動増殖解析装置
- 48 病理組織標本作成システム
- 49 分析電子顕微鏡システム
- 50 分離用超遠心機
- 51 プレハブ恒温恒湿室
- 52 プロテインシステム
- 53 密度勾配分析分取装置
- 54 落射型蛍光顕微鏡
- 55 落射蛍光位相差顕微鏡
- 56 ルミフォトメーター
- 57 レーザースキャン顕微鏡
- 58 レーザネフェロメーター
- 59 白血球機能解析システム
- 60 プラスミド自動分離調整システム
- 61 プレップセルクロマトグラフィーシステム BOX
- 62 病理組織中の抗原・遺伝子検出システム
- 63 感染症病原性解析システム
- 64 熱帯病原体成分機能解析システム
- 65 高分解能核磁気共鳴装置
- 66 病原性ウイルス遺伝子及び蛋白質の機能解析システム
- 67 多機能蠕虫行動解析システム
- 68 熱帯性ウイルス感染症の診断試薬作成システム
- 69 病原性原虫表面蛋白質の生化学的機能解析装置
- 70 NMR 測定用生体管理装置
- 71 抗糸状虫薬スクリーニングシステム
- 72 生物顕微鏡
- 73 超遠心機
- 74 核酸オリゴマー感染症治療薬開発システム

13 刊 行 物

1) Tropical Medicine

当研究所が発行する機関誌で、熱帯医学の原著論文のほかに短報や総説などが掲載されることもある。本誌は長崎大学風土病紀要として昭和34年に創刊されたものであるが、昭和42年に研究所名が改められたときに Tropical Medicine (熱帯医学) と変更され、さらに平成元年からは英文のみの雑誌として現在の誌名となった。毎年4号分を1巻として平成12年度には第42巻が発行されたが、平成13年度から休刊中である。

2) 長崎大学熱帯医学研究所年次要覧

昭和39年3月、当研究所の沿革および研究活動をまとめた最初の「長崎大学風土病研究所年次要覧、昭和38年度」が刊行された。その後、昭和42年の研究所名改称に伴う標記表題への変更はあったが、昭和45年度まで毎年刊行された。昭和46年度から54年度までの分はまとめて昭和56年3月に発行された。昭和55年度から再び毎年発行されることになり現在に至っている。平成12年度年次要覧は平成13年3月に発行された。

3) 長崎大学熱帯医学研究所 Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University

国内および外国からの来訪者に対する当研究所の紹介パンフレットとして、長崎大学熱帯医学研究所案内 (A Guide to the Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University) が昭和55年12月に最初に発行された。その後一部改訂されたものが随時発行されてきた。平成元年10月には、当研究所が共同利用研究所に改組されたのを機会に、標記のように表題を改めカラー印刷として発行され、その後は毎年発行されることになった。平成6年度に研究所の機構が大部門制に改組されたのを機に、このパンフレットはB5判からA4判に改められ、また和文版と英語版を別々に作成することになった。平成13年度版は6月に発行された。

4) 長崎大学熱帯医学研究所共同研究報告集

この報告集は、当研究所が平成元年に全国共同利用研究所に改組されたのに伴い、毎年実施される共同研究と研究集会の概要をまとめたものである。平成12年度の報告集は、平成13年7月に発行された。

長崎大学熱帯医学研究所年次要覧
平成13年度（2001）

平成15年1月発行

編集者：長崎大学熱帯医学研究所
附属熱帯感染症研究センター

発行者：長崎大学熱帯医学研究所
〒852 8523 長崎市坂本1丁目12-4
☎(095)849 7800（総合案内）

印刷所：株式会社 昭和堂
〒850 0875 長崎市栄町6-23 昭和堂ビル
☎(095)821 1234